

デートDVについての意識・実態調査報告書

平成 20 年 3 月

横浜市 市民活力推進局

目 次

調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 本報告書を読む際の留意事項	2

調査結果の概要

< 高校生・大学生 >

1. 回答者の属性	3
2. DV及びデートDVの認知度	5
3. 交際相手からの行為に対する暴力の認識及びワークショップ受講後の変化	7
4. 交際経験の割合	9
5. デートDVの実態（被害経験・加害経験・周囲で見聞きした割合）	10
6. デートDVに対する行動とワークショップ受講後の変化	23
7. ワorkshopを受講する時期	38
8. ワorkshop受講前後のデートDVや暴力に対する意識の変化	39
9. ワorkshopを受講することの効果	41
10. 自由記述（デートDVについての意見や感想）	43

< 教職員 >

1. 回答者の属性	47
2. DV及びデートDVの認知度	48
3. 生徒からの恋愛や男女交際についての相談	50
4. 生徒のデートDVを見聞きした割合	51
5. 生徒からのデートDVの相談	53
6. 生徒から相談を受けたときの対応	55
7. デートDVが起こる背景について	56
8. デートDVについての予防啓発時期	57
9. 自由記述（デートDVについて）	59

結果と考察 ~ 今後に向けて ~

1. 若年層におけるデートDVの実態	61
2. 予防啓発プログラムの効果と課題	62

調査票

1. 生徒用	63
2. 教職員用	67

調査の概要

調査の概要

1. 調査の目的

女性に対する暴力の根絶のためには、被害者の保護及び加害者の厳正な処罰だけではなく、暴力の発生を未然に防ぐための取組が不可欠である。女性に対する暴力のうち、配偶者等からの暴力を未然に防ぐためには、暴力的でない付き合い方や男女の対等なパートナーシップについて学ぶことが重要である。このため、暴力の加害者及び被害者となることを防止する観点から、特に若年層を対象とした予防啓発プログラムが必要となる。

本調査では、若年層における交際相手からの暴力(デートDV)についての意識・実態と効果的な予防啓発の在り方について、高校生及び大学生等と教職員の双方の視点から調査する。

なお、本調査は、内閣府男女共同参画局の「地域における女性に対する暴力の予防啓発に関する調査研究」として、横浜市が委嘱を受け、特定非営利活動法人エンパワメントかながわの協力を得て実施した。

2. 調査の設計

< 高校生・大学生 >

調査対象：横浜市内の高校4校(すべて共学)の高校生 612 人、及び大学や専門学校等 3 校の学生(以下、「大学生」という。)310 人の計 922 人

調査方法：予防啓発プログラム提供後、調査票を配布・回収

(ア) 調査票の配布・回収は、予防啓発プログラムを提供した特定非営利活動法人エンパワメントかながわが担当

【参 考】 予防啓発プログラムの実施内容

実施方法：クラス単位の参加型ワークショップ形式

5～6 人のグループに分け、意見交換・発表を行なう。

時 間：50 分×2 回(続けて、又は 2 日に分けて実施する)

講 師：特定非営利活動法人エンパワメントかながわスタッフ 3 人

内 容： 1 回目(50 分)「デートDV」について

どこにでもありそうな恋人同士の会話を題材とした寸劇から、デートDVが身近にも起こることに気づかせ、デートDVの定義と共に、暴力の種類、DVの特徴、被害にあった時の対処法を学ぶ。

2 回目(50 分)「デートDVを予防するコミュニケーション・スキル」について

暴力のない対等な関係を築くために、互いの気持ちを尊重しあえるコミュニケーションの方法を、恋人同士の会話からグループワークで考える。

調査期間：2007 年 6 月 8 日～12 月 4 日

調査内容：DV 及びデートDVの認知度

交際相手からの行為に対する暴力の認識とワークショップ受講後の変化

交際経験の割合

デートDVの実態(被害経験・加害経験・周囲で見聞きした割合)
デートDVに対する行動とワークショップ受講後の変化
ワークショップを受講する時期
ワークショップを受講することによるデートDVや暴力に対する意識の変化
ワークショップを受講することの効果

<教職員>

調査対象：横浜市内の県立・市立・私立高校(いずれも共学)の教職員 計 497 人
調査方法：郵送又はデートDV予防啓発に関する教職員向け研修時に配布・回収
調査期間：2007年8月23日～12月11日
調査内容：DV及びデートDVの認知度
生徒からの恋愛や男女交際の相談
職場での生徒のデートDVの見聞き
生徒からのDVについての相談
相談を受けたときの対応
デートDVが起こる背景
デートDVについての予防啓発時期

3. 本報告書を読む際の留意事項

- (1) 断りのない限り、百分比は回答者数(N)を100%として算出した。小数点第2位を四捨五入したため百分比の合計が100%にならない場合がある(「N」は各設問の回答者数を示す。)。ただし、回答数の少ない設問に関しては、構成比ではなく実数で示す場合がある。
- (2) 1回答者が二つ以上の回答をすることができる質問では、回答率の合計が100%を超えることがある。
- (3) 属性別のグラフでは、属性の無回答を除いて掲示していることがある。この場合、総数あるいは合計には無回答を含んだ数値を用いている。

調査結果の概要
< 高校生・大学生 >

調査結果の概要 < 高校生・大学生 >

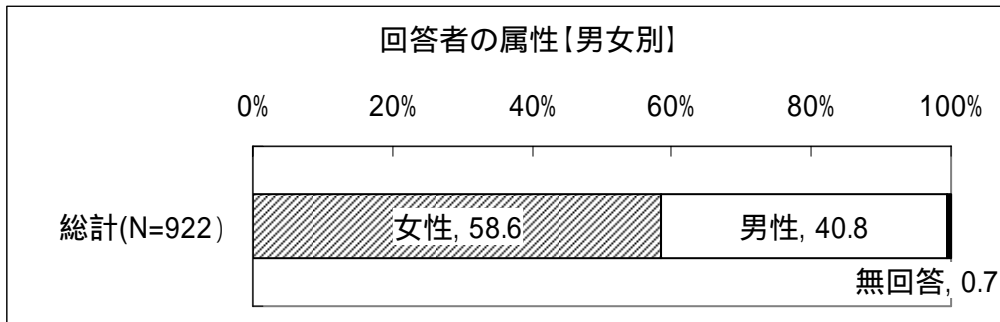
1. 回答者の属性

本調査における高校生・大学生の回答総数は922人、うち女性540人(58.6%)、男性376人(40.8%)である。

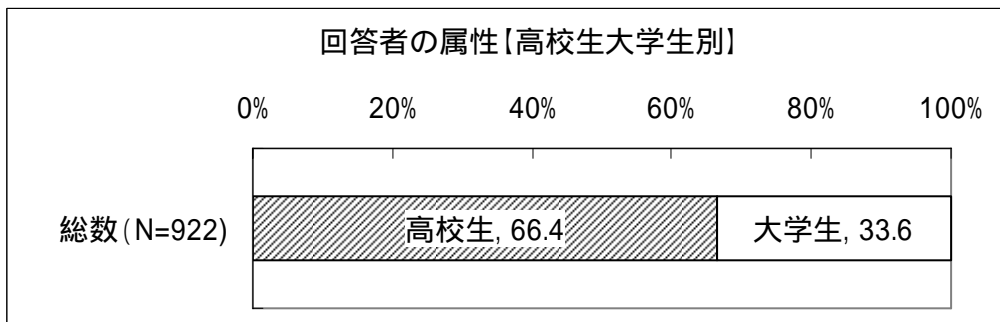
高校生と大学生別にみると、高校生612人(66.4%)、大学生310人(33.6%)である。それぞれを男女別にみると、高校生では、女性319人(52.1%)、男性288人(47.1%)、大学生では、女性221人(71.3%)、男性88人(28.4%)である。

学年構成は、高校1年が548人(59.4%)、大学1年144人(15.6%)、大学2年123人(13.3%)、高校2年64人(6.9%)、大学3年28人(3.0%)、大学4年9人(1.0%)である。

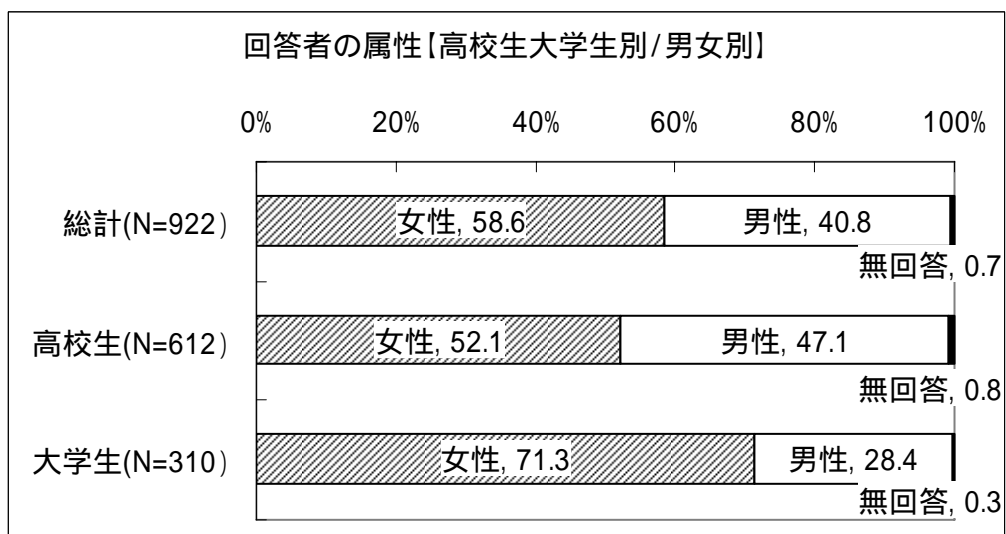
1) 男女別



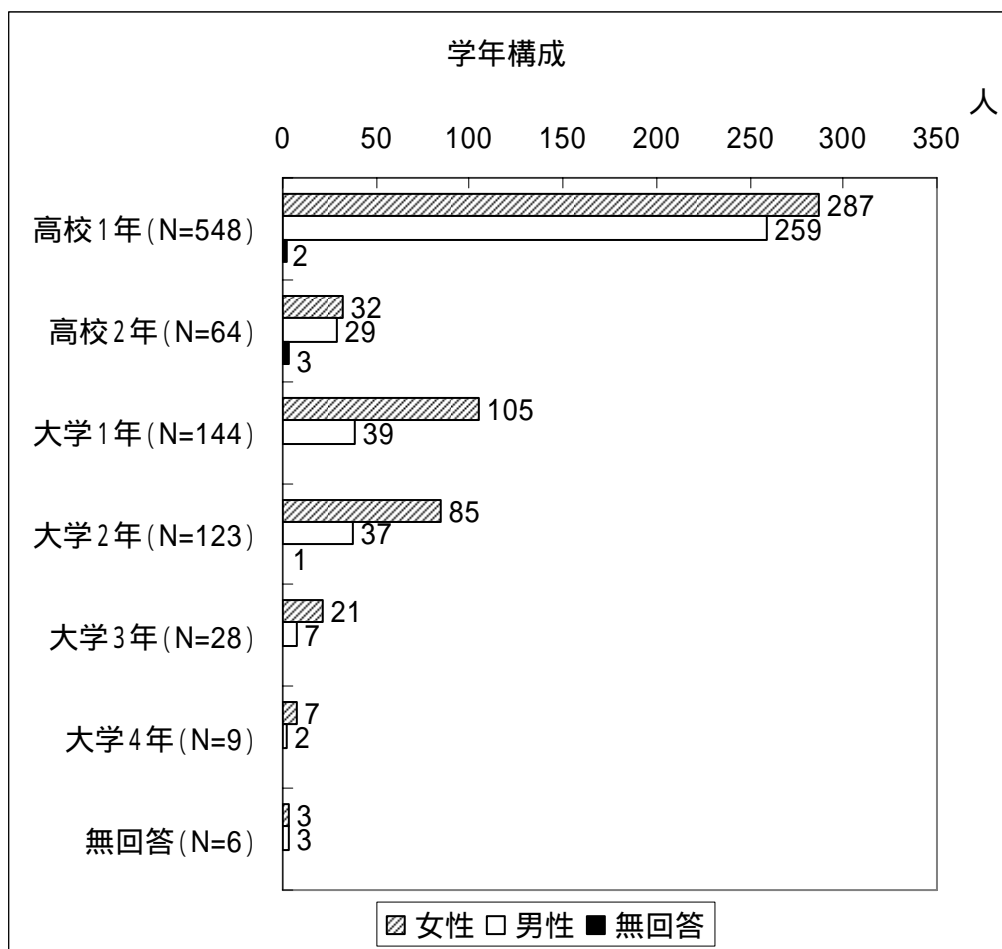
2) 高校生・大学生別



3) 高校生・大学生別の男女別



4) 学年構成

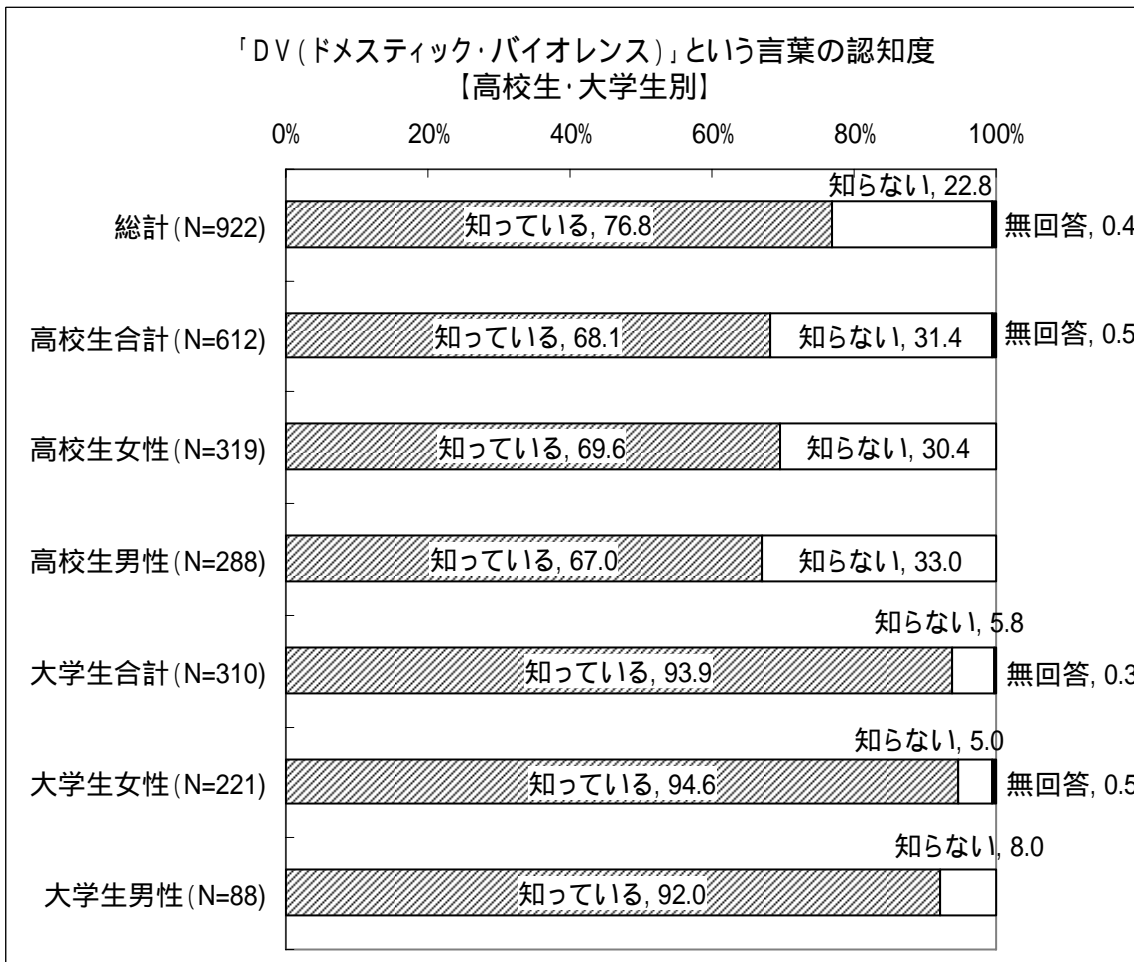
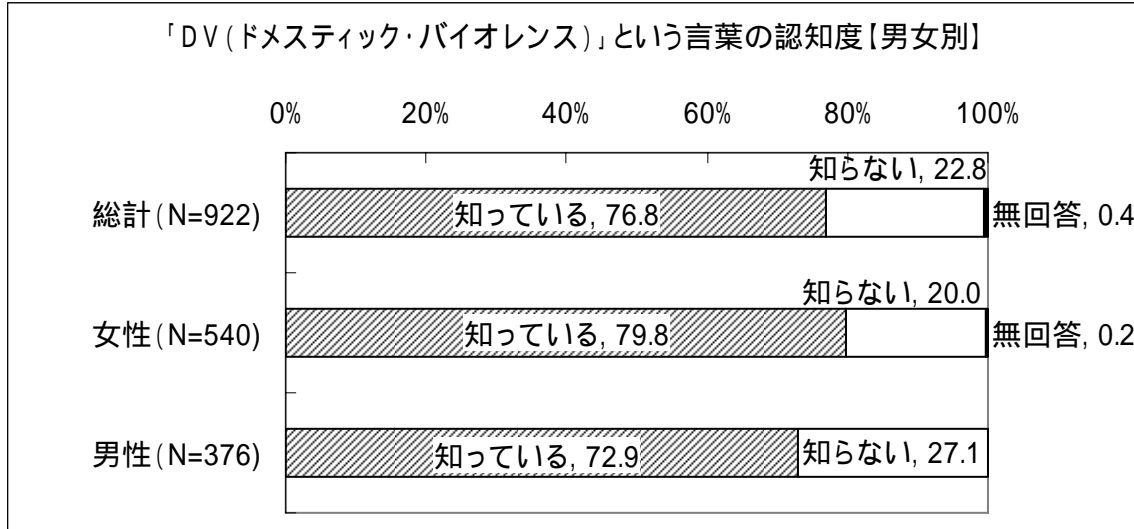


2. DV及びデートDVの認知度

1) 「DV(ドメスティック・バイオレンス)」という言葉の認知度

「DV(ドメスティック・バイオレンス)」という言葉、このワークショップを受ける前から知っていたか」という問い(認知度)について、「はい」と答えた人は76.8%、「いいえ」と答えた人は22.8%である。

男女別にみると、女性79.8%、男性72.9%、高校生・大学生別にみると、高校生68.1%、大学生93.9%で「DV(ドメスティック・バイオレンス)」という言葉を知っている。

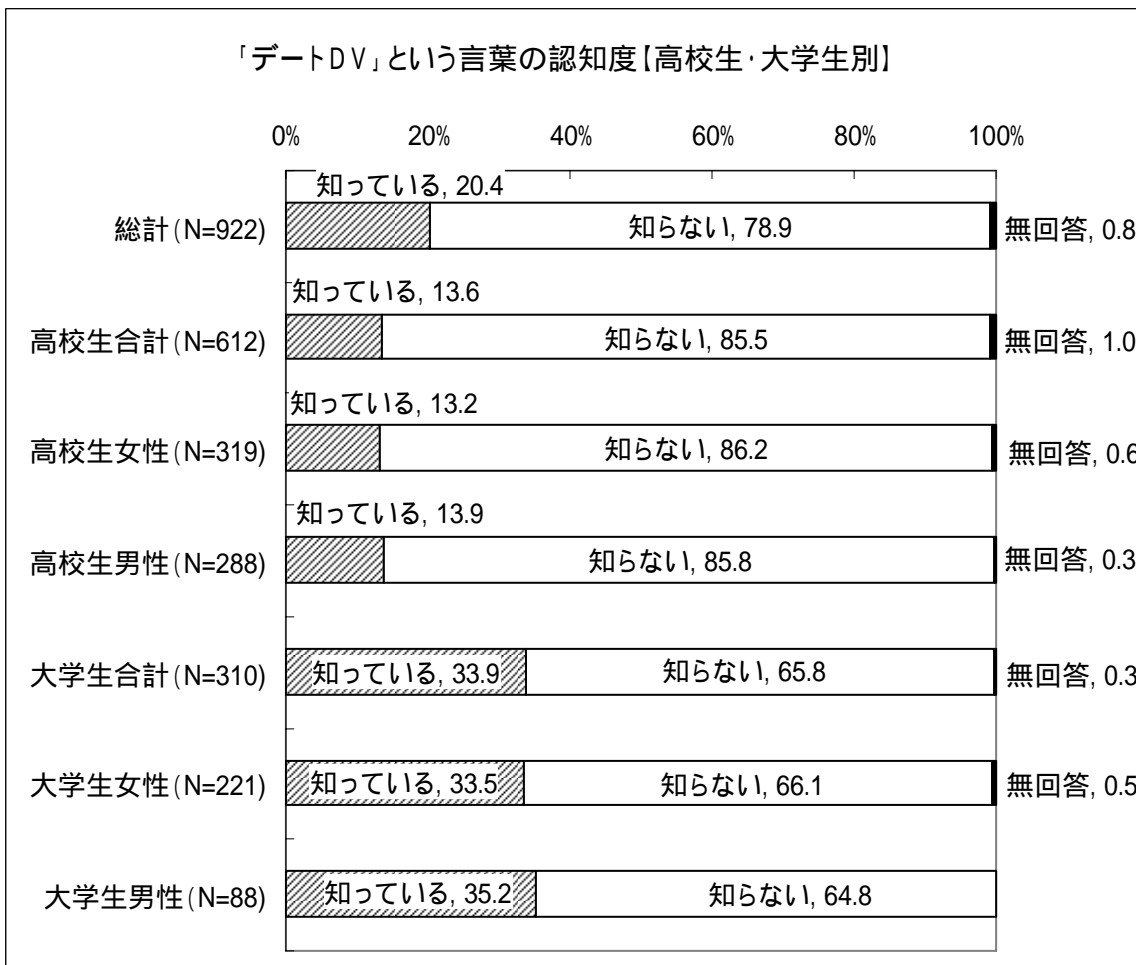
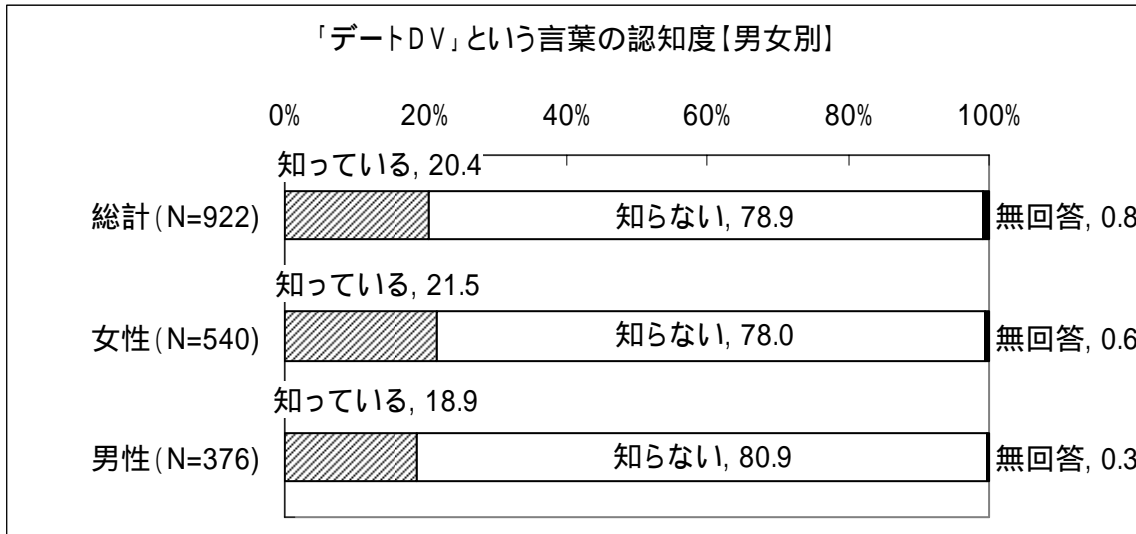


2)「デートDV」という言葉の認知度

「デートDV」という言葉を、このワークショップを受ける前から知っていたかという問いについて、「はい」と答えた人は20.4%、「いいえ」と答えた人は78.9%である。

男女別にみると、女性は21.5%、男性は18.9%である。

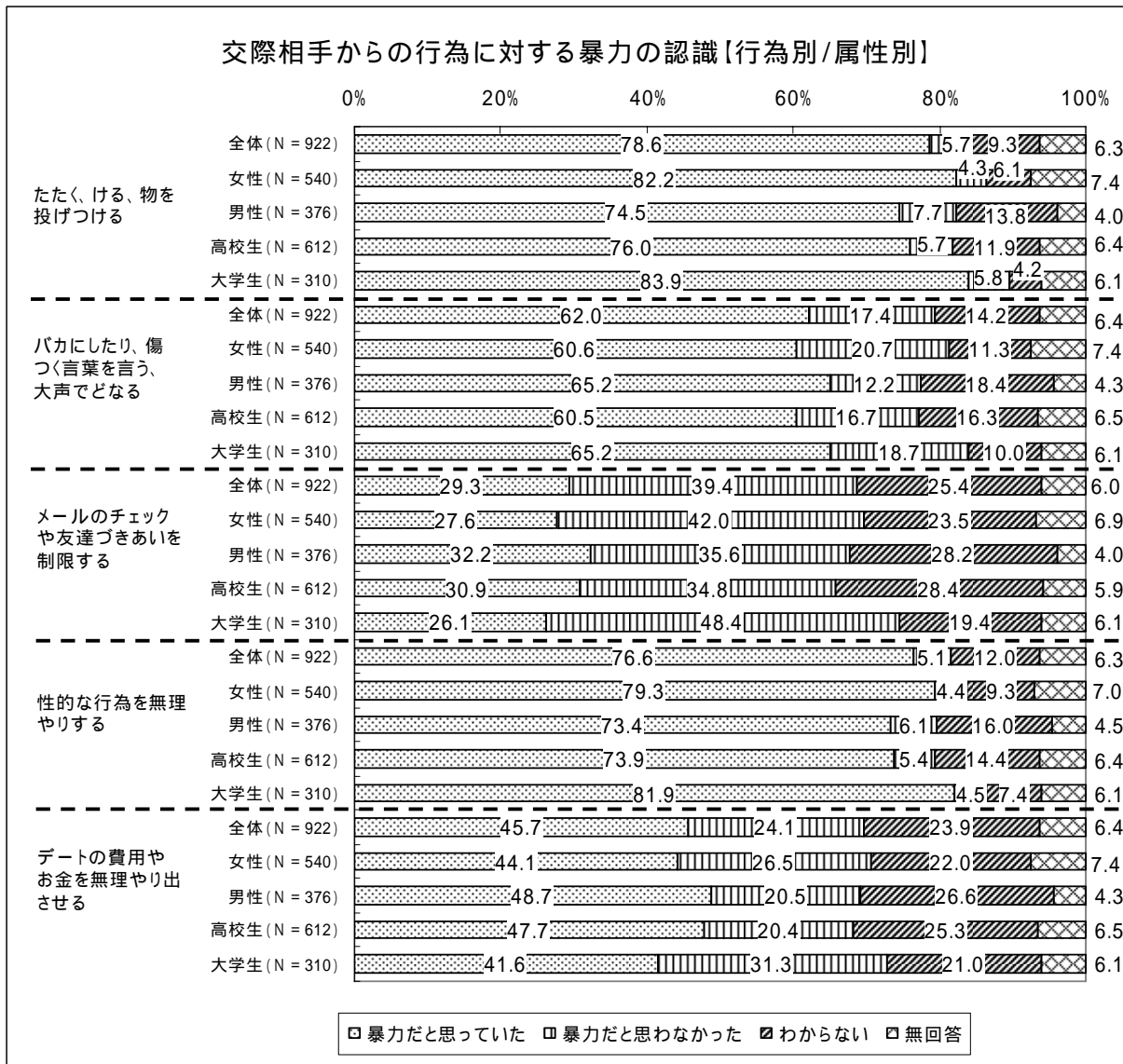
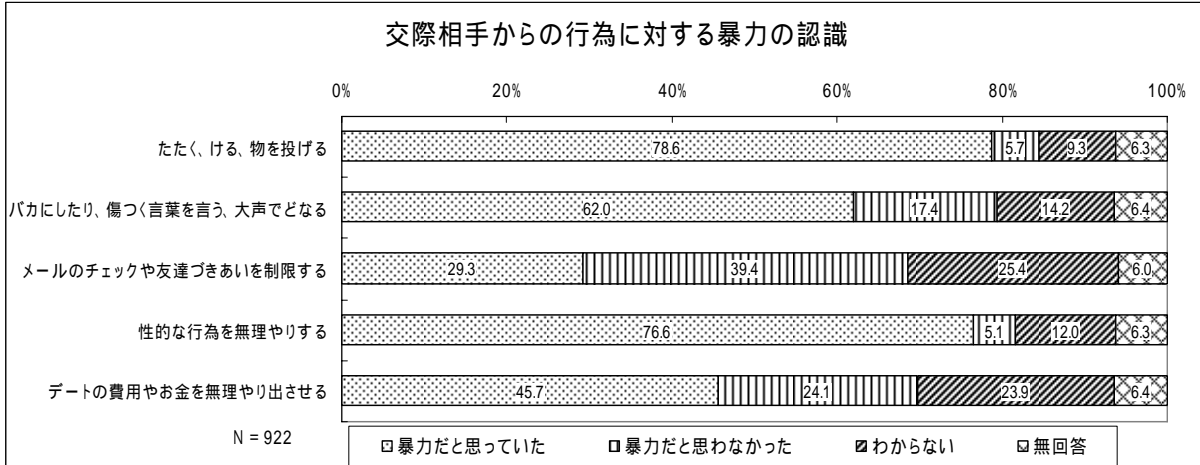
高校生・大学生別にみると、高校生は13.6%、大学生は33.9%である。



3. 交際相手からの行為に対する暴力の認識及びワークショップ受講後の変化

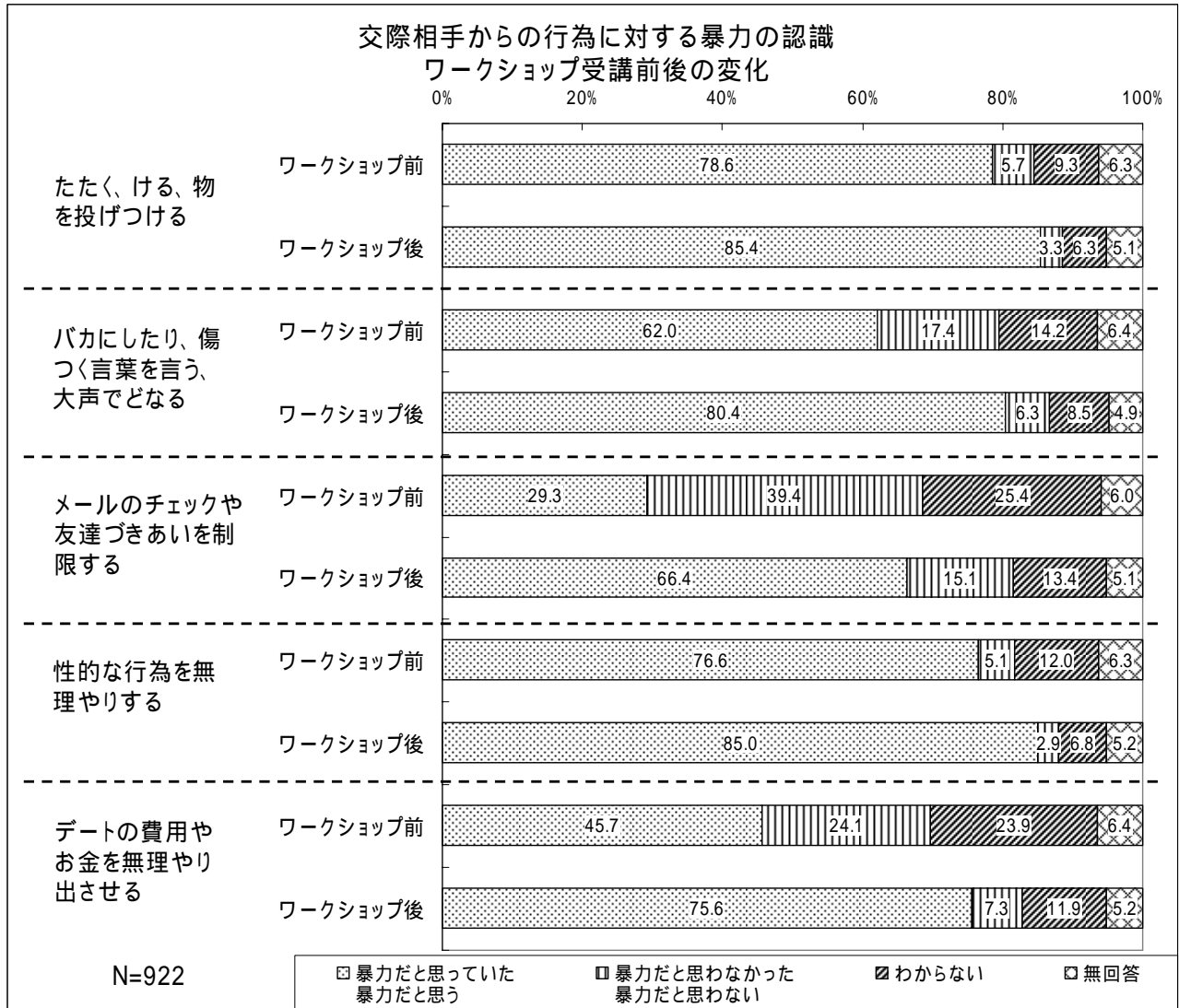
1) 行為別の暴力の認識

交際相手からの5つの行為について、今回のワークショップを受ける前から「暴力」だと思っていたかを聞いてみた。「暴力だと思っていた」割合が高い順でみると、「たたく、ける、物を投げつける」78.6%、「性的な行為を無理やりする」76.6%、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」62.0%となっており、「デートの費用やお金を無理やり出させる」45.7%と「メールのチェックや友達づきあいを制限する」29.3%は、他の行為に比べて低くなっている。



2) ワークショップ受講後の変化

先に聞いた、交際相手からの5つの行為が「暴力」と思うかどうかについて、ワークショップ受講後の変化を聞いたところ、いずれの行為も「暴力だと思う」割合が高くなっている。特に、「メールのチェックや友達つきあいを制限する」、「デートの費用やお金を無理やり出させる」については、ワークショップ受講後にそれぞれ37.1ポイント、29.9ポイント高くなっている。

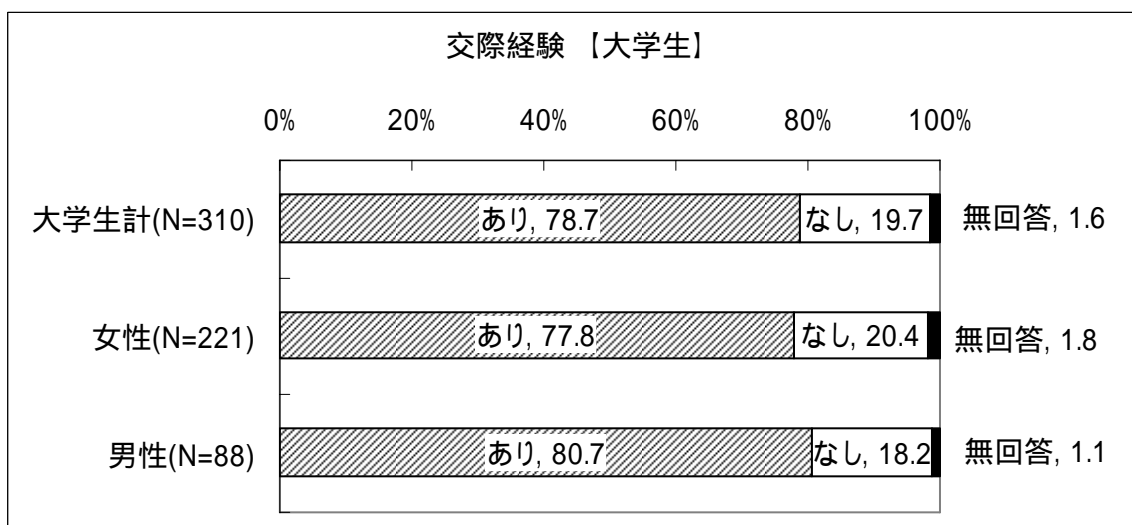
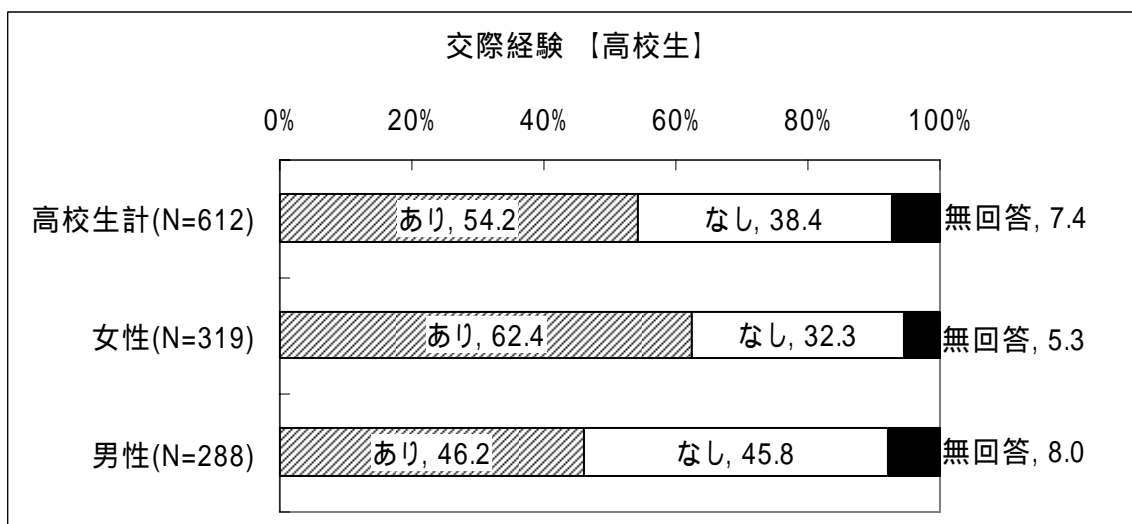
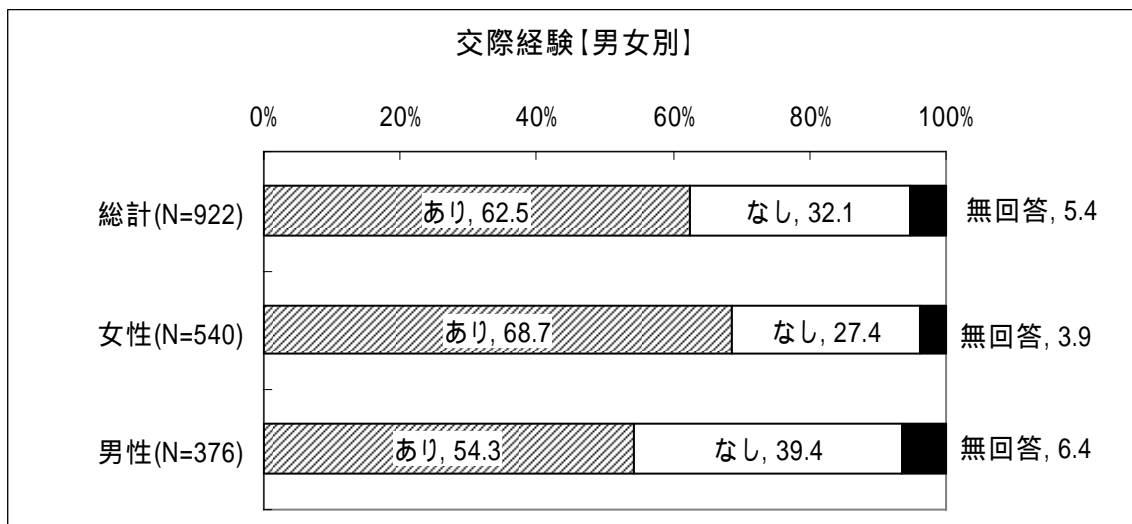


4. 交際経験の割合

今までに交際したことがあるかどうかを聞いたところ、「はい」と回答した人は 62.5%、「いいえ」と回答した人は 32.1%であった。

男女別では、女性 68.7% に対し、男性 54.3% であった。

高校生・大学生別では、高校生 54.2% に対し、大学生 78.7% であった。



5.デートDVの実態（被害経験・加害経験・周囲で見聞きした割合）

1)デートDVの被害経験

(1)ひとつでも(いずれかの行為の)被害経験がある割合

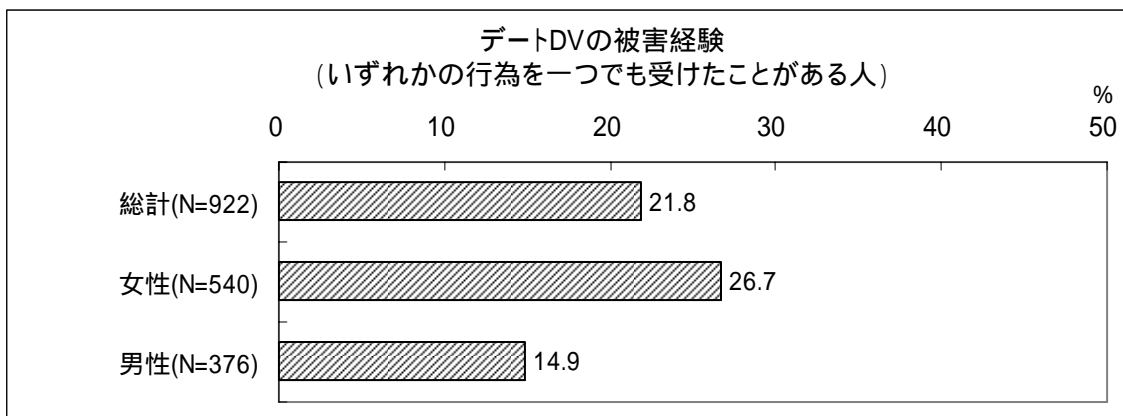
デートDVの5つの行為（「たたく、ける、物を投げつける」、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」、「メールのチェックや友達づきあいを制限する」、「性的な行為を無理やりする」、「デートの費用やお金を無理やり出させる」）をあげて、「されたかもしれない」かどうかを聞いたところ、いずれかの行為を1つでも「されたかもしれない」と答えた人（被害経験）は21.8%である。

男女別でみると、女性は26.7%、男性では14.9%と、女性の方が被害経験の割合が高い。

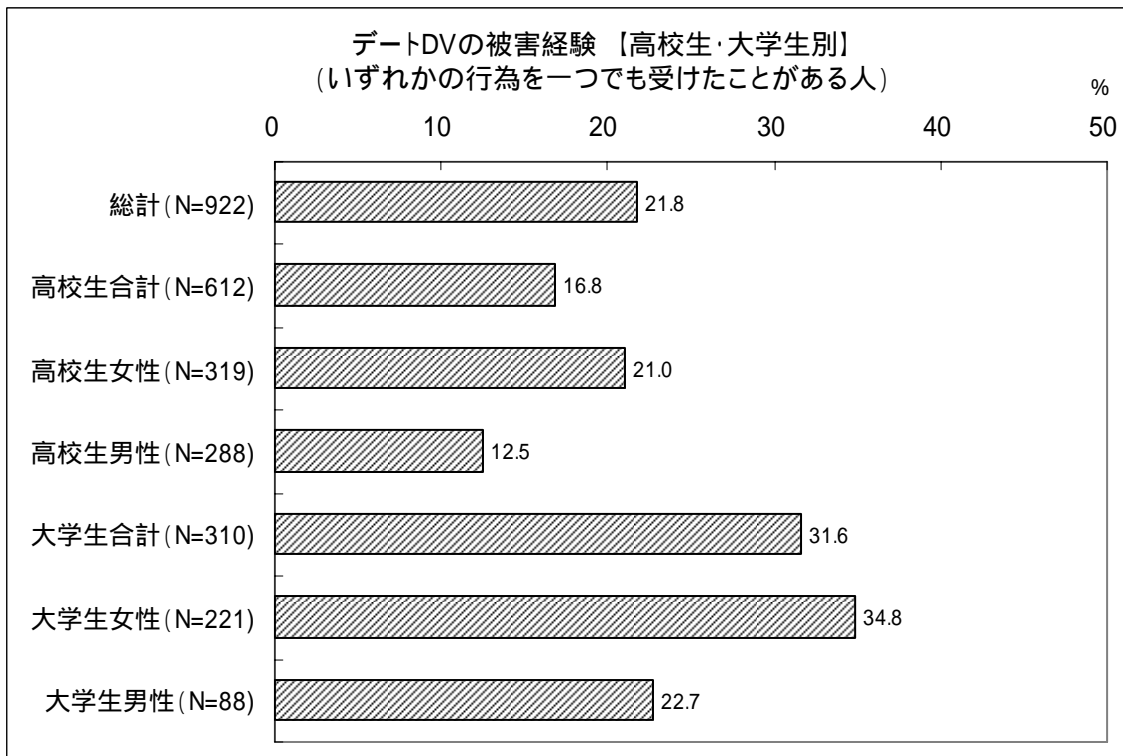
高校生・大学生別にみると、高校生16.8%、大学生31.6%と、大学生の方が被害経験の割合が高い。

行為別にみると、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」13.7%、「メールのチェックや友達づきあいを制限する」13.0%は、他に比べて被害経験の割合が高くなっている。また、「性的な行為を無理やりする」行為も含めたこれら3つの行為は、女性の方が男性に比べて被害経験の割合が5～8ポイント程度高い。

全体と男女別

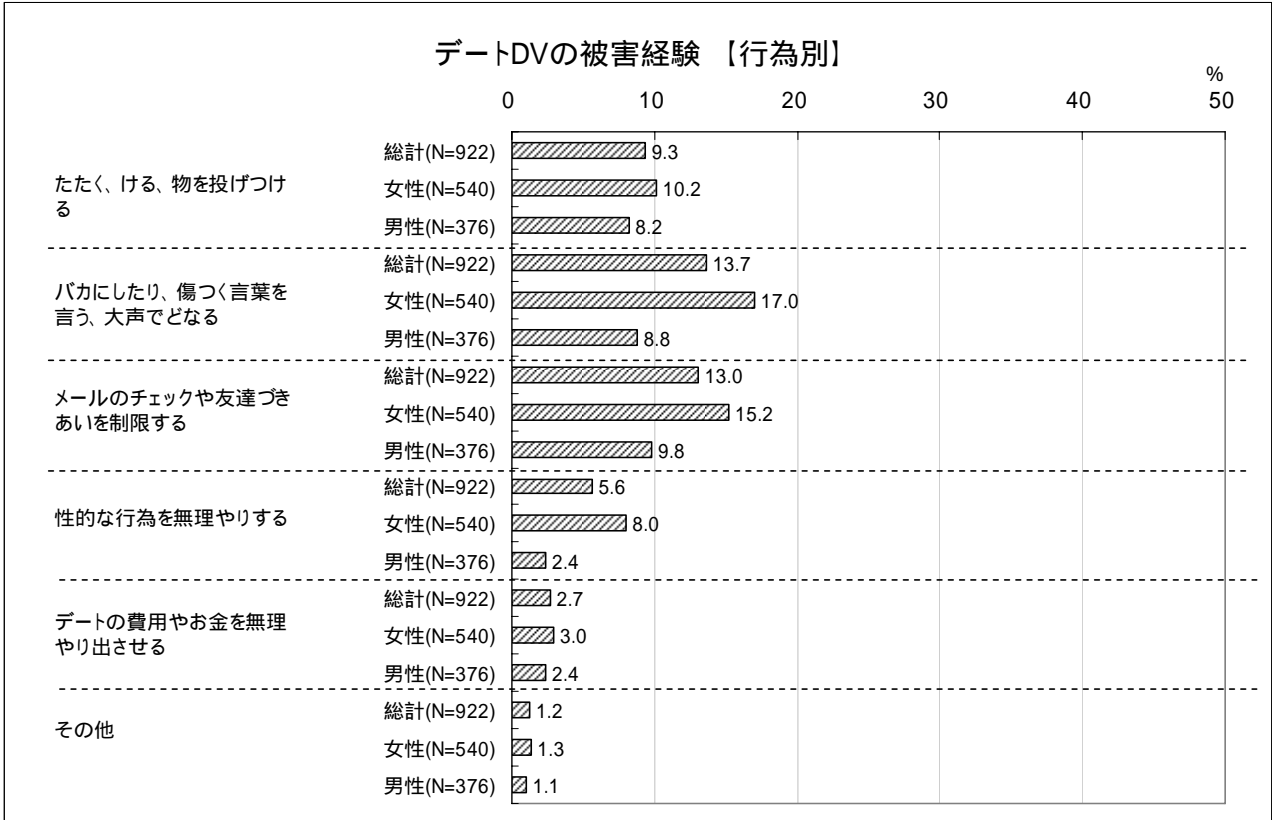


高校生・大学生別

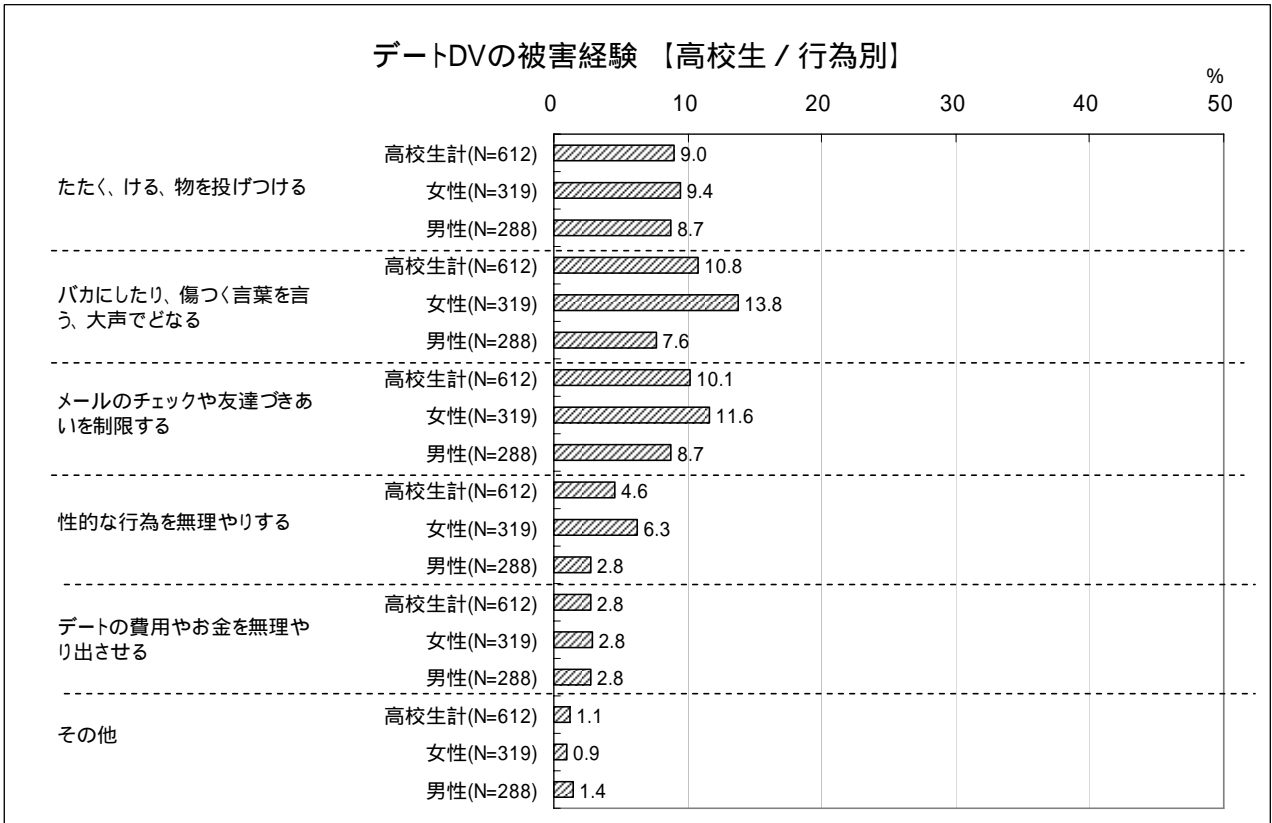


行為別

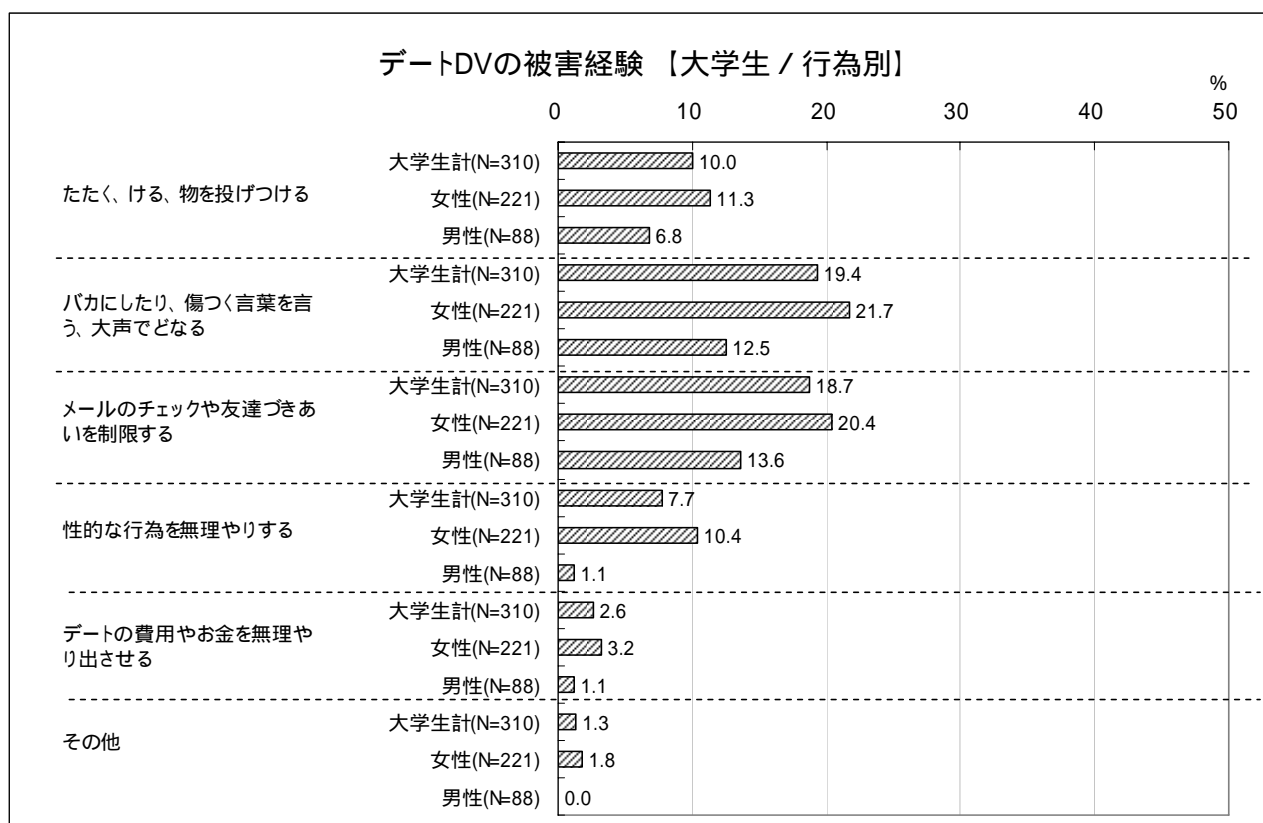
ア 全体と男女別



イ 高校生



ウ 大学生



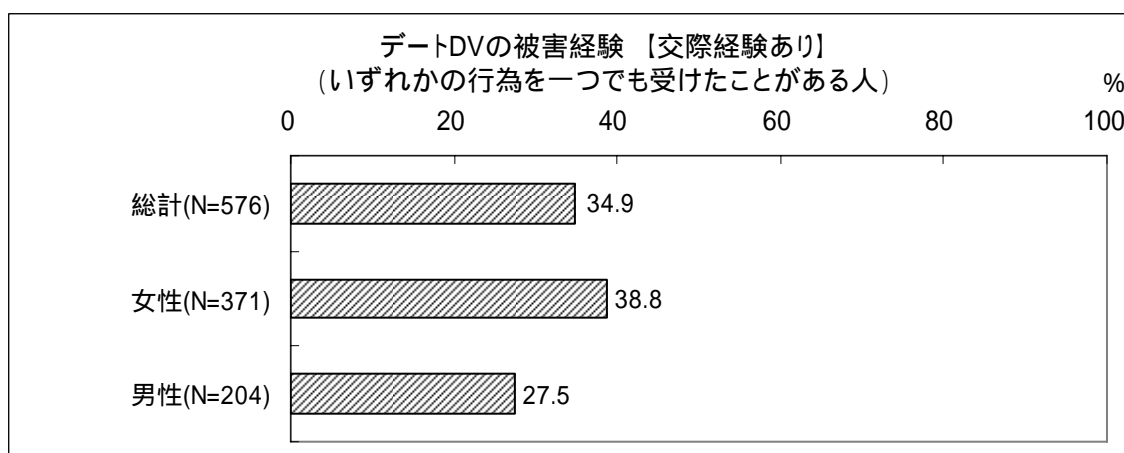
(2)「交際経験ある人」の被害経験の割合

交際経験のある人のうち、デートDVのいずれかの行為を1つでも「されたかもしれない」と答えた人(被害経験)は34.9%である。女性では38.8%、男性では27.5%と女性の方が男性よりも被害経験の割合が高い。

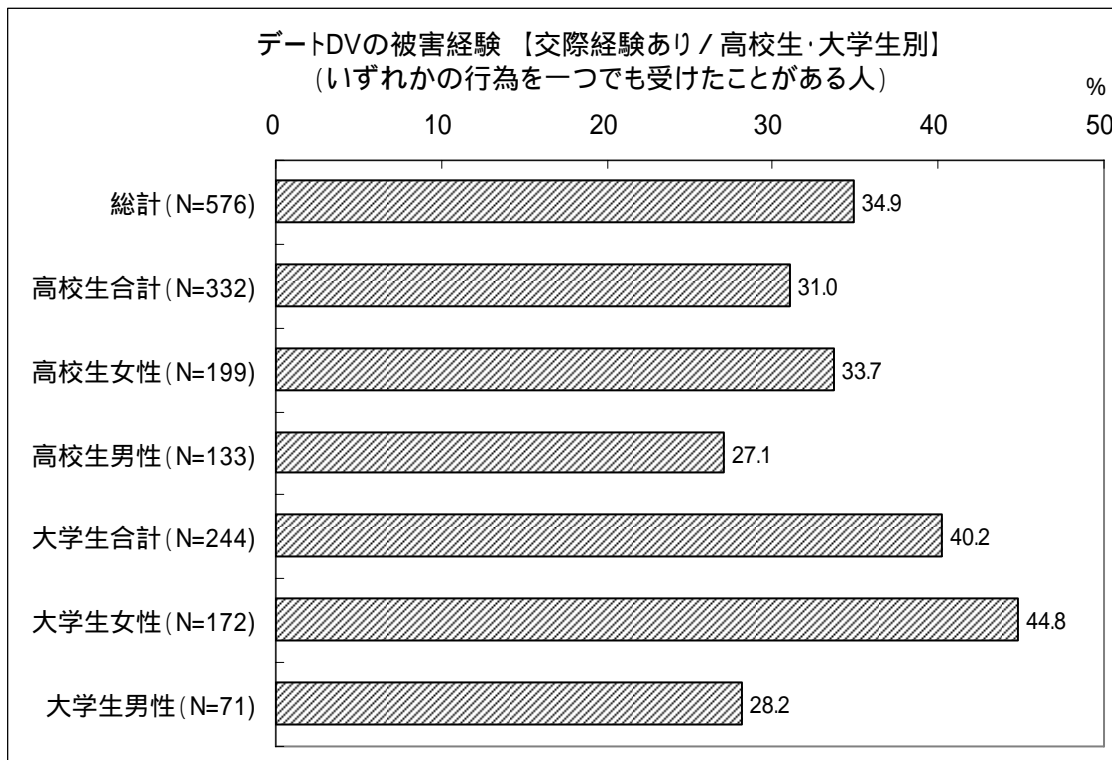
高校生・大学生別にみると、高校生の被害経験は31.0%で、うち高校生女性は33.7%、高校生男性は27.1%である。大学生の被害経験は40.2%で、うち大学生女性は、44.8%、大学生男性は28.2%である。

行為別にみると、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」21.9%、「メールのチェックや友達づきあいを制限する」20.8%では、被害経験がそれぞれ2割を超え、交際経験がある人の5人に1人の割合となっている。また、「性的な行為を無理やりする」は、女性の11.6%で被害経験があり、交際経験がある女性の10人に1人の割合となっている。

全体と男女別【交際経験あり】

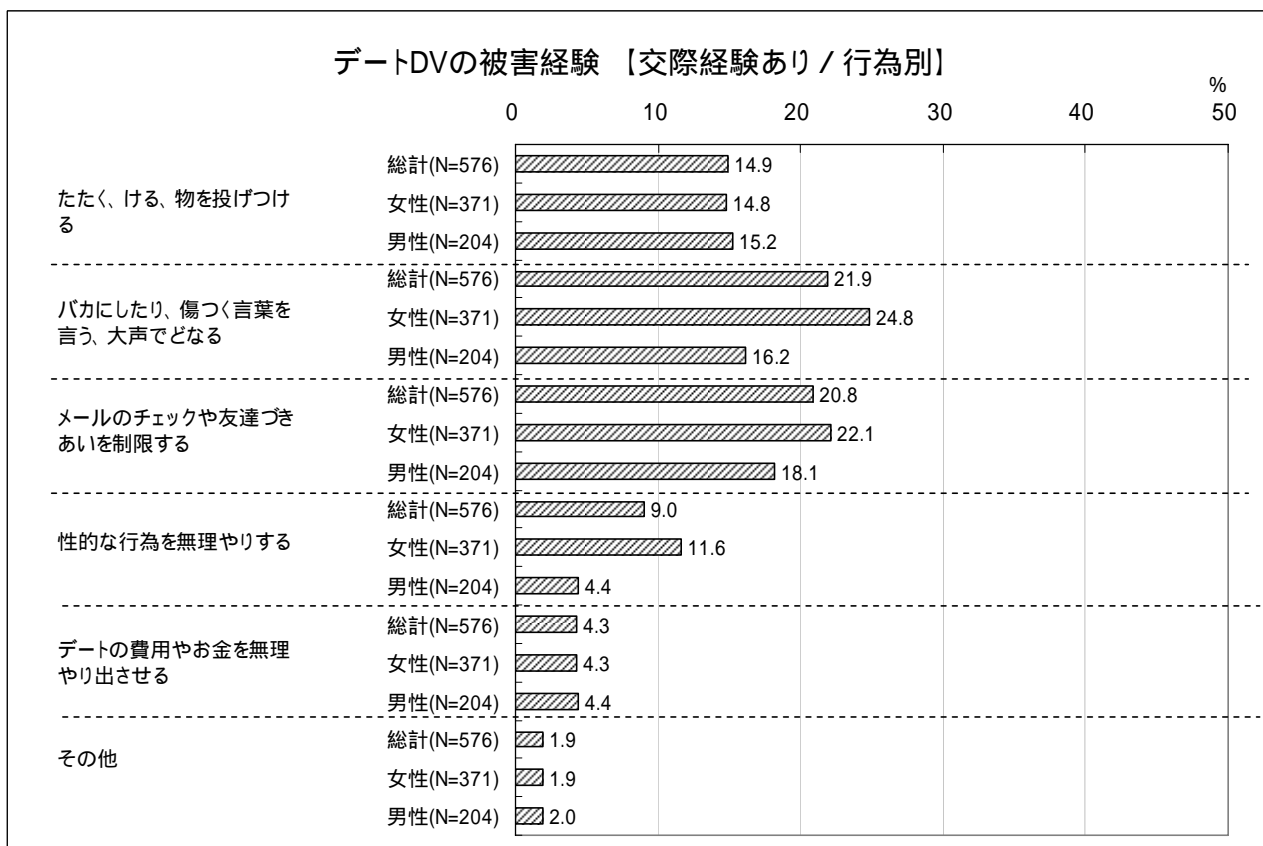


高校生・大学生別【交際経験あり】

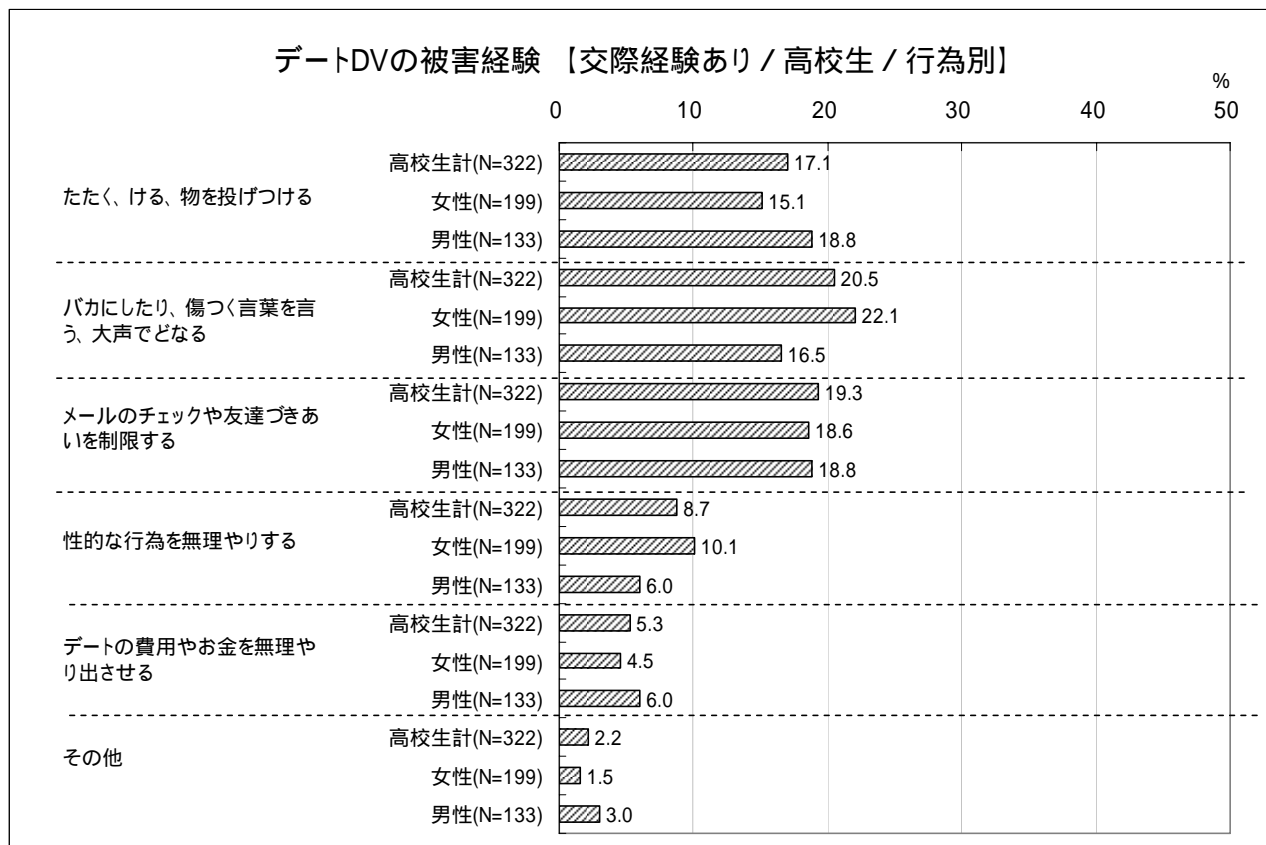


行為別【交際経験あり】

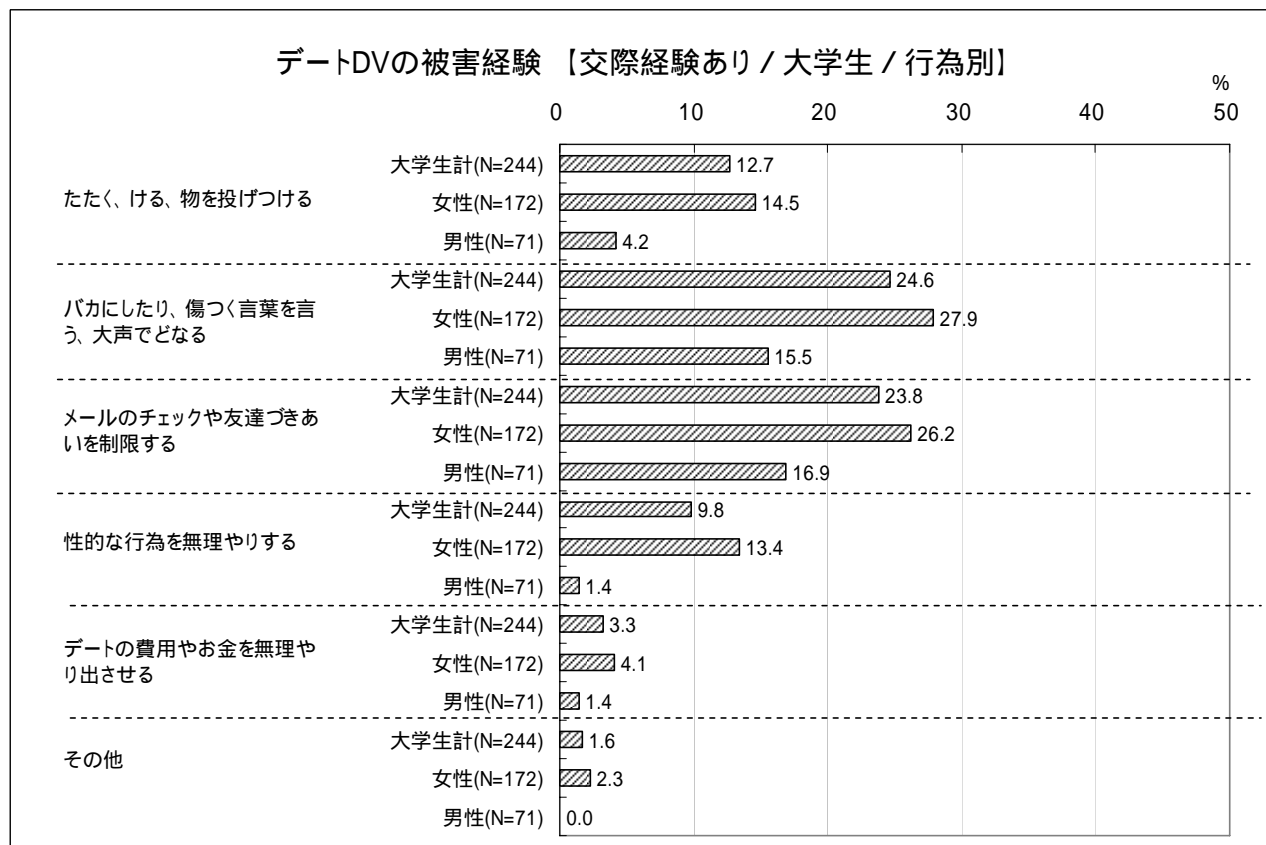
ア 全体と男女別



イ 高校生



ウ 大学生



2)デートDVについての加害経験

(1)ひとつでも(いずれかの行為を)加害経験がある割合

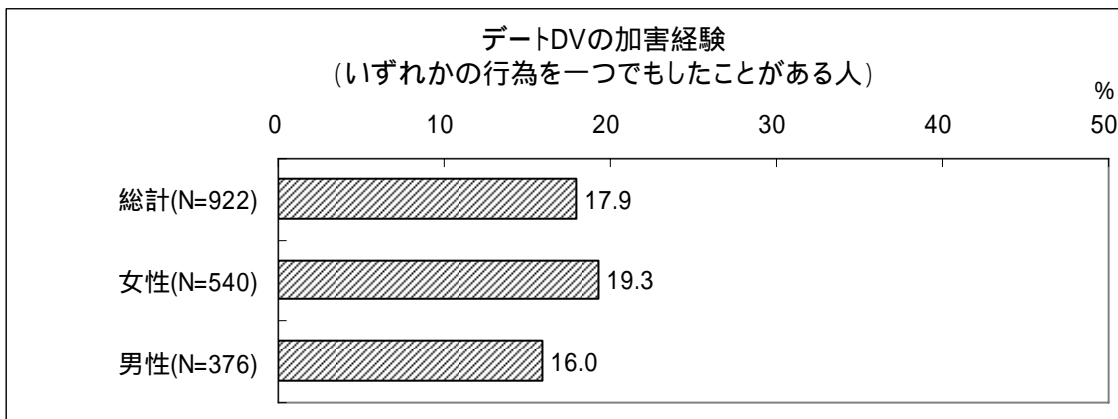
デートDVの5つの行為(「たたく、ける、物を投げつける」、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」、「メールのチェックや友達づきあいを制限する」、「性的な行為を無理やりする」、「デートの費用やお金を無理やり出させる」)をあげて、「したかもしれない」かどうかを聞いたところ、いずれかの行為を1つでも「したかもしれない」と答えた人(加害経験)は17.9%である。

男女別でみると、女性19.3%、男性16.0%であった。

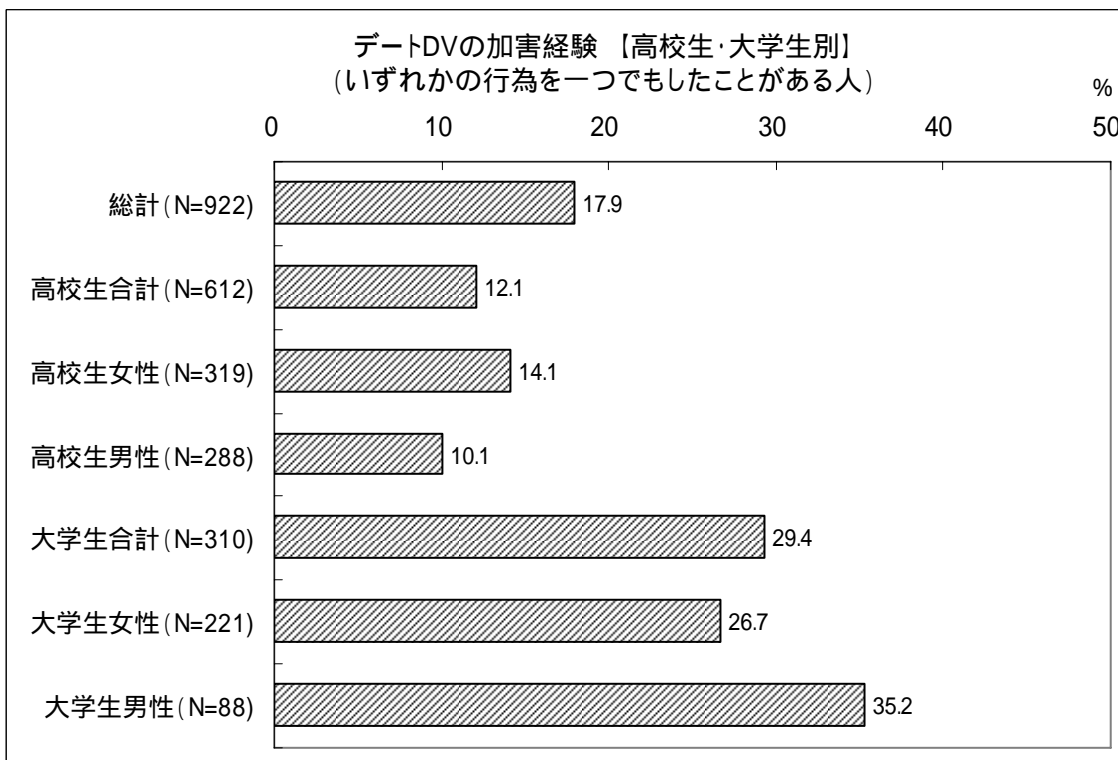
高校生・大学生別でみると、高校生12.1%、大学生29.4%と、大学生で加害経験の割合が高い。

行為別にみると、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」13.6%は、他に比べて加害経験の割合が高くなっている。

全体と男女別

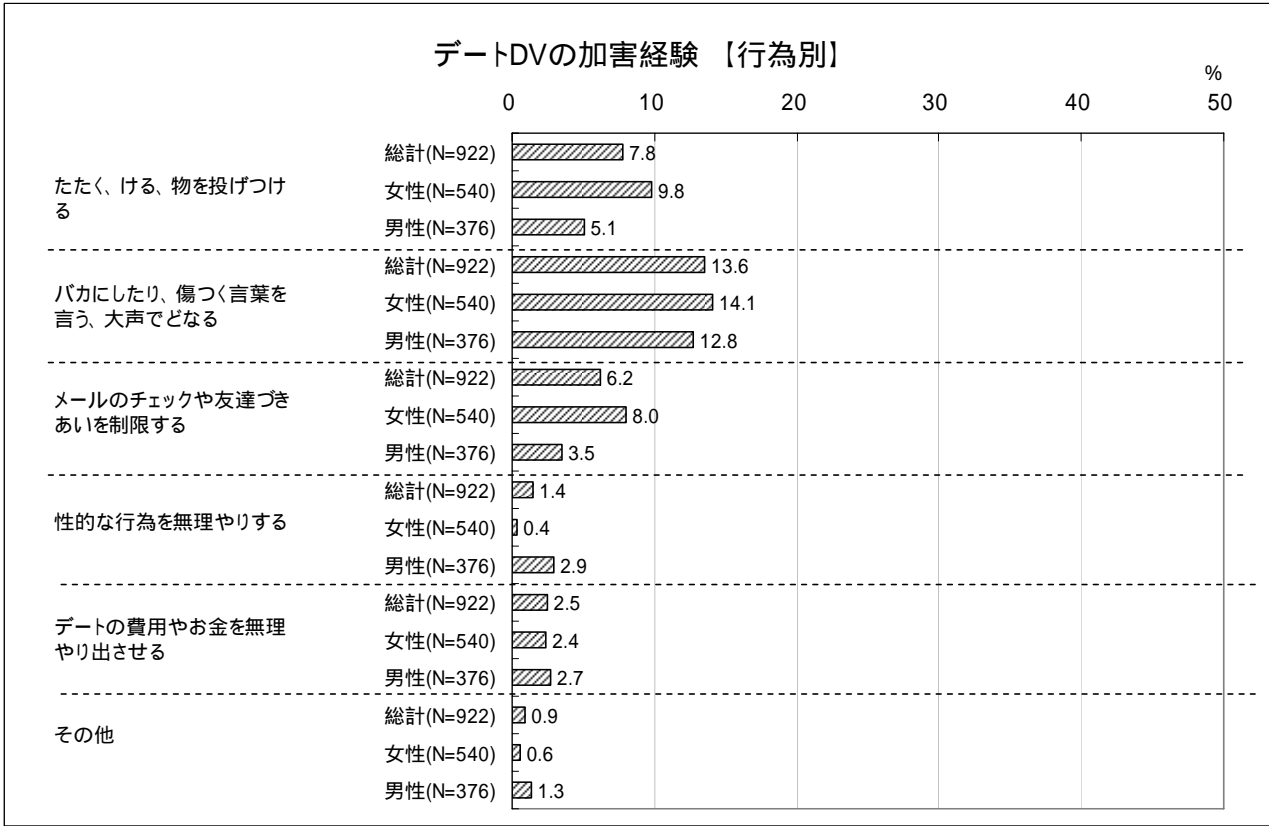


高校生・大学生別

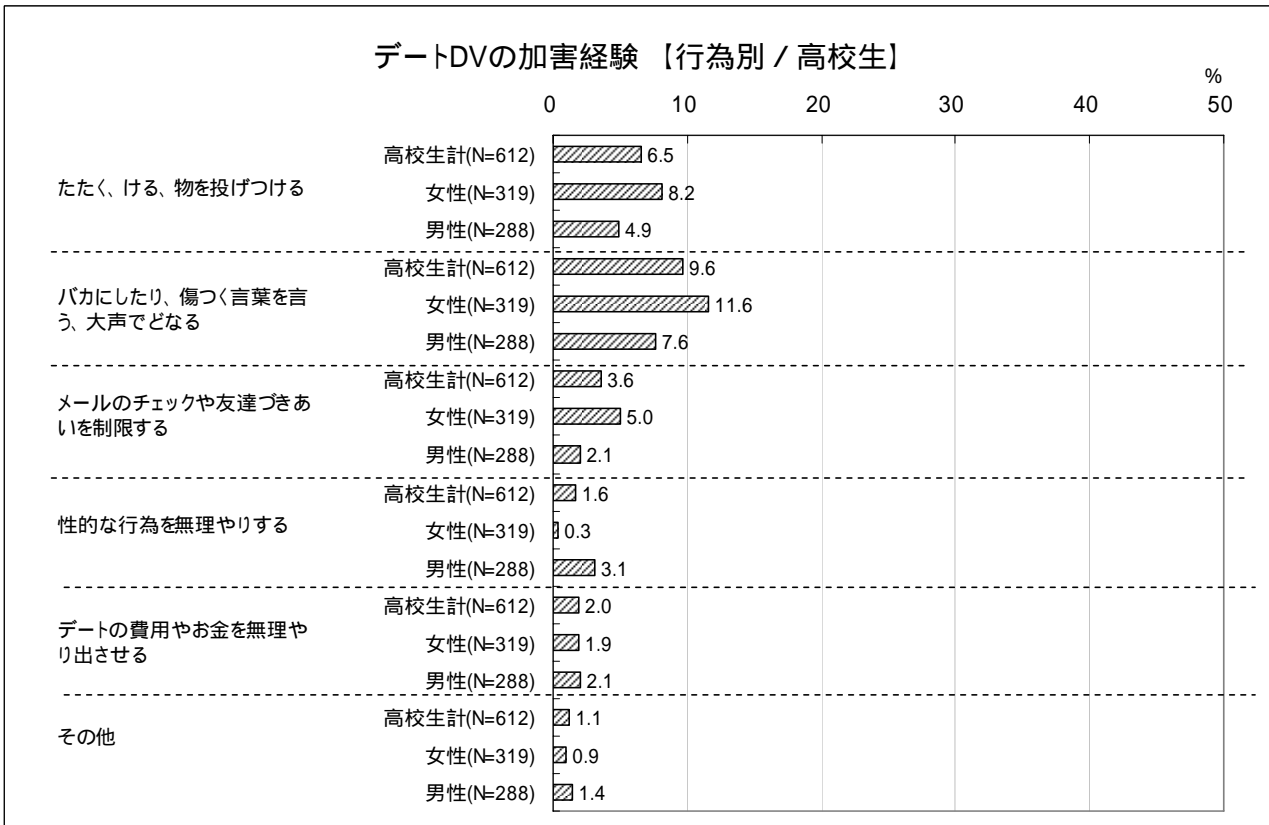


行為別

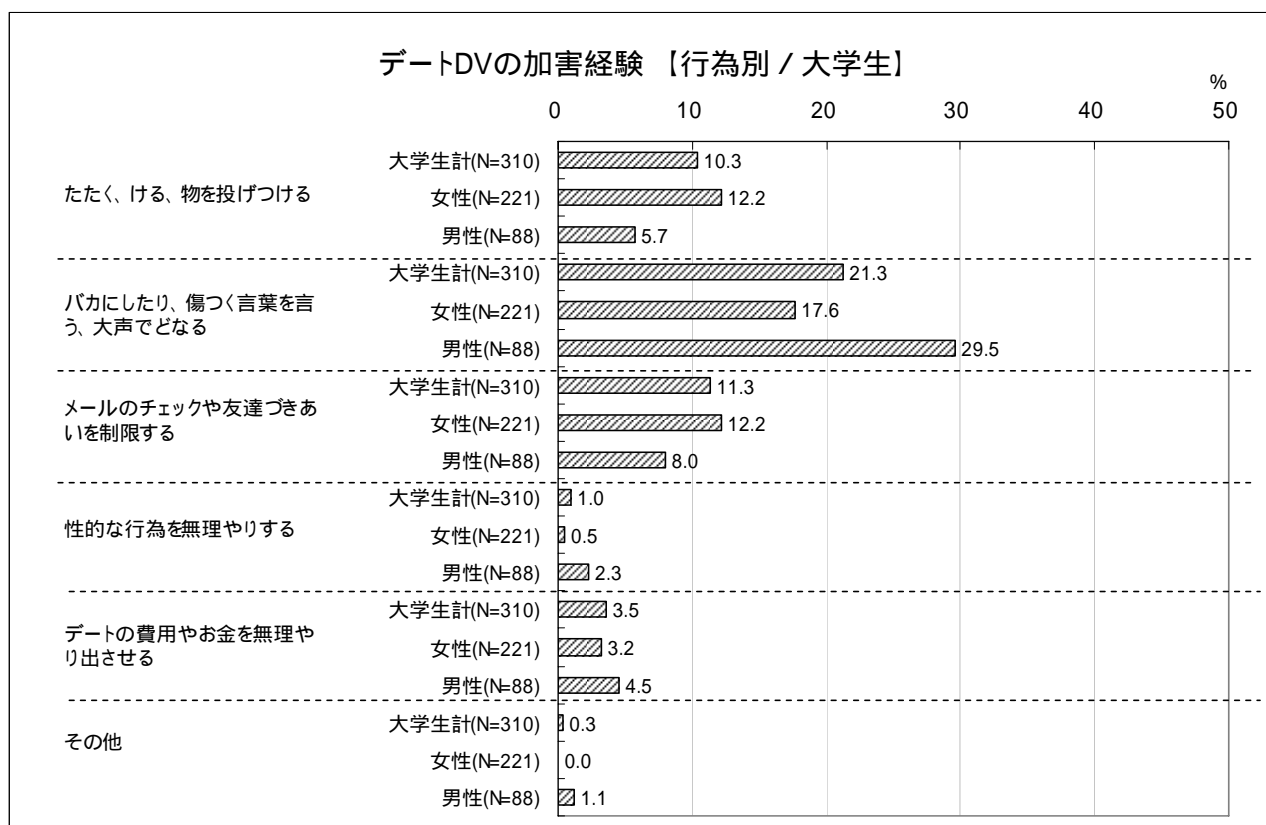
ア 全体と男女別



イ 高校生



ウ 大学生



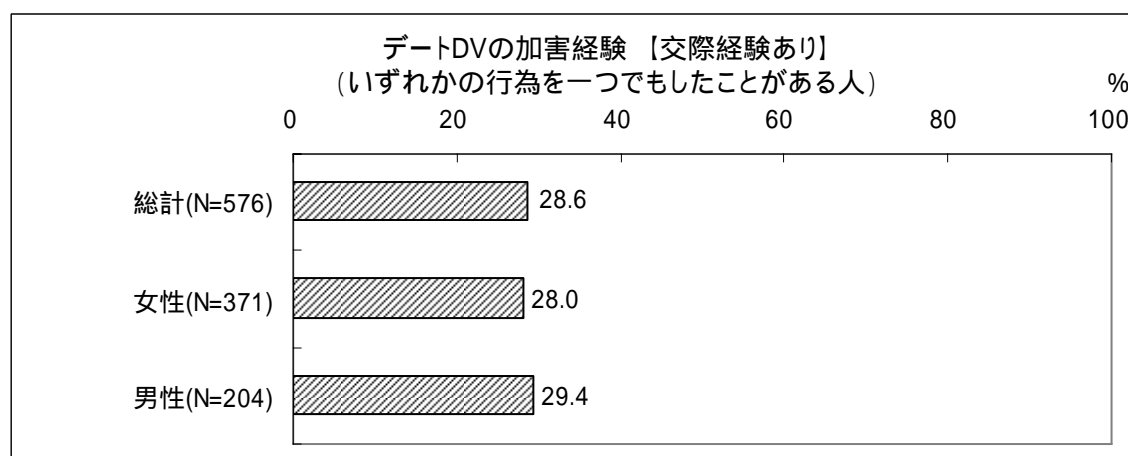
(2)「交際経験ある人」の加害経験の割合

交際経験のある人のうち、デートDVのいずれかの行為を1つでも「したかもしれない」と答えた人(加害経験)は28.6%である。女性では28.0%、男性では29.4%であった。

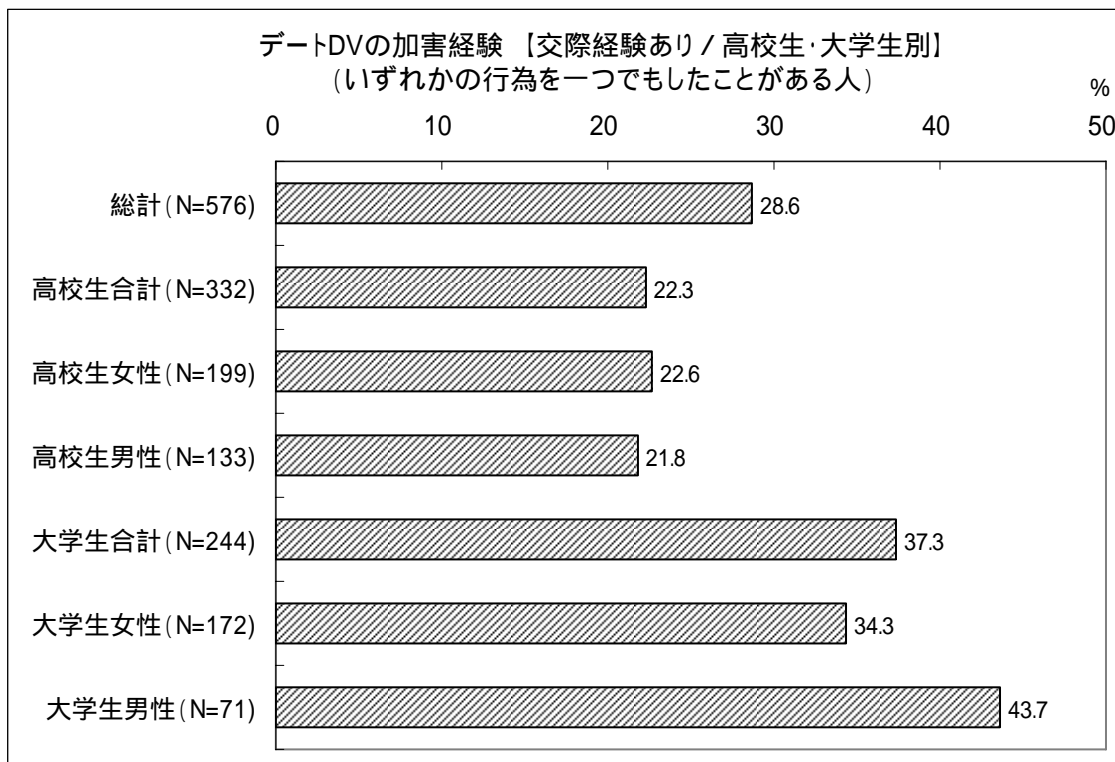
高校生・大学生別にみると、高校生の加害経験は22.3%で、うち高校生女性は22.6%、高校生男性は21.8%である。大学生の加害経験は37.3%で、うち大学生女性は34.3%、大学生男性は43.7%である。

行為別にみると、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」が21.7%を超え、交際経験がある人の5人に1人の割合となっている。

全体と男女別【交際経験あり】

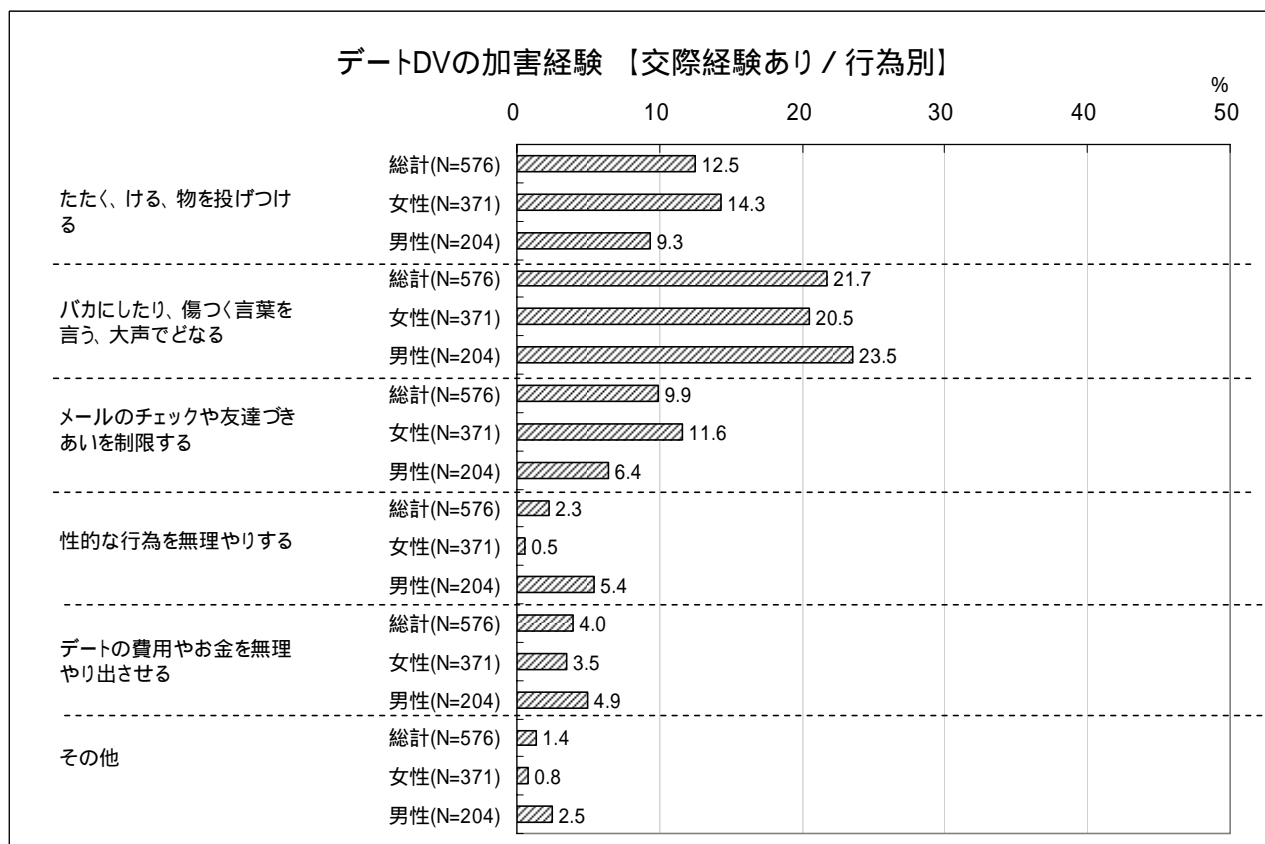


高校生・大学生別【交際経験あり】

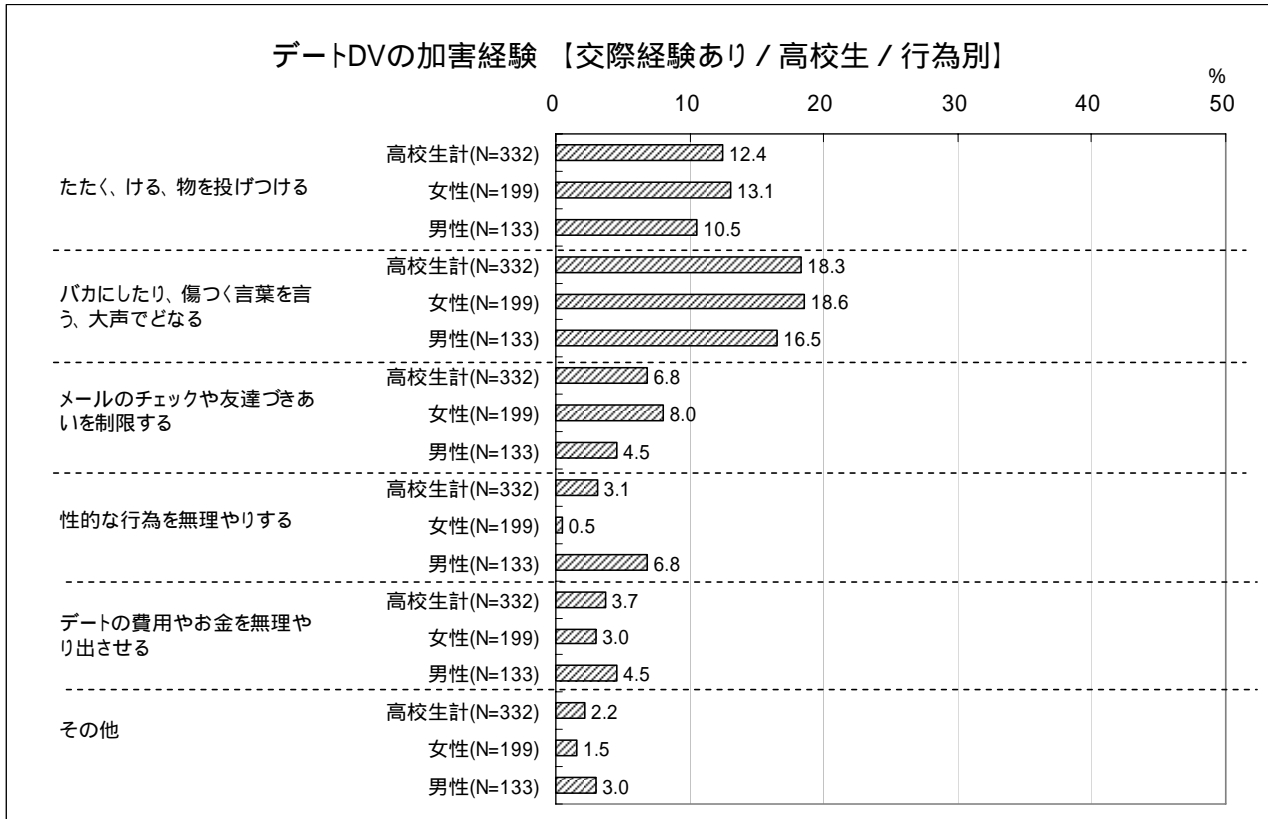


行為別【交際経験あり】

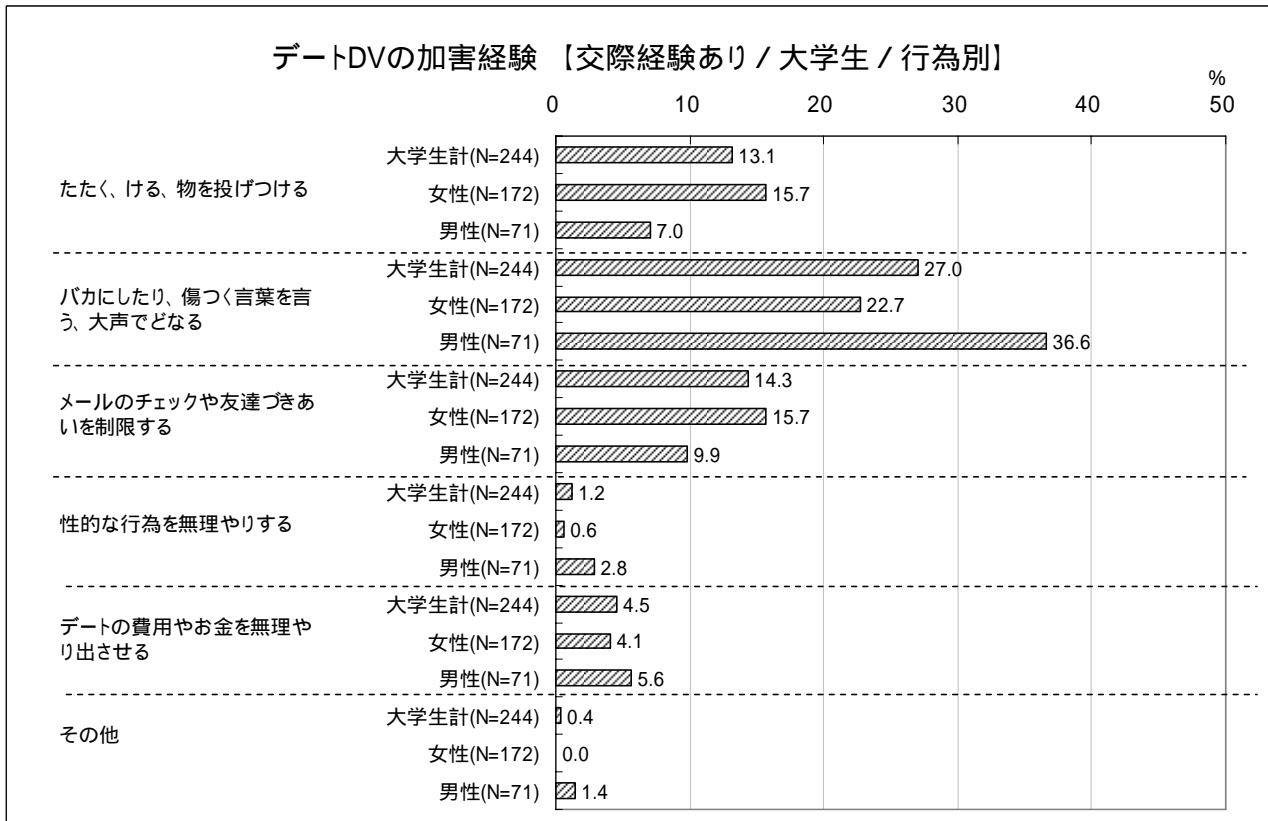
ア 全体と男女別



イ 高校生



ウ 大学生



3) デートDVを周囲で見聞きした割合

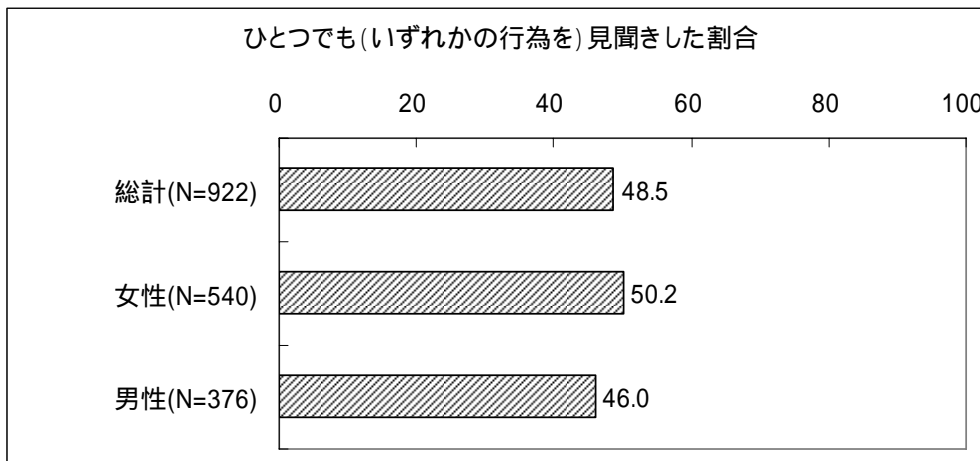
デートDVの5つの行為(「たたく、ける、物を投げつける」、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」、「メールのチェックや友達つきあいを制限する」、「性的な行為を無理やりする」、「デートの費用やお金を無理やり出させる」)をあげて、自分のまわりで「見たり聞いたりしたことがある」かどうかを聞いたところ、いずれかの行為を1つでも「見たり聞いたりしたことがある」と答えた人は48.5%である。

男女別にみると、女性は50.2%、男性は46.0%であった。

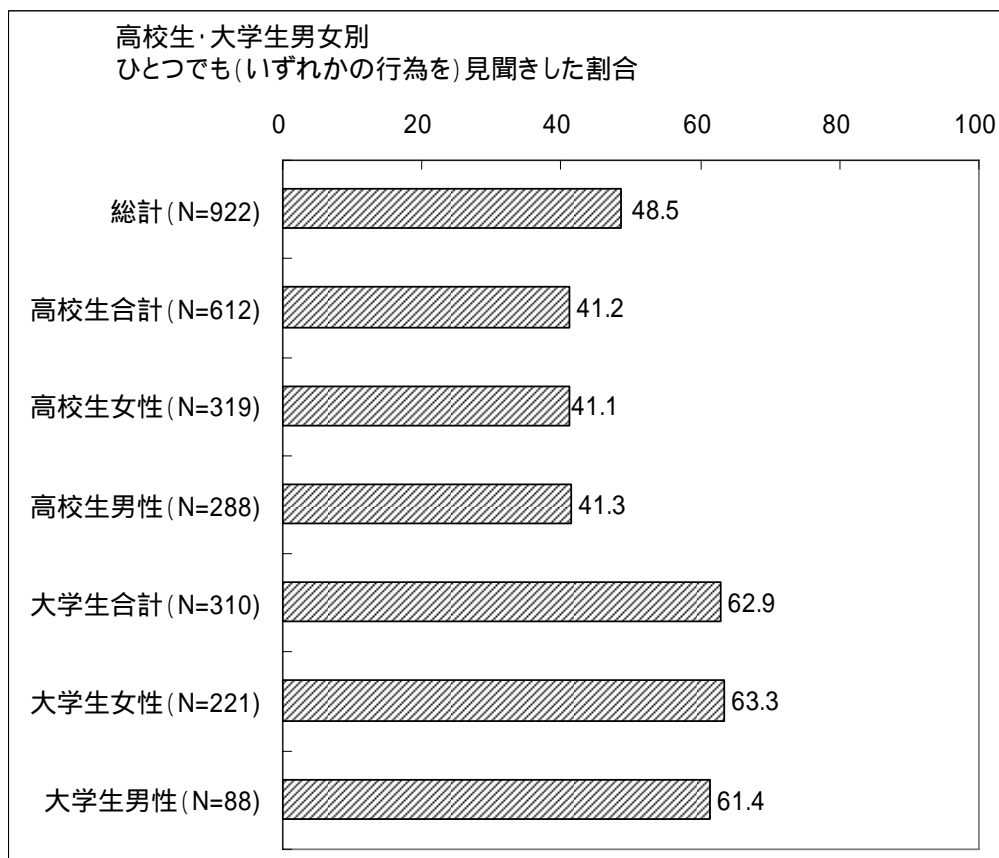
高校生・大学生別にみると、高校生は41.2%、大学生は62.9%であった。

行為別にみると、5つのいずれの行為も20~30%台となっている。

全体と男女別

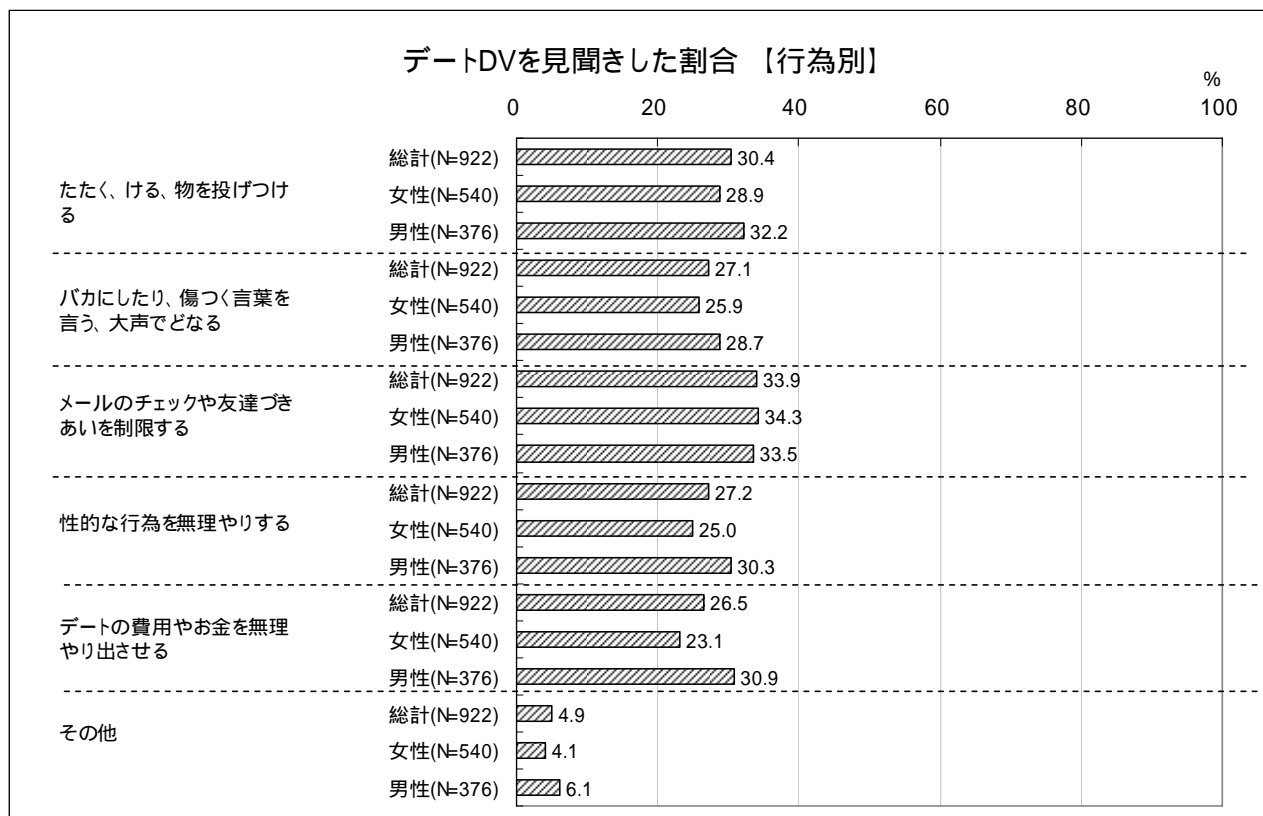


高校生・大学生別

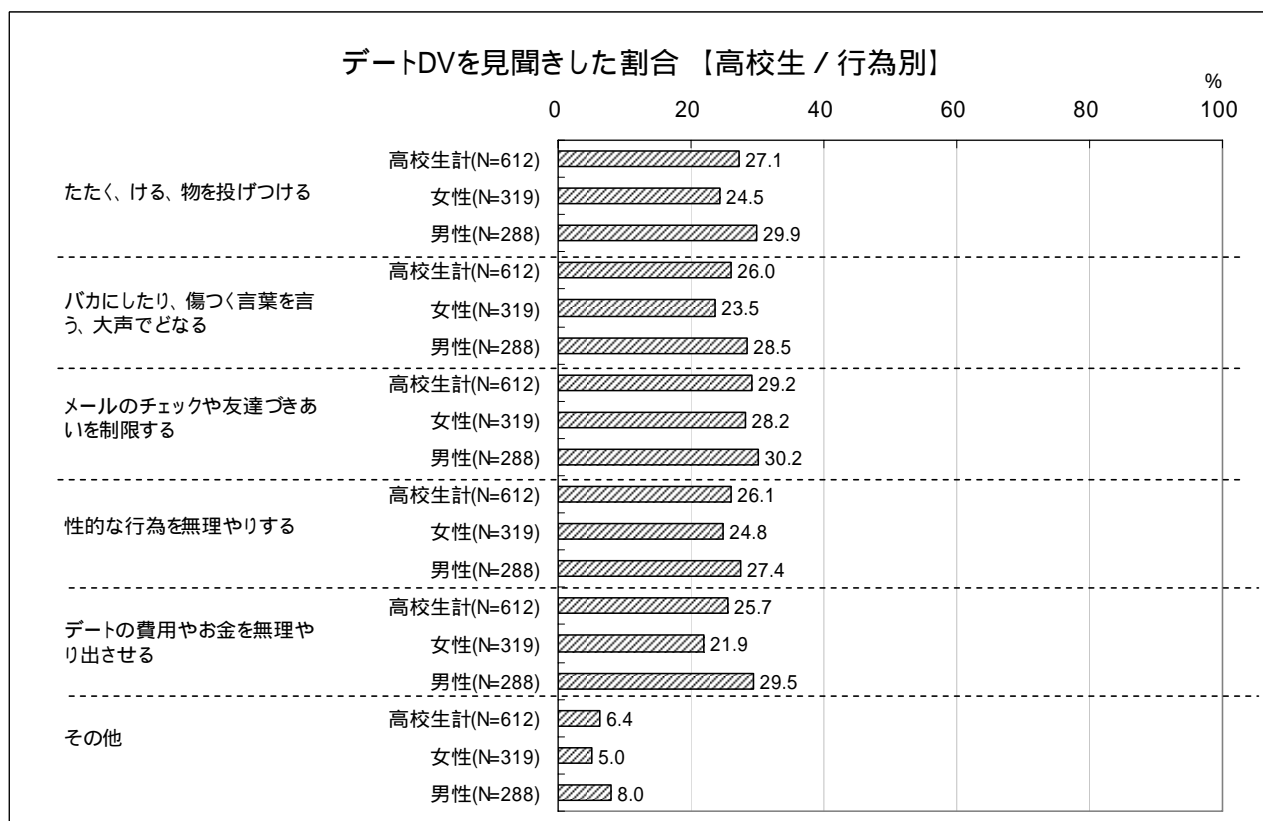


行為別

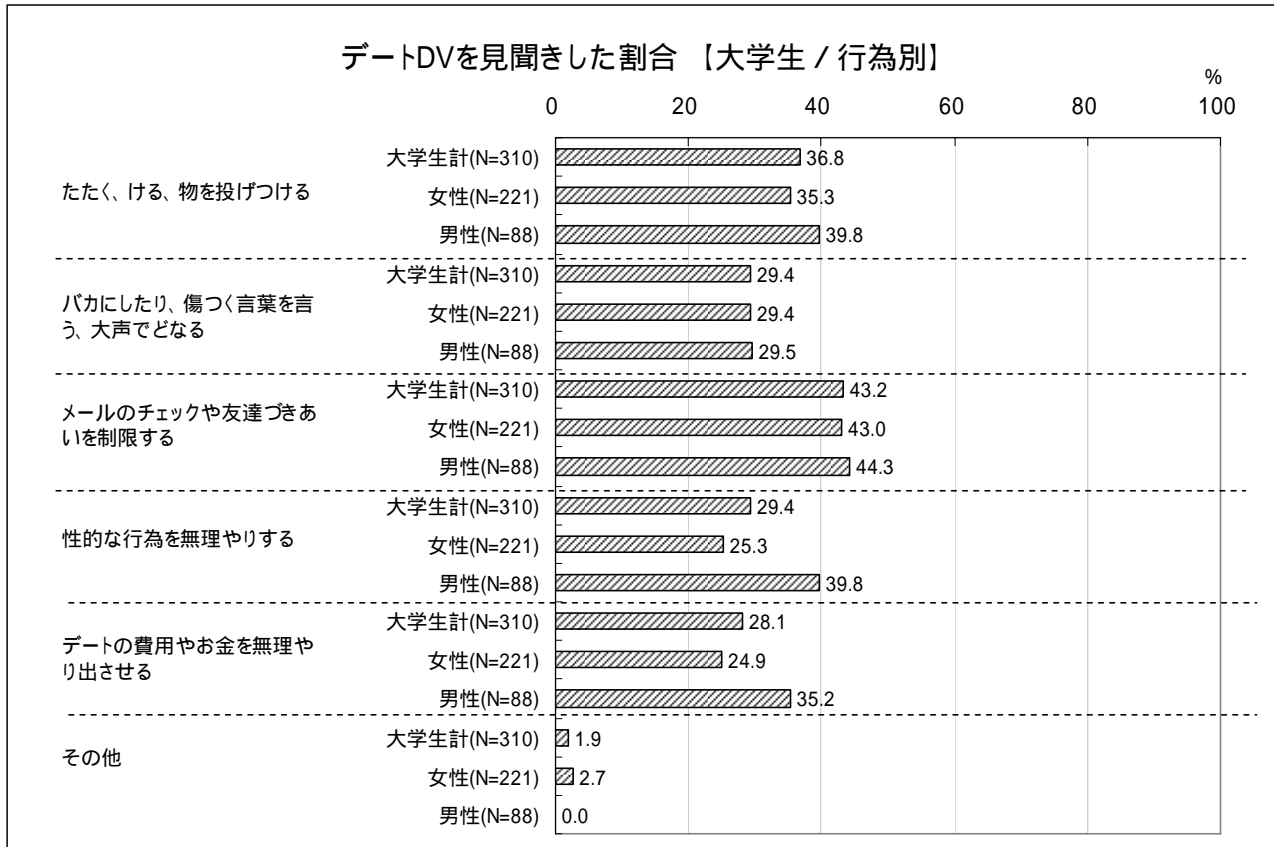
ア 全体と男女別



イ 高校生



ウ 大学生



6.デートDVに対する行動とワークショップ受講後の変化

1)デートDV被害を受けた際の行動

(1)ワークショップ受講前に何らかの対処をした割合

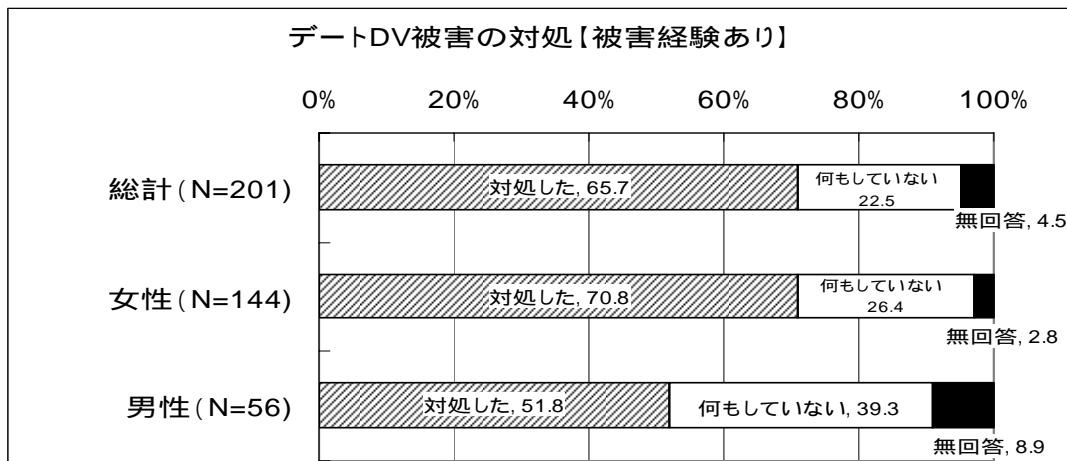
デートDVのいずれかの行為を1つでも「されたかもしれない」と答えた人のうち、「今回のワークショップを受ける前に、そのことに対して、何かしてみたか」を聞いたところ、何らかの対処をした人は65.7%である。

男女別にみると、女性では70.8%、男性では51.8%で、女性の方が対処した割合が19ポイント高い。

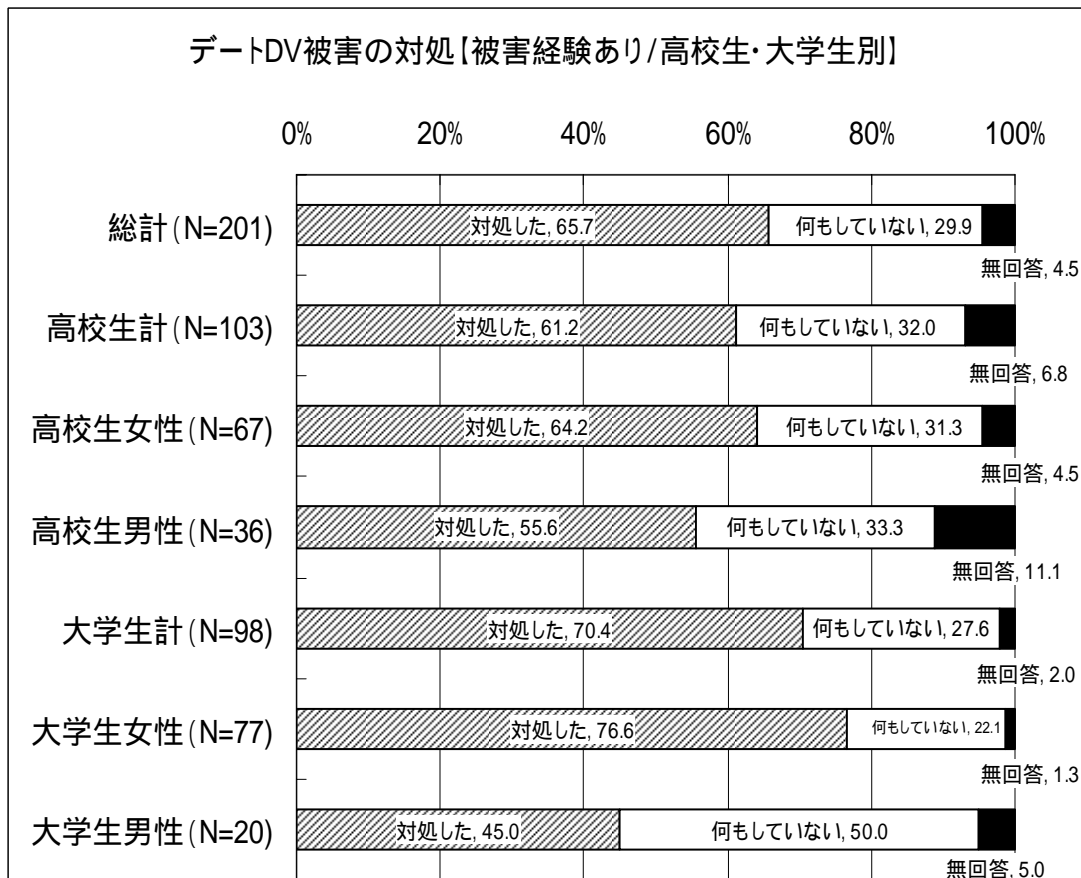
高校生・大学生別にみると、高校生では61.2%、大学生では70.4%であった。

対処方法別にみると、「相手にイヤだと言った」は約半数(44.8%)、「別れた」及び「相談した」ではそれぞれ2割(22.9%、20.4%)となっている一方、「特に何もしていない」は3割(29.9%)となっている。

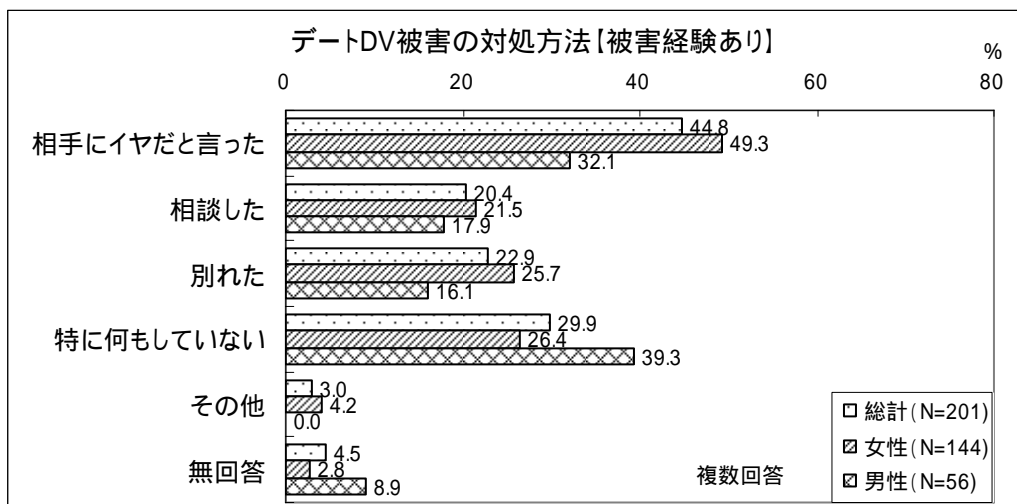
全体と男女別



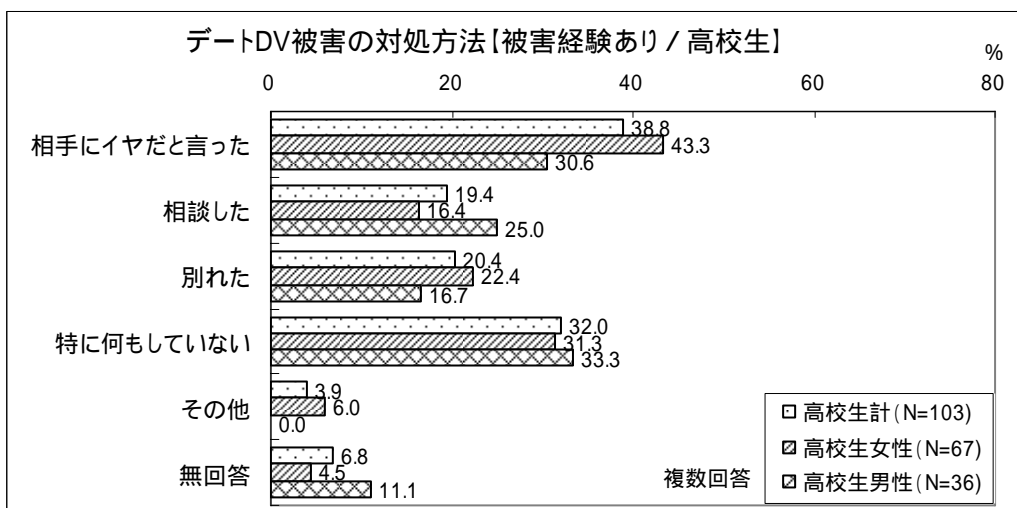
高校生・大学生別



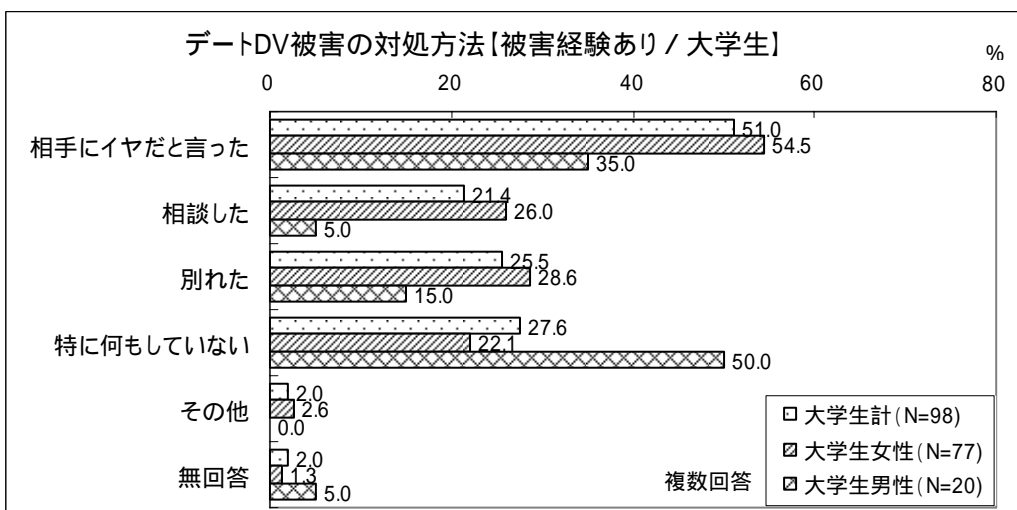
対処方法別
ア 全体と男女別



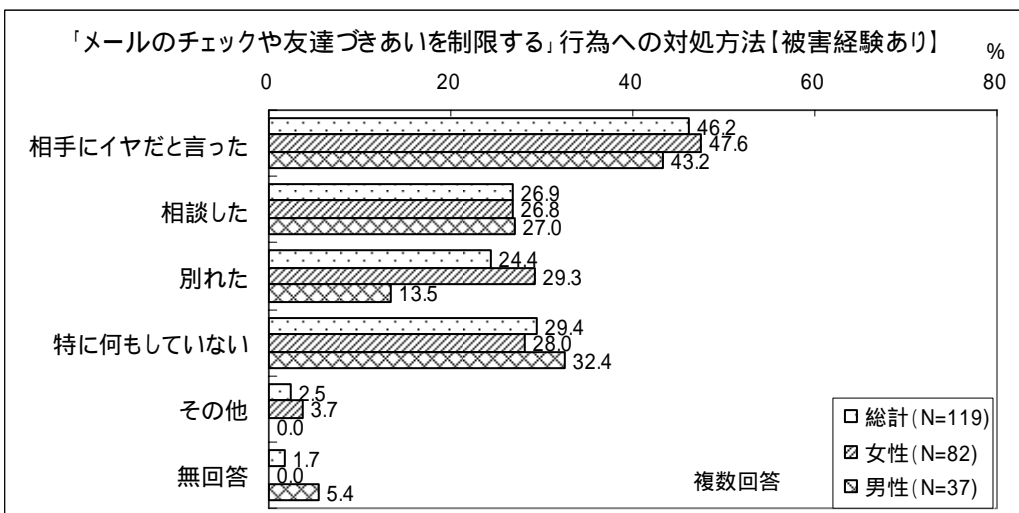
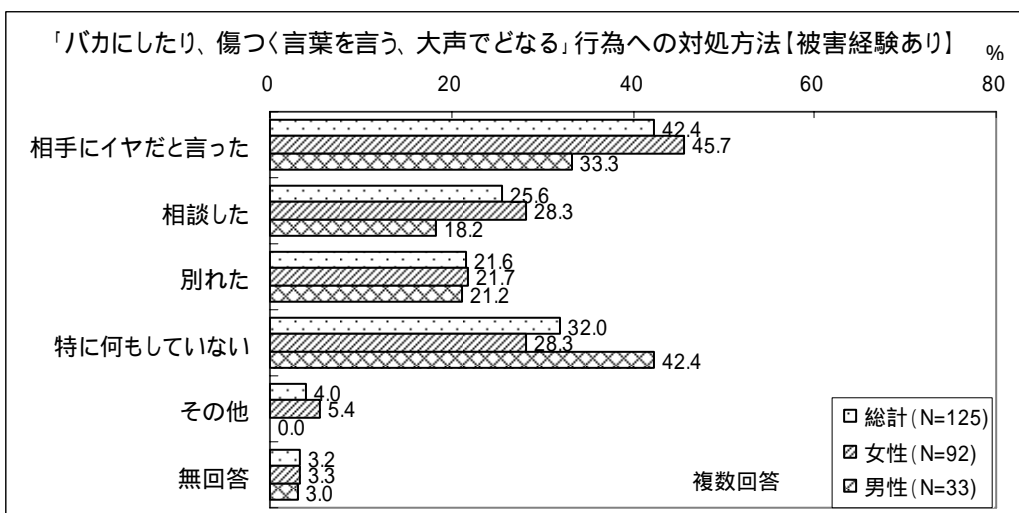
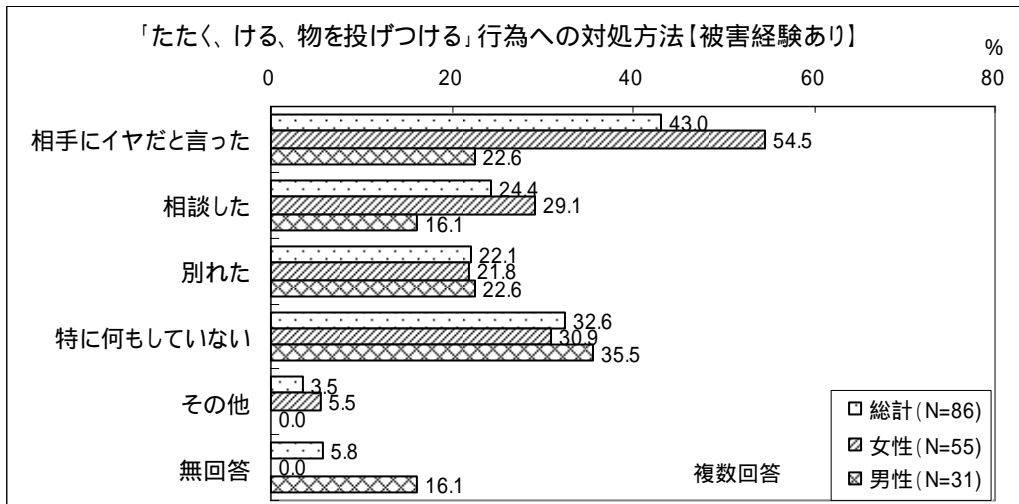
イ 高校生

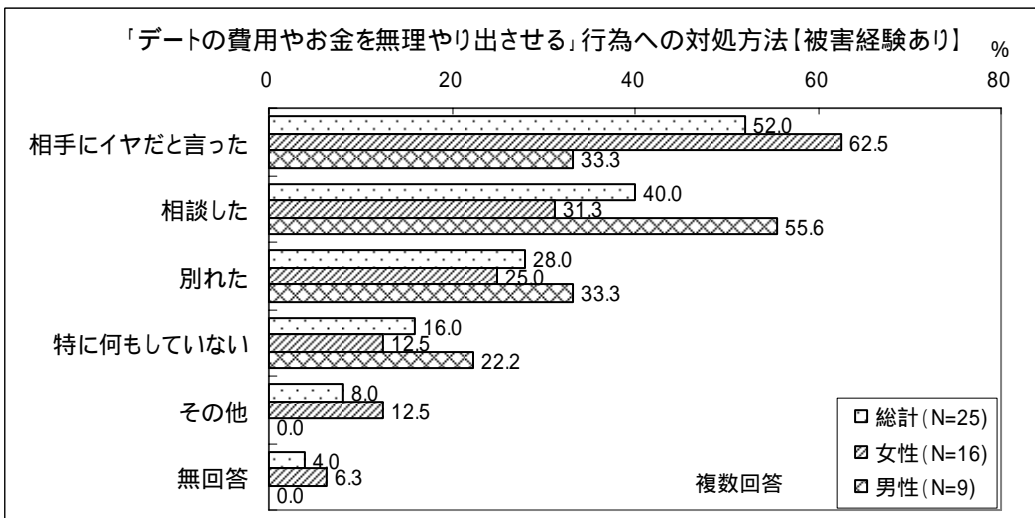
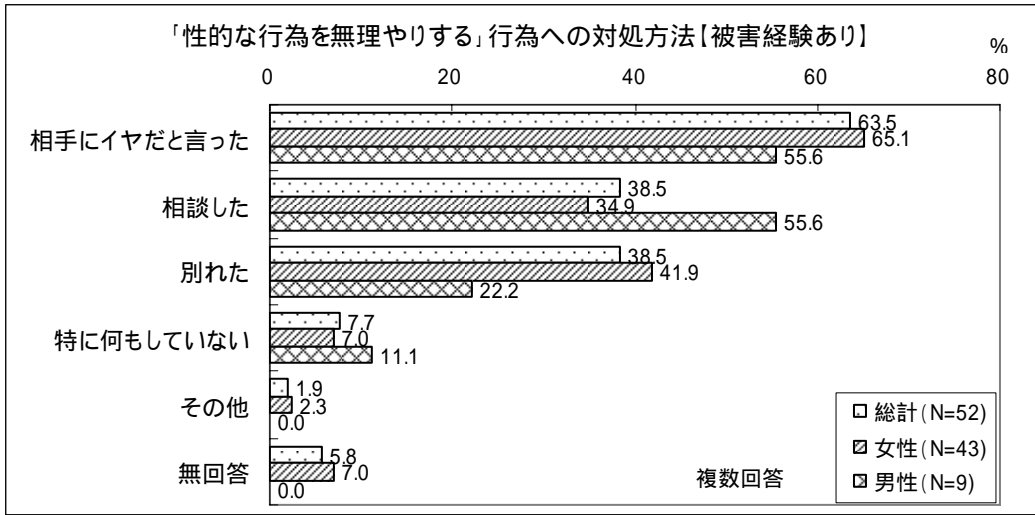


ウ 大学生



デートDVの行為別 対処方法

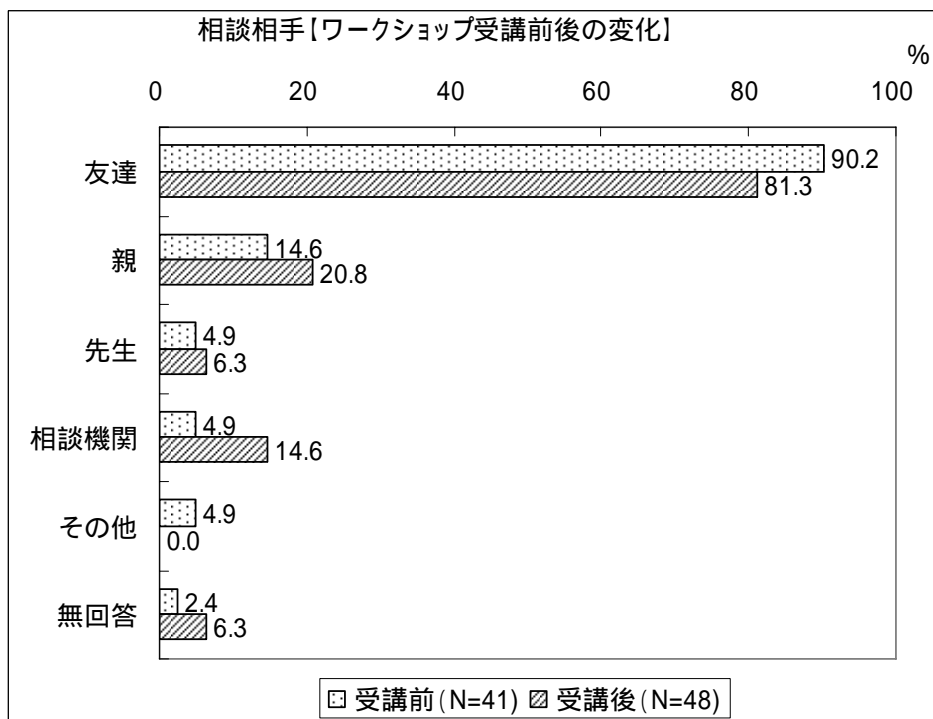
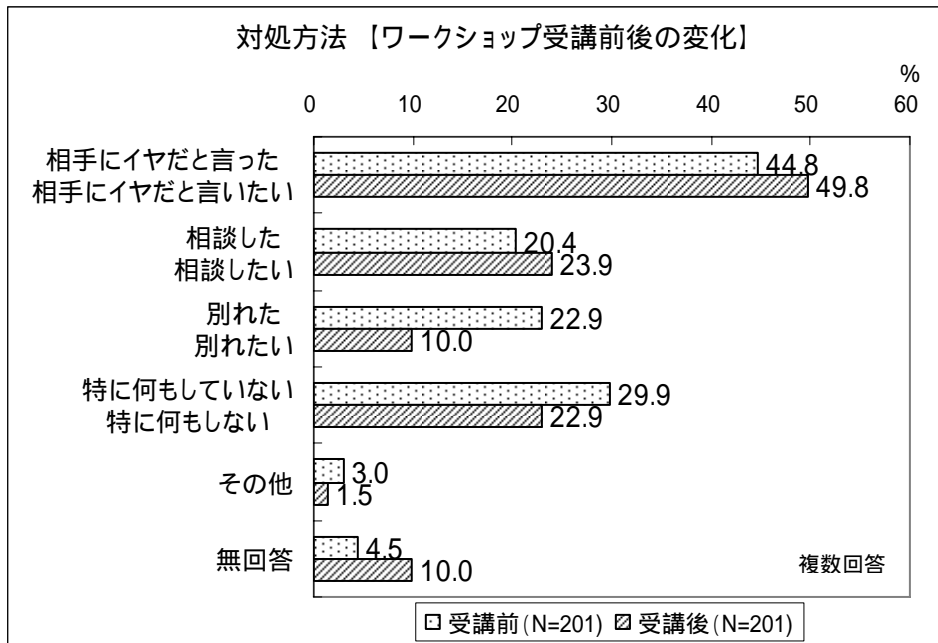




(2)デートDV被害経験者のワークショップ受講後の変化

デートDVを「されたかもしれない」と回答した人に、「ワークショップを受けてみて、今後は、そのことに対して、何かしたいと思うか」を聞いたところ、ワークショップ受講後では「相手にイヤだと言いたい」「相談したい」人がそれぞれ 5.0 ポイント、3.5 ポイント増加し、「別れたい」「特に何もしない」人がそれぞれ 12.9 ポイント、7.0 ポイント減少している。

また、相談相手について、ワークショップ前後の変化をみると、前後とも「友達」が最も多い。



2)デートDVを加害した際の行動

(1)ワークショップ受講前に何らかの対処をした割合

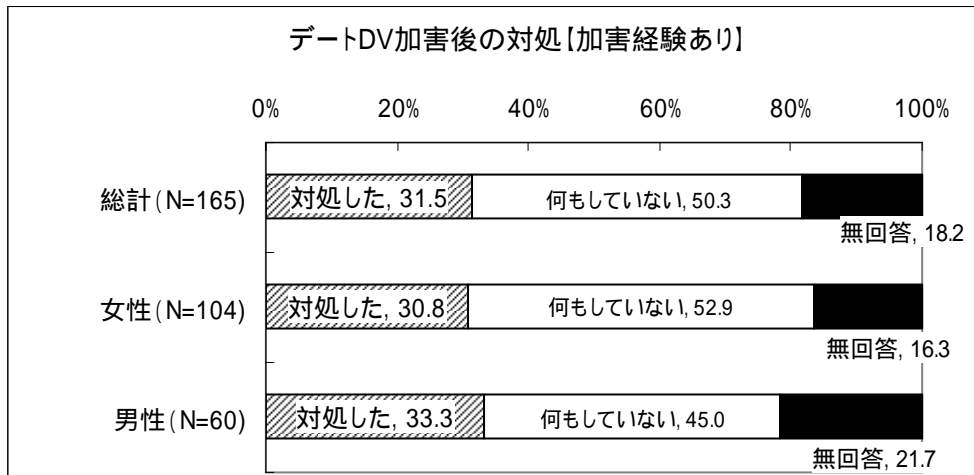
デートDVのいずれかの行為を1つでも「したことがあるかもしれない」と答えた人のうち、「今回のワークショップを受ける前に、そのことに対して、何かしてみたか」を聞いたところ、何らかの対処をした人は31.5%である。

男女別にみると、女性では30.8%、男性では33.3%で、大きな差は見られない。

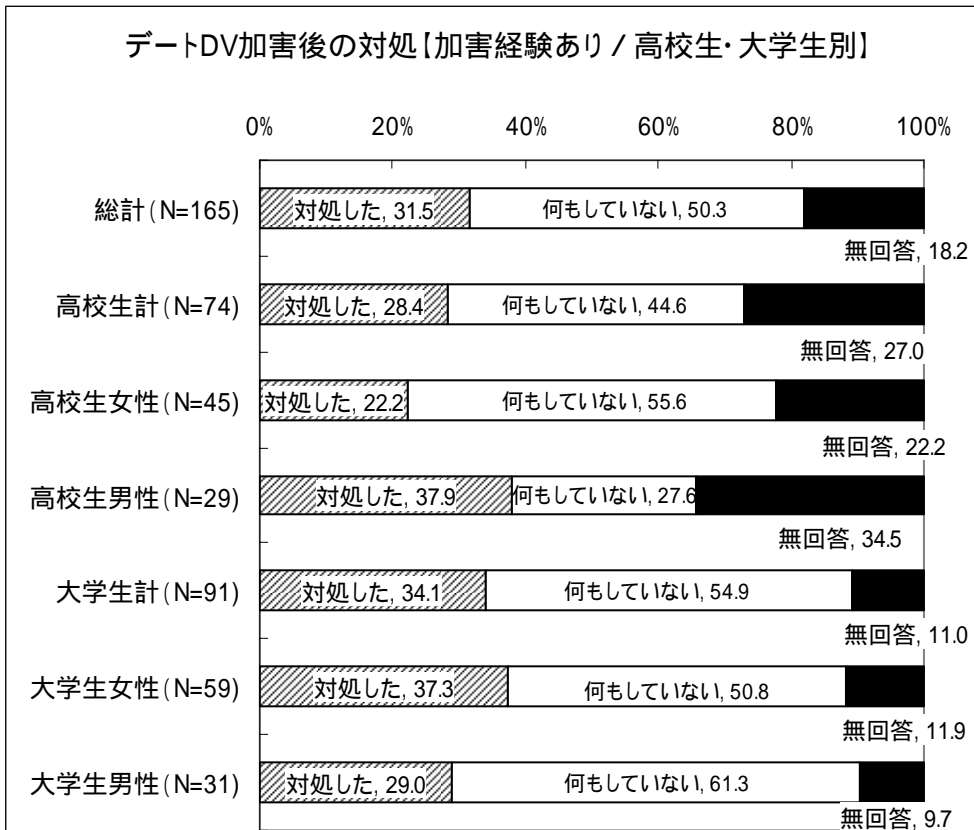
高校生・大学生別にみると、高校生では28.4%、大学生では34.1%と、大学生の方が対処した割合が高い。

対処方法別にみると、「特になにもしていない」が約半数(50.3%)で最も多く、次いで「自分からデートDVをやめた」が13.9%である。

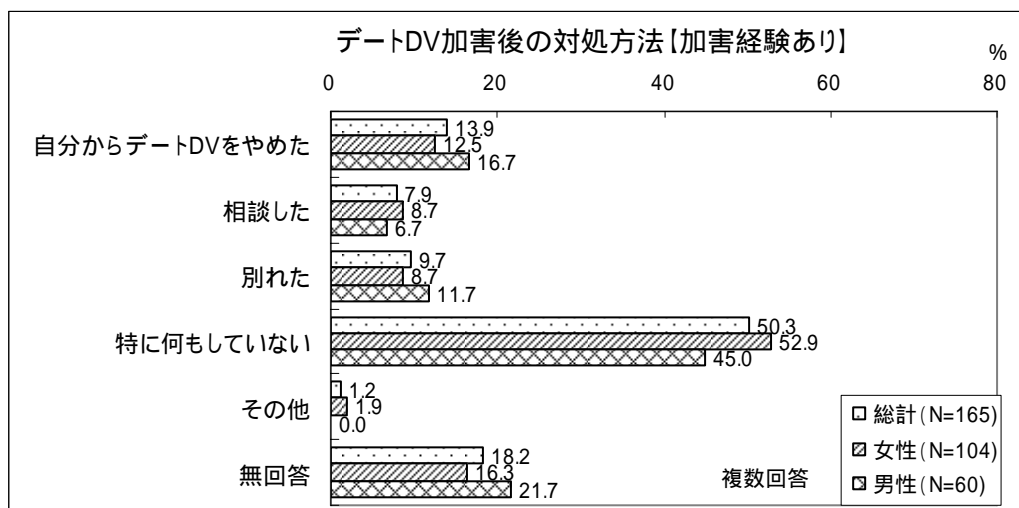
全体と男女別



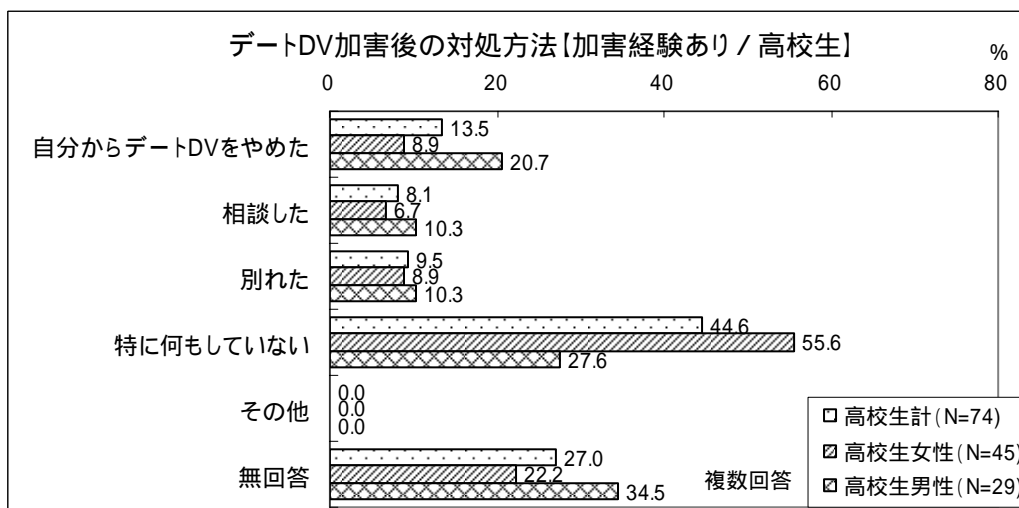
高校生・大学生別



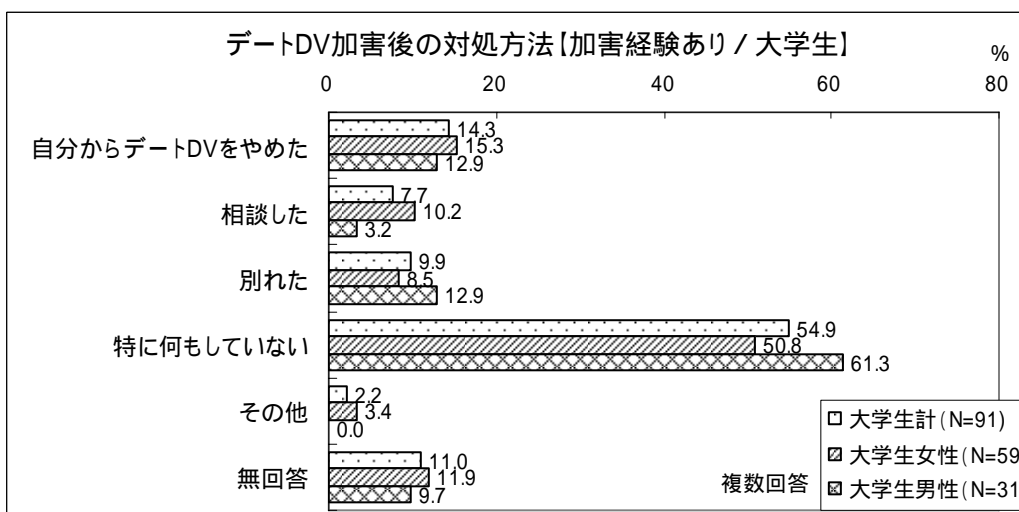
対処方法別
ア 全体と男女別



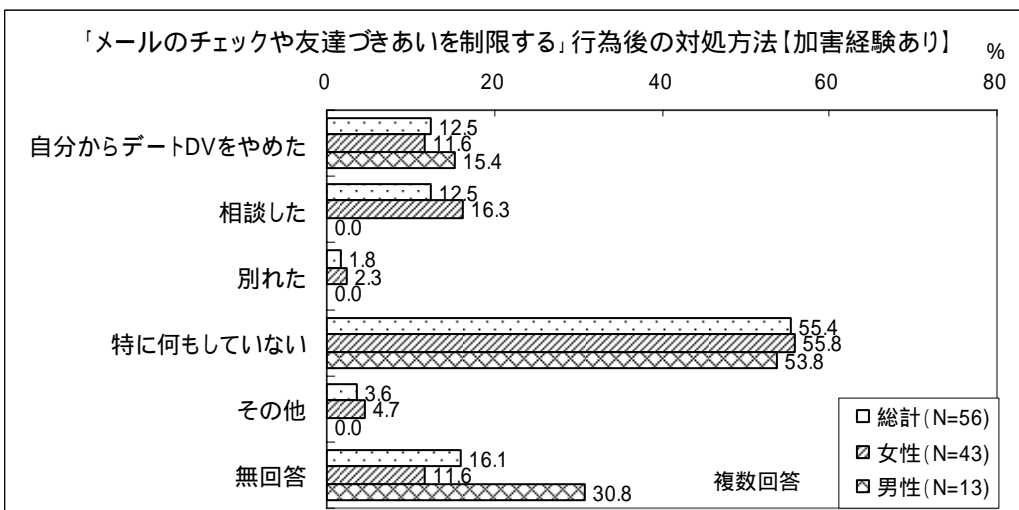
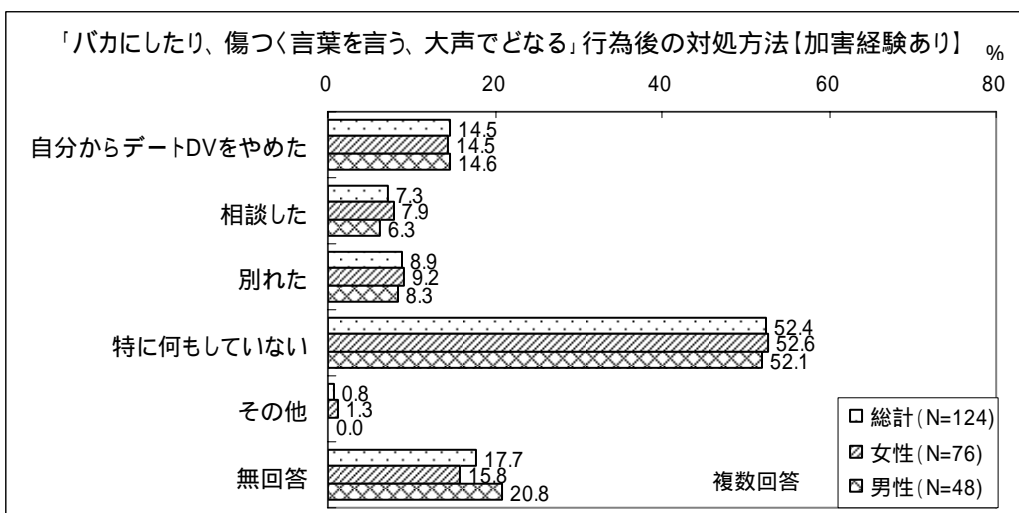
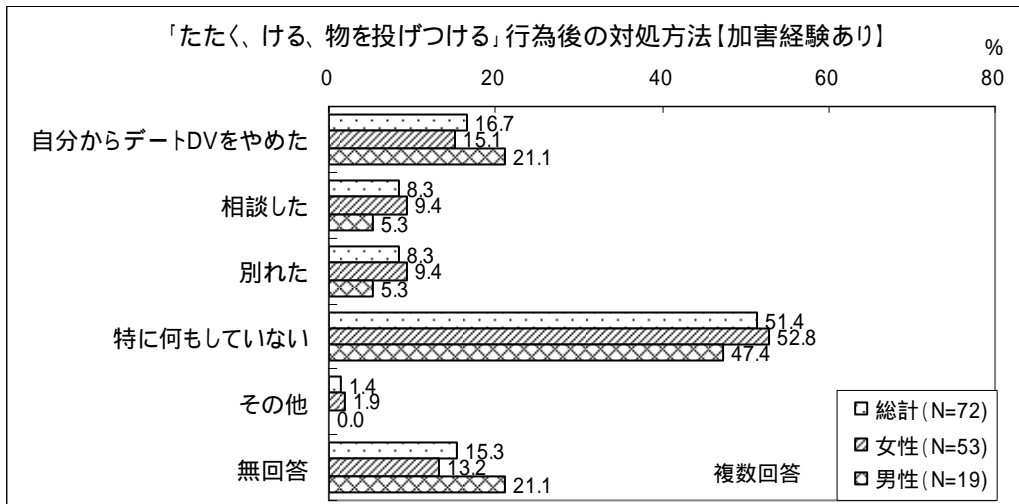
イ 高校生

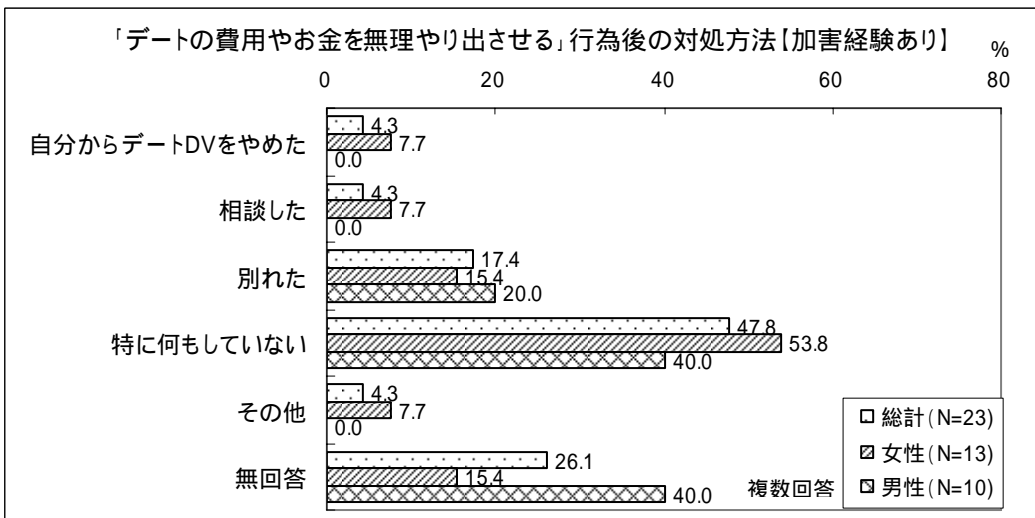
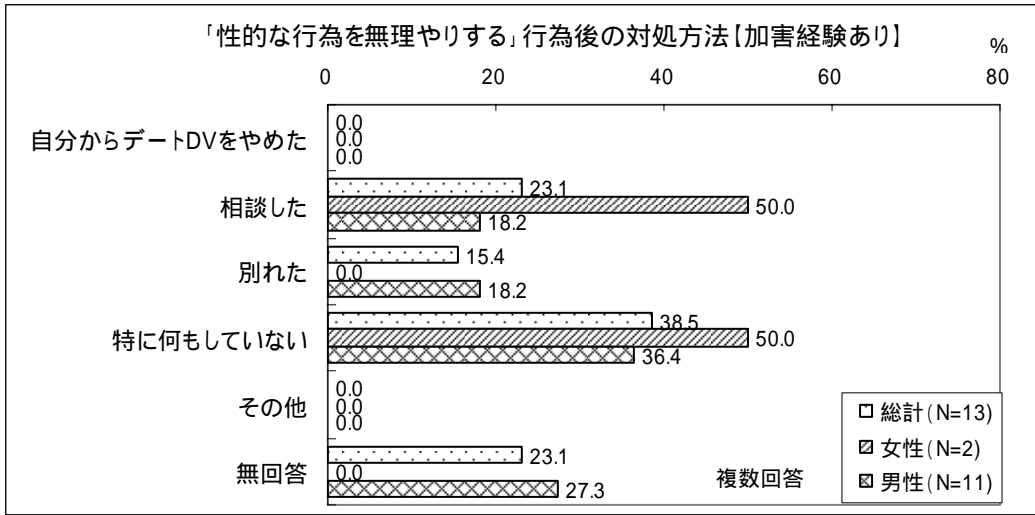


ウ 大学生



デートDVの行為別 対処方法

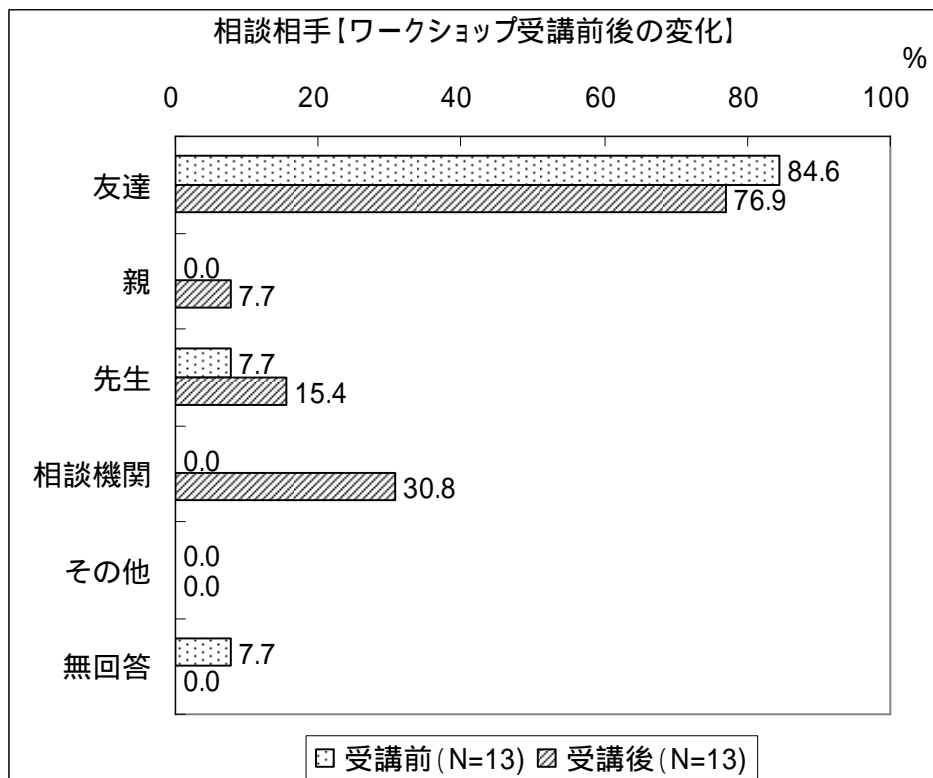
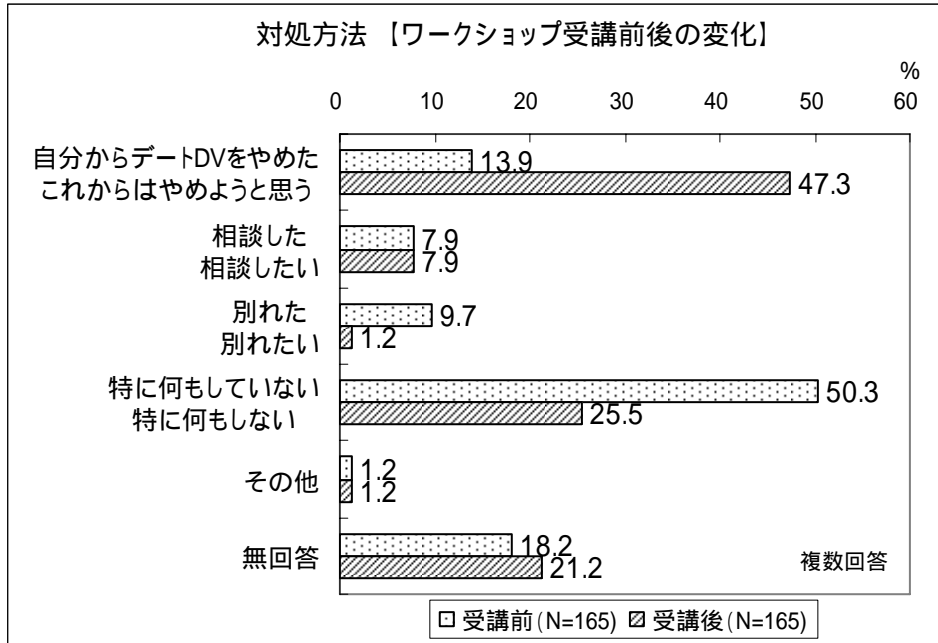




(2)デートDV加害経験者のワークショップ受講後の変化

デートDVを「したかもしれない」と回答した人に、「ワークショップを受けてみて、今後は、そのことに対して、何かしたいと思うか」を聞いたところ、ワークショップ受講前に比べて、ワークショップ受講後では「これからはやめようと思う」人が 33.4 ポイント増加し、「特に何もしない」人が 24.8 ポイント減少している。

相談相手について、ワークショップ受講前後の変化をみると、前後とも「友達」が最も多い。ワークショップ受講後には、「相談機関」で相談したい人の増加がみられた。



3) デートDVを見聞きした際の行動

(1) ワークショップ受講前に何らかの対処をした割合

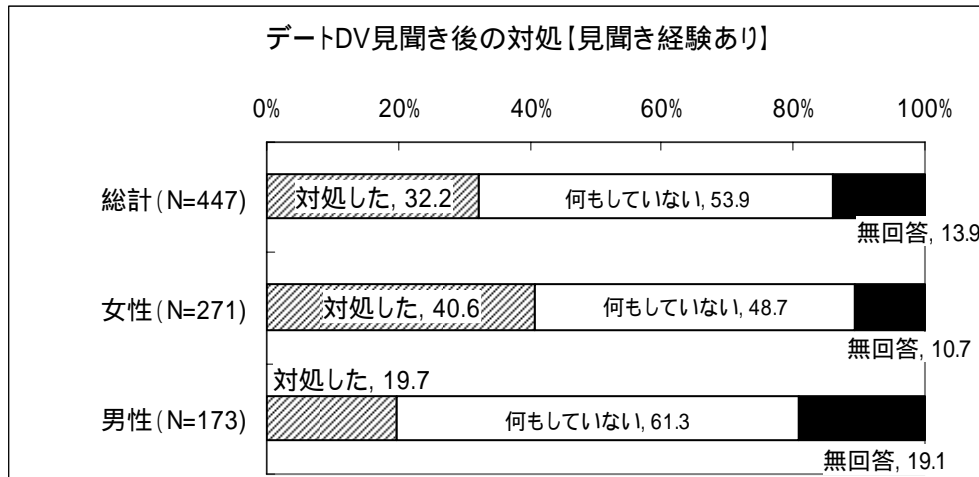
デートDVのいずれかの行為を1つでも「見たり聞いたりしたことがある」と答えた人のうち、「今回のワークショップを受ける前に、そのことに対して、何かしてみたか」を聞いたところ、何らかの対処をした人は32.2%である。

男女別にみると、女性は40.6%、男性は19.7%で、女性の方が対処した割合が20.9ポイント高い。

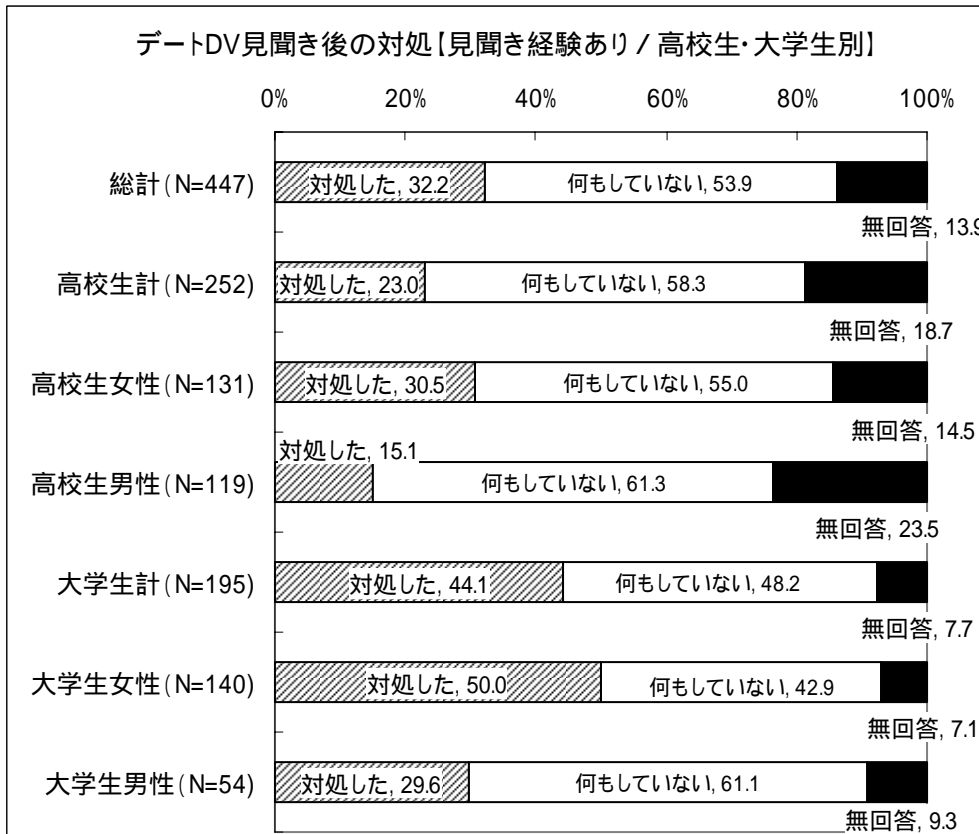
高校生・大学生別にみると、高校生は23.0%、大学生は44.1%で、大学生の方が対処した割合が21.1ポイント高い。

対処方法をみると、「本人と話し合った」24.8%、「別の誰かに相談した」7.8%となっている一方、「特に何もしていない」は約半数(53.9%)となっている。

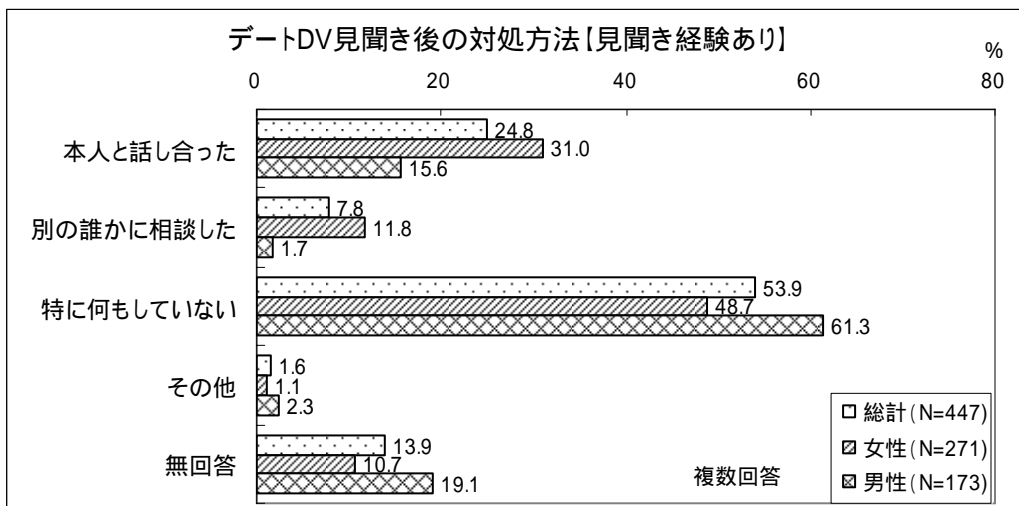
全体と男女別



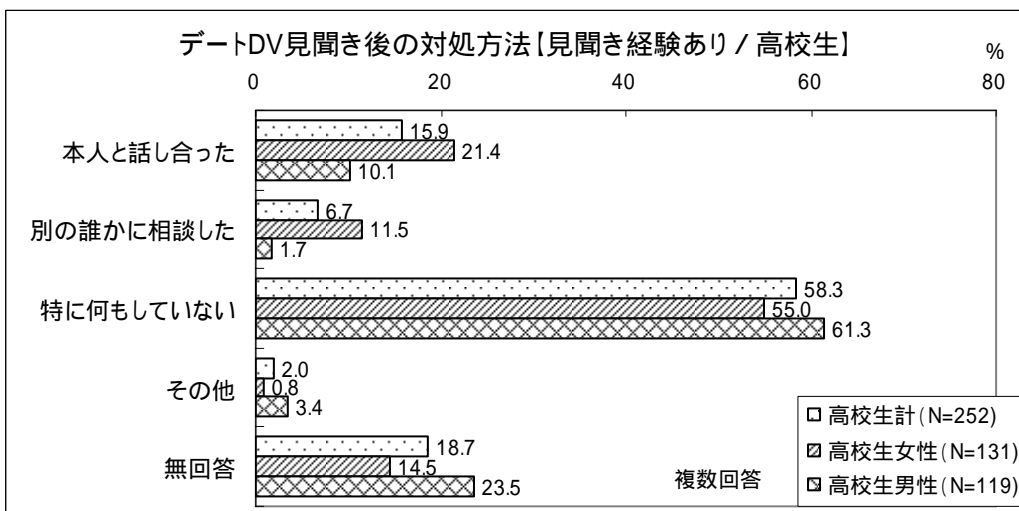
高校生・大学生別



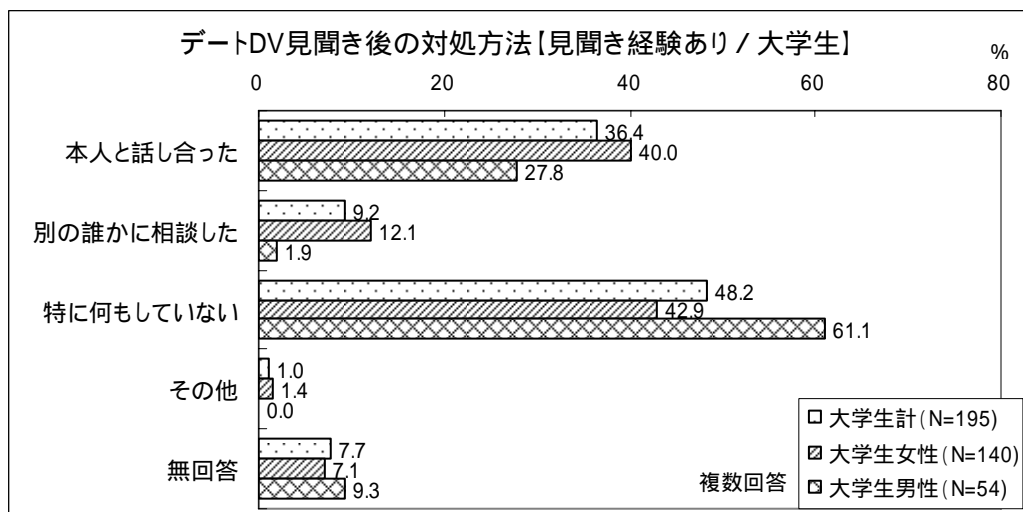
対処方法別
ア 全体と男女別



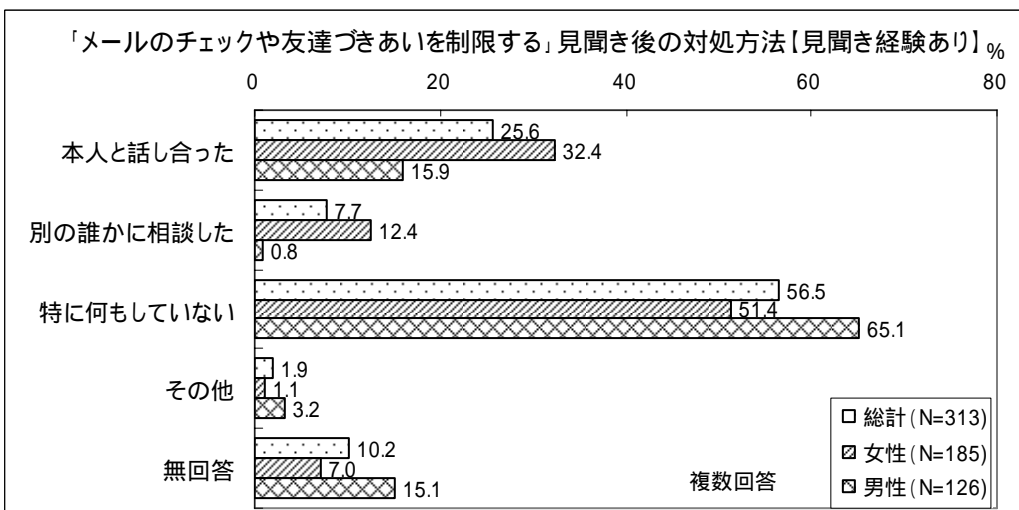
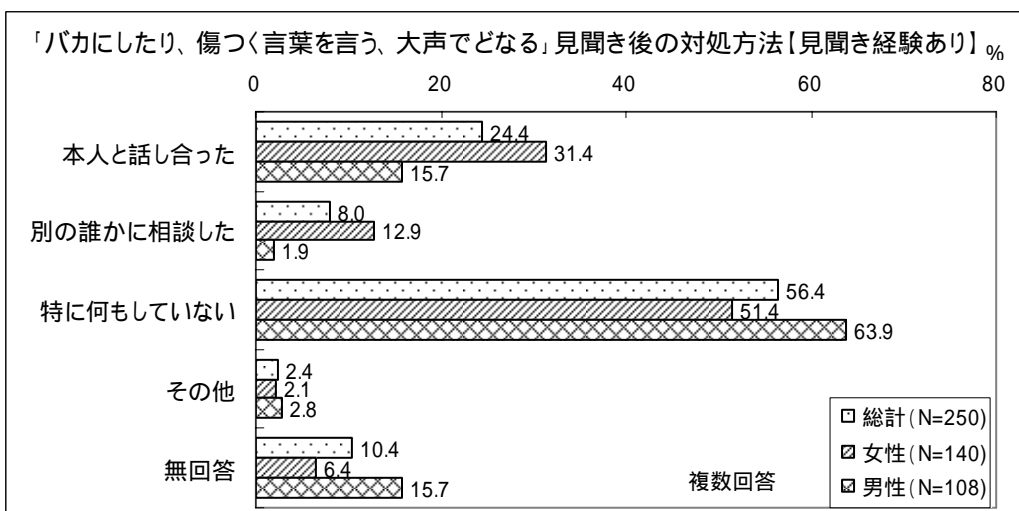
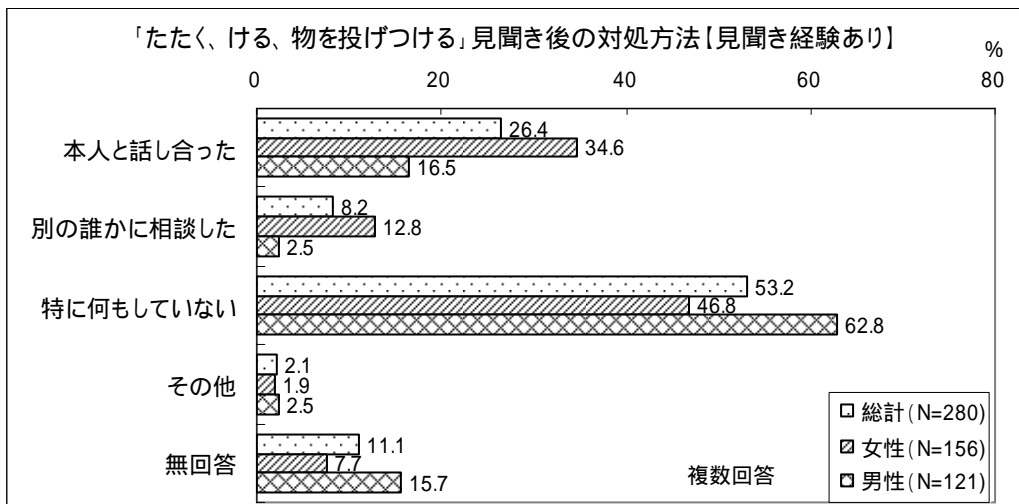
イ 高校生

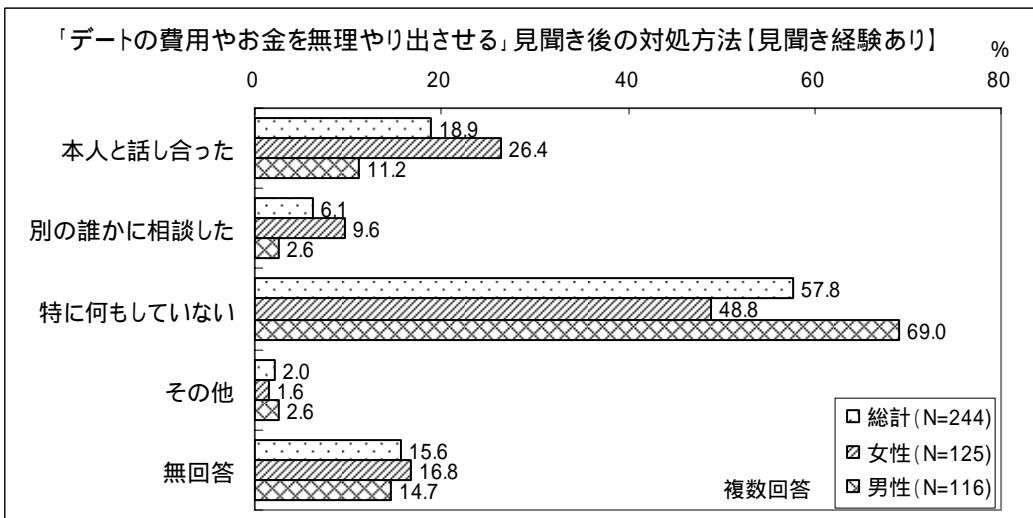
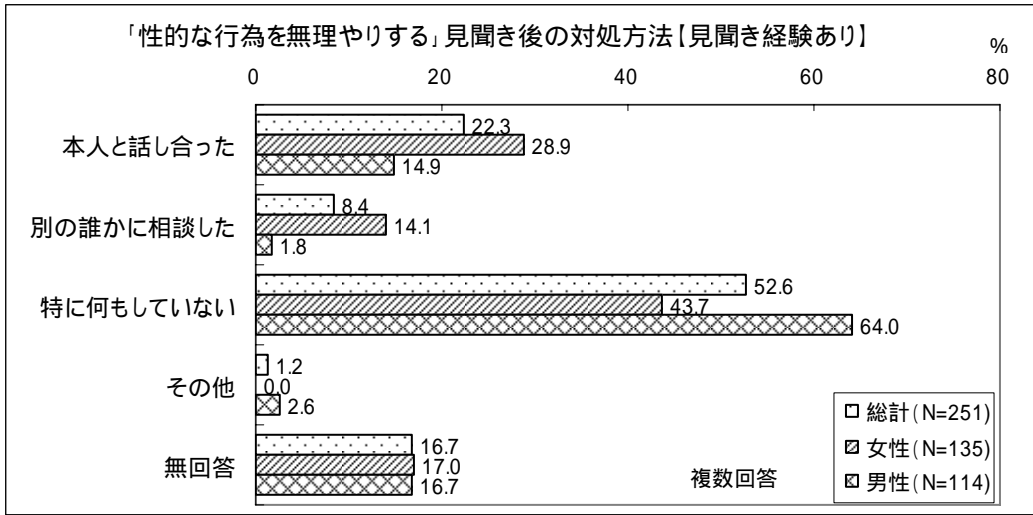


ウ 大学生



デートDVの行為別対処方法

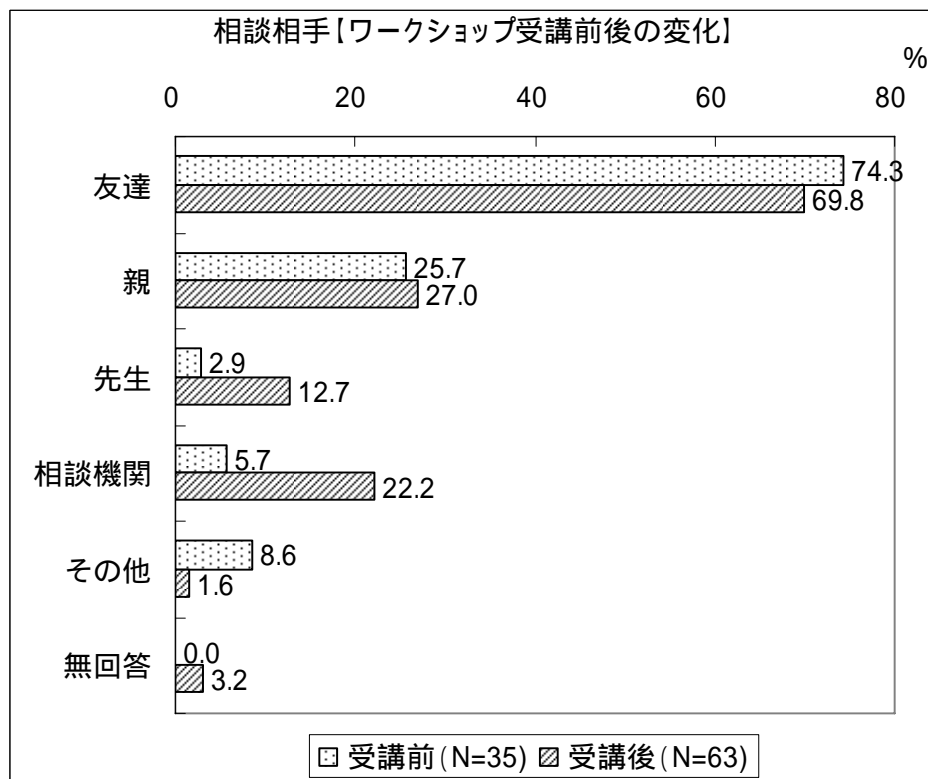
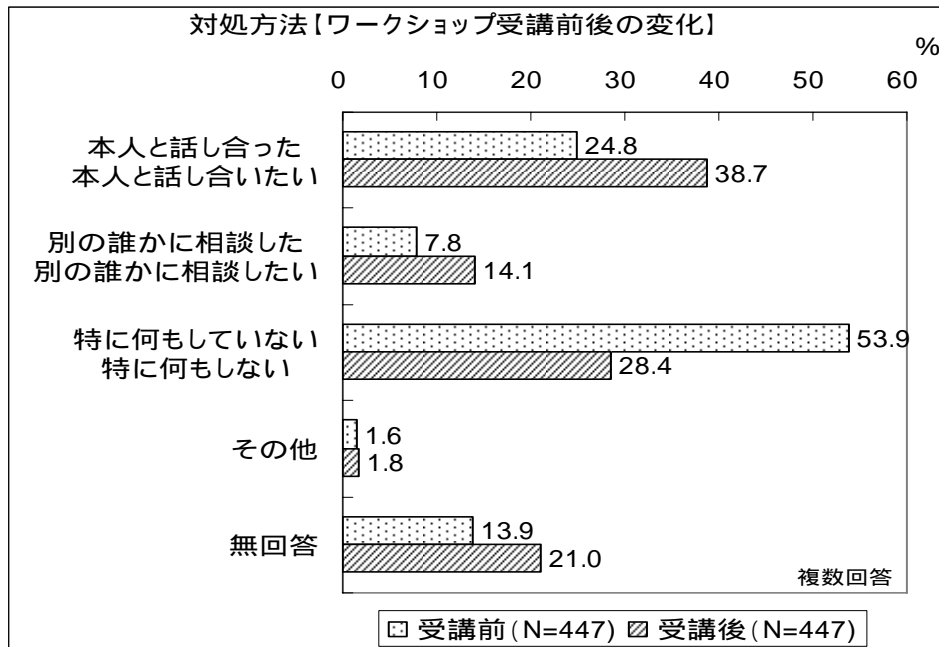




(2)デートDVを見聞きしたことがある人のワークショップ受講後の変化

デートDVを「見たり聞いたりしたことがある」と回答した人に、「ワークショップを受けてみて、今後は、そのことに対して、何かしたいと思うか」を聞いたところ、ワークショップ受講前に比べて、ワークショップ受講後では「本人と話し合いたい」「別の誰かに相談したい」人がそれぞれ 13.9 ポイント、6.3 ポイント増加し、「特に何もしていない」人が 25.5 ポイント減少している。

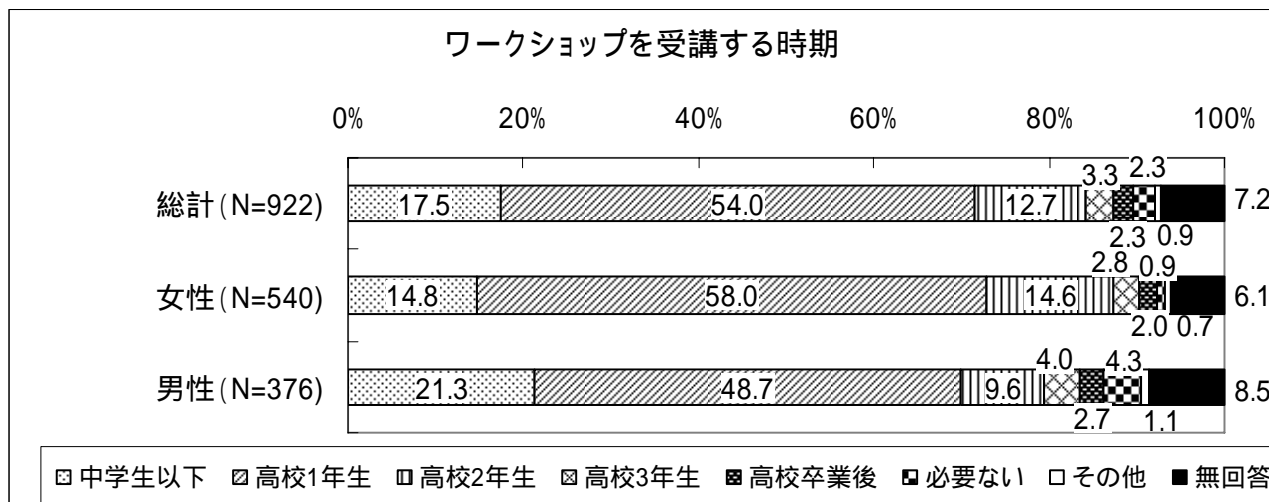
また、相談相手について、ワークショップ受講前後の変化をみると、前後とも「友達」が最も多い。受講後には、「先生」「相談機関」に増加がみられる。



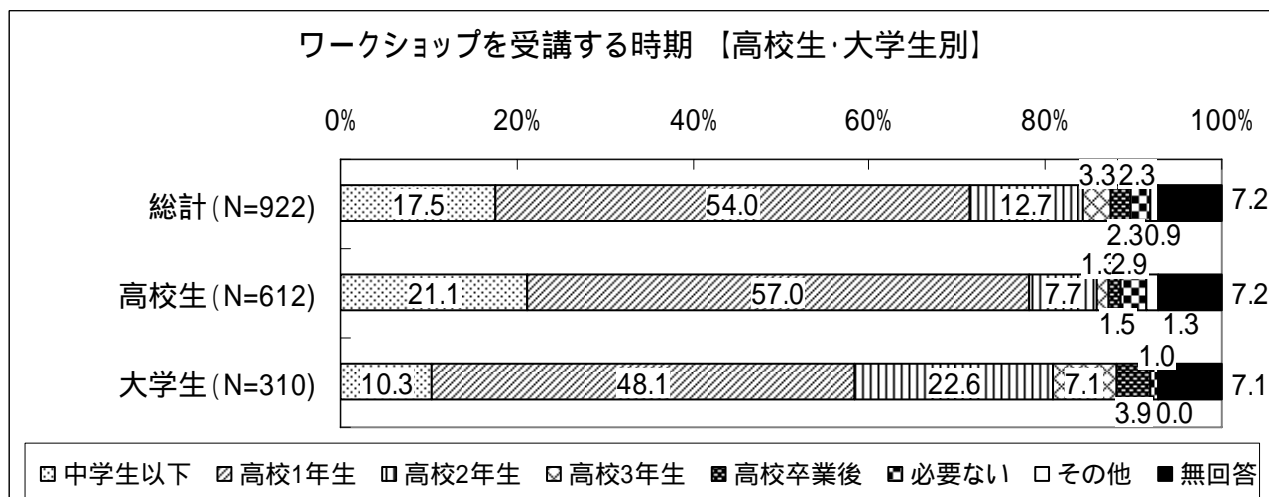
7. ワークショップを受講する時期

「ワークショップを受けるのはいつごろがよいと思うか」を聞いたところ、半数以上が「高校1年生」54.0%と回答しており、「中学生以下」17.5%、「高校2年生」12.7%の順となっている。

全体と男女別



高校生・大学生別



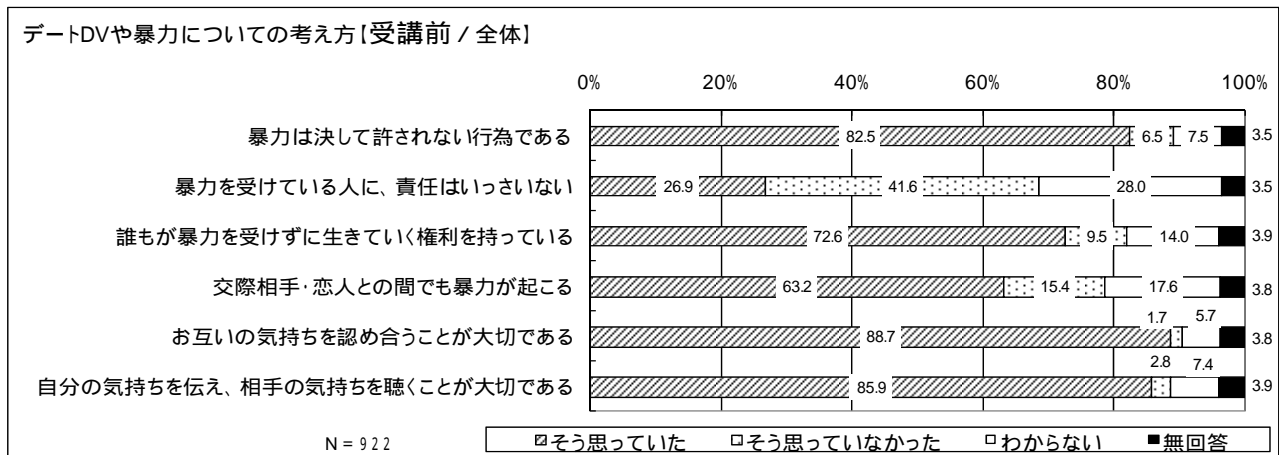
8. ワークショップ受講前後のデートDVや暴力に対する意識の変化

1) ワークショップ受講前のデートDVや暴力に対する意識

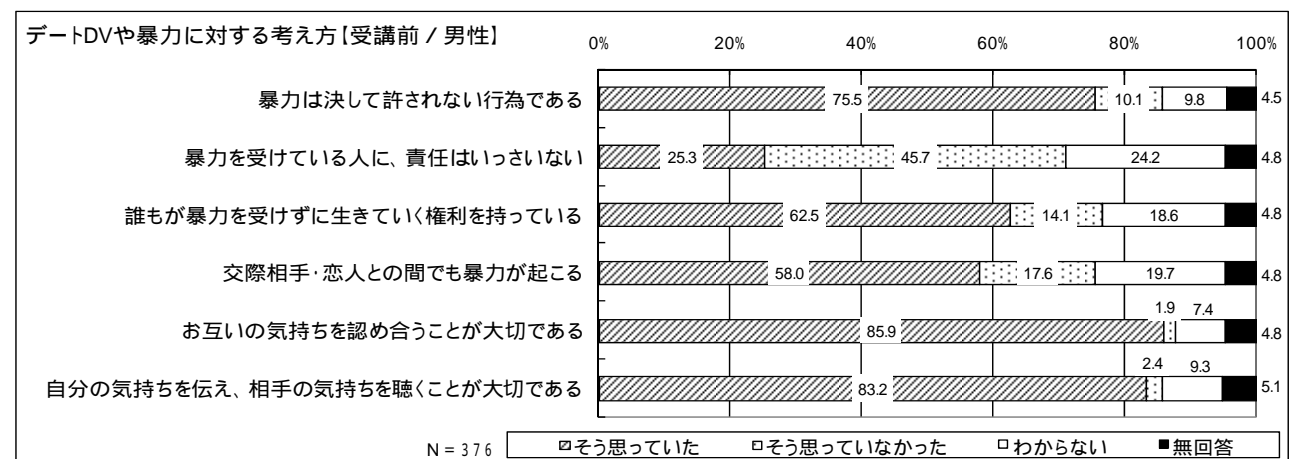
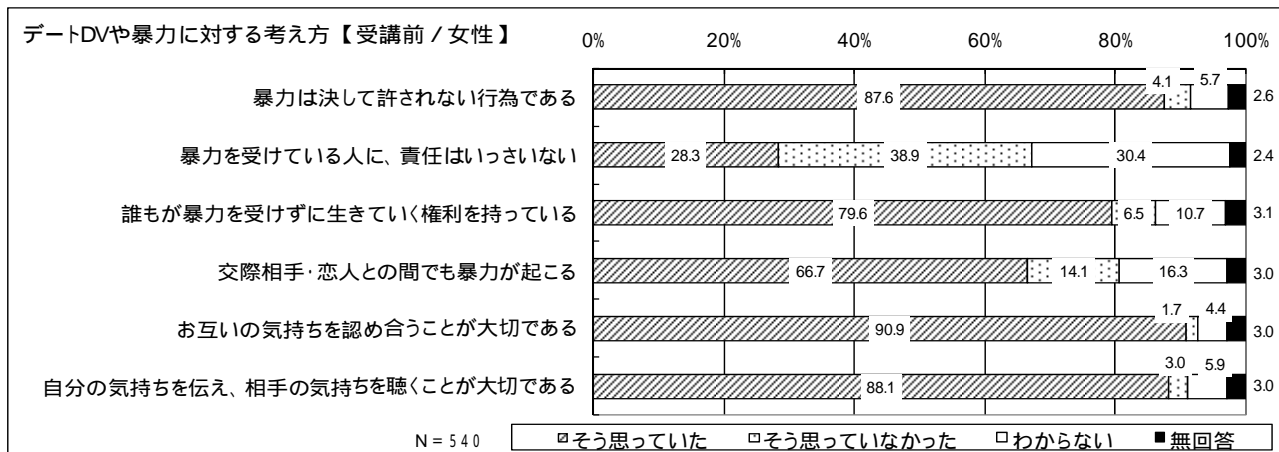
デートDVや暴力に関する6項目について、ワークショップ受講前後で考えが変わったかどうかを聞いた。ワークショップ受講前では、「お互いの気持ちを認め合うことが大切である」88.7%、「自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを聴くことが大切である」85.9%、「暴力は決して許されない行為である」82.5%で、「そう思っていた」と答えた割合が8割を超えている。

男女別にみると、「そう思っていた」と答えた割合は女性の方が高く、全ての項目で男性を上回っている。

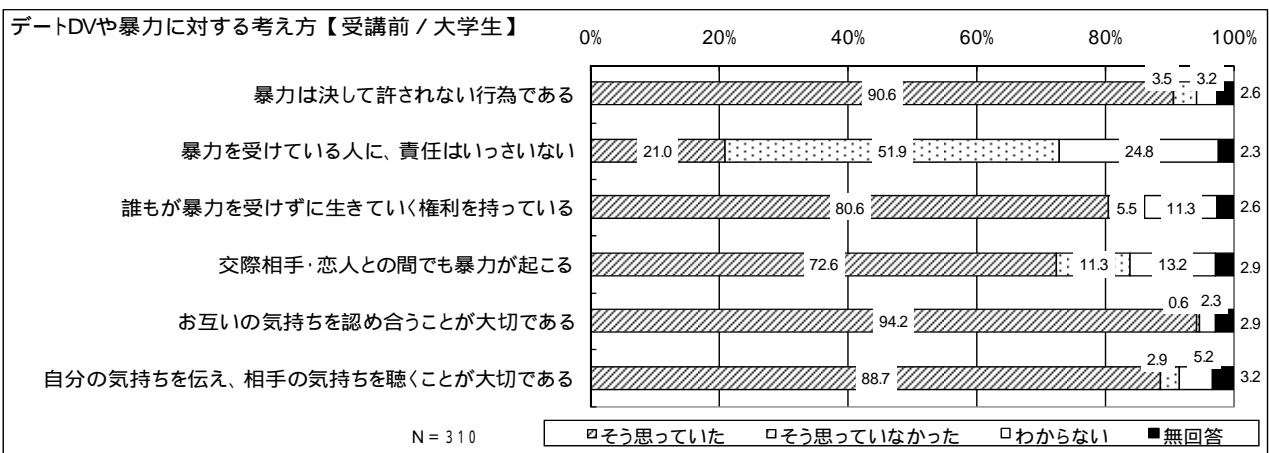
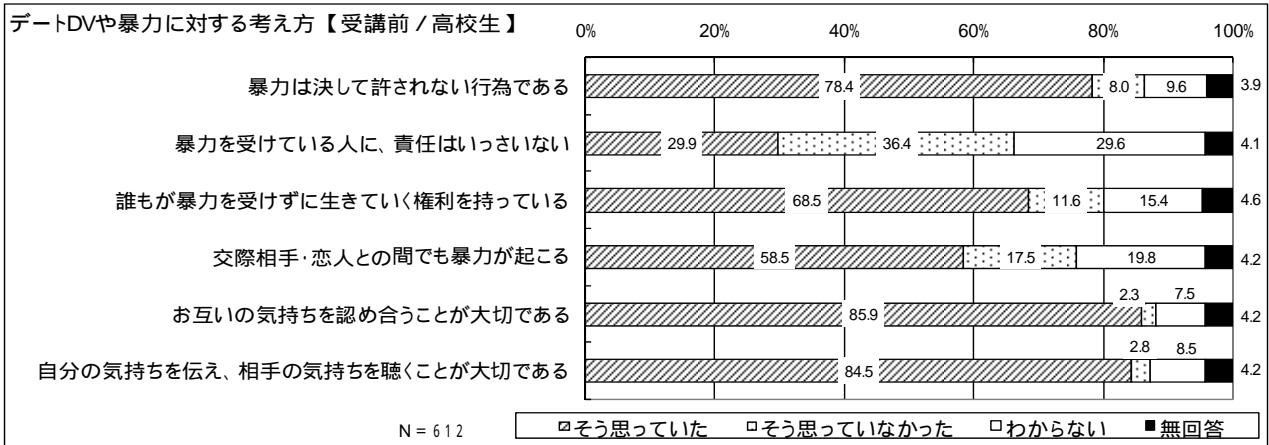
全体



男女別

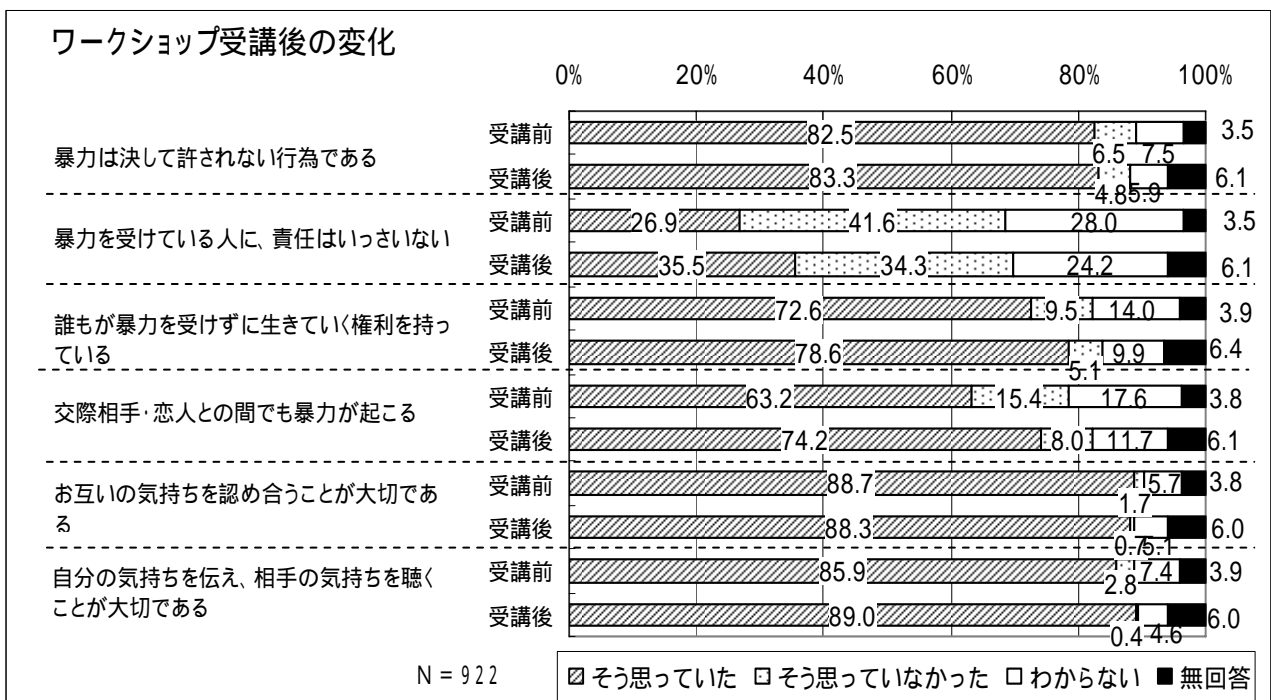


高校生・大学生別



2) ワークショップ受講後のデートDV や暴力に対する意識の変化

デートDVや暴力に関する6項目について、ワークショップ受講後の考え方の変化をみると、「お互いの気持ちを認め合うことが大切である」を除く5項目で「そう思う」割合が高くなっており、「交際相手・恋人の間でも暴力が起こる」で11ポイント、「暴力を受けている人に、責任はいっさいない」で8.6ポイント増加している。



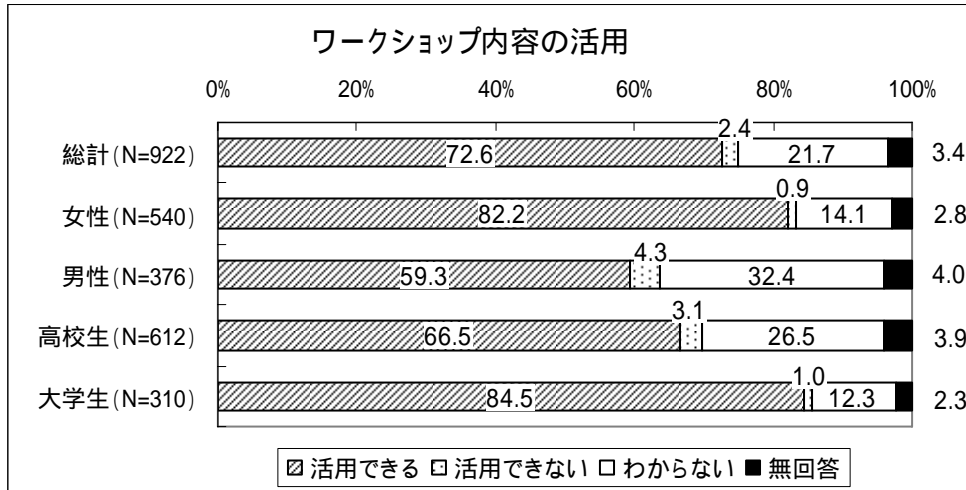
9. ワークショップを受講することの効果

1) ワークショップ内容の活用

「このワークショップを受けた内容を活用できると思うか」を聞いたところ、「はい」と答えた人は72.6%である。

男女別でみると、女性は82.2%、男性は59.3%が活用できると思うと答えた。

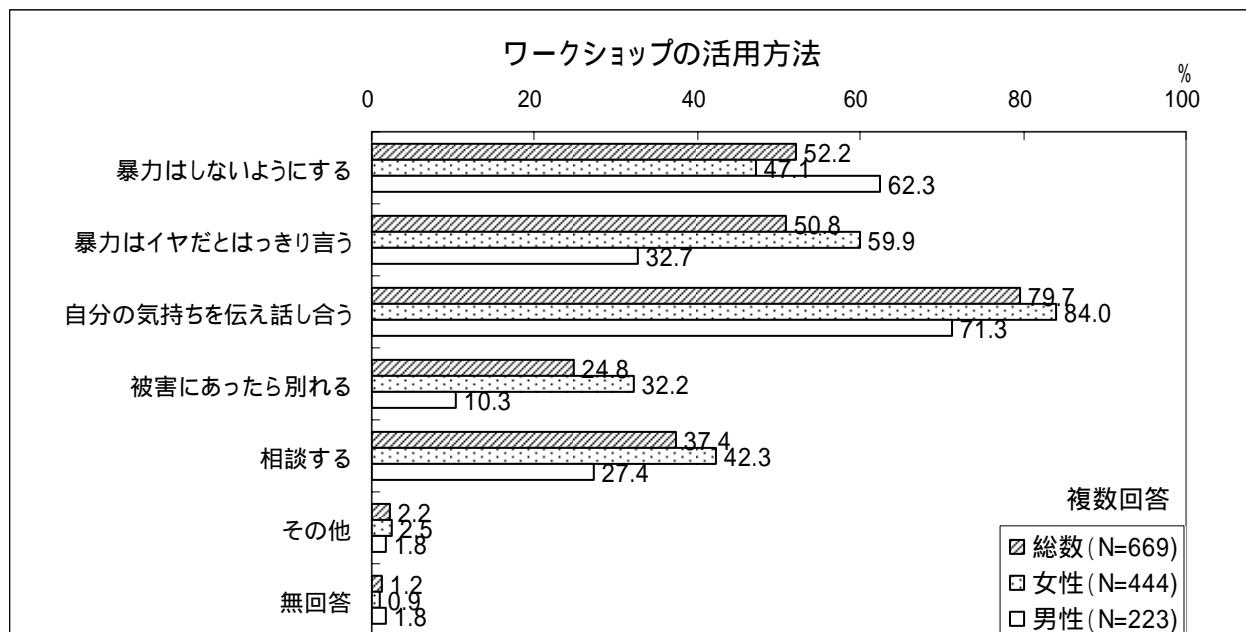
高校生・大学生別にみると、高校生は66.5%、大学生は84.5%が活用できると思うと答えた。



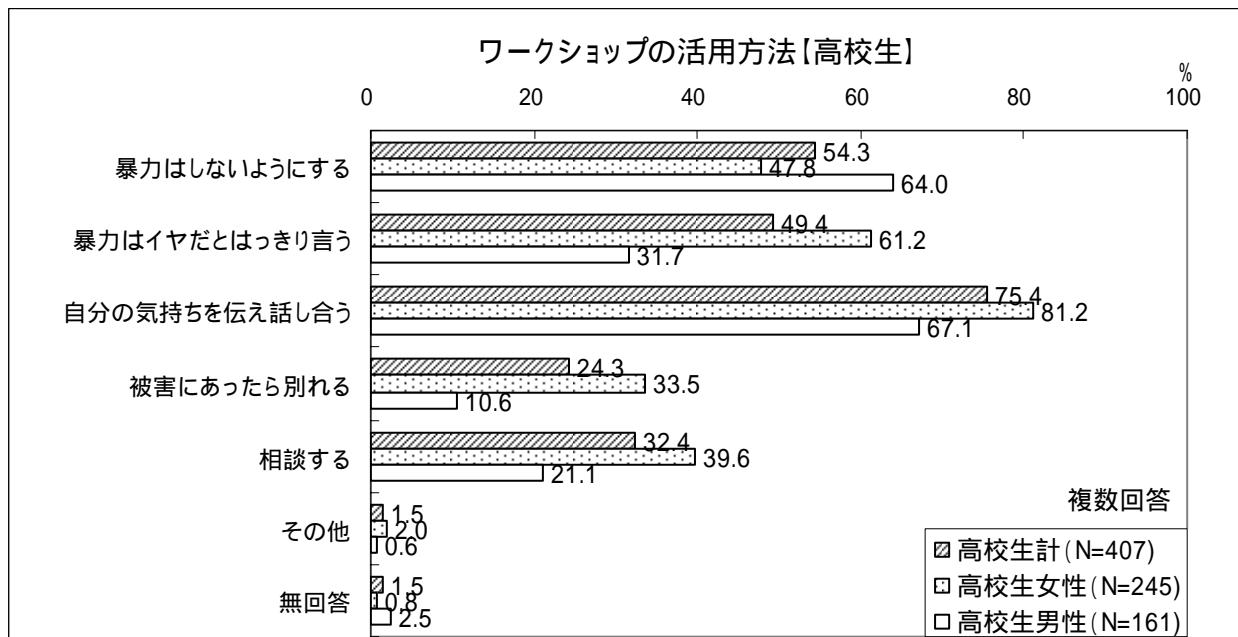
2) 活用方法

ワークショップの内容を活用できると答えた人のうち、「どんなことができそうか」を聞いたところ、「自分の気持ちを伝え話し合う」79.7%が最も多く、「暴力はしないようにする」52.2%、「暴力はイヤだとはっきり言う」50.8%、「相談する」37.4%、「被害にあったら別れる」24.8%の順であった。

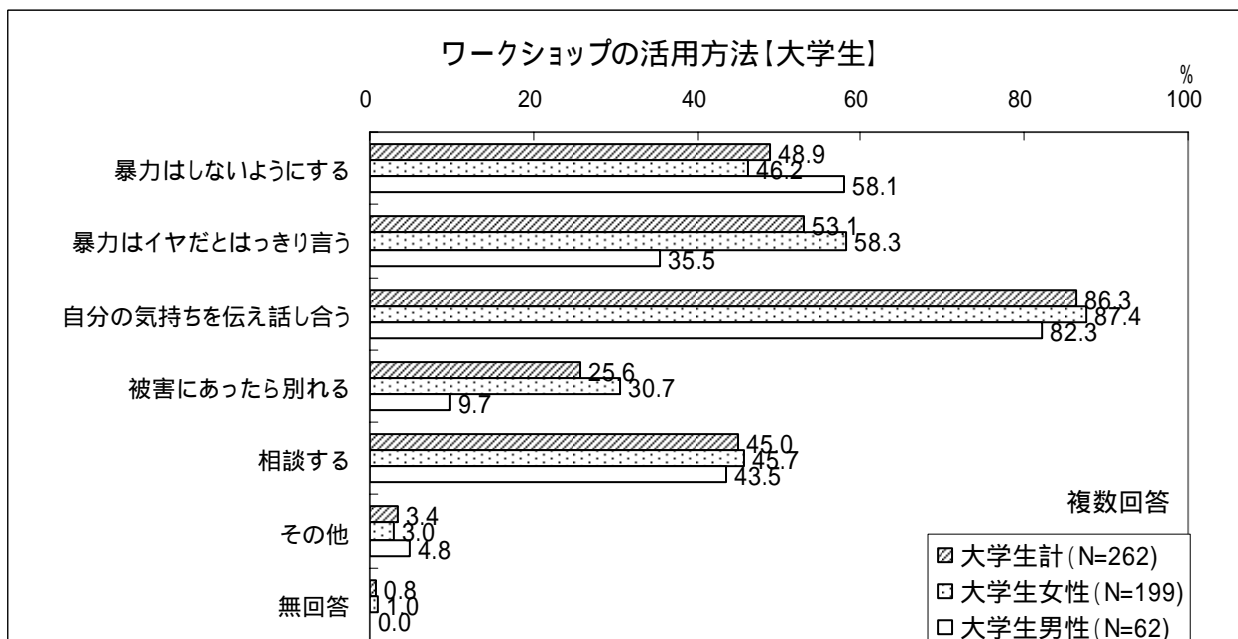
全体と男女別



高校生



大学生



10.自由記述(デートDVについての意見や感想)

特徴別件数

自由記述への回答者は558人あり、全体(922人)の概ね6割に相当する。意見の内容は「DV(デートDVや暴力)について」と「WS(ワークショップ)について」に大別され、それぞれ355件、203件であった。

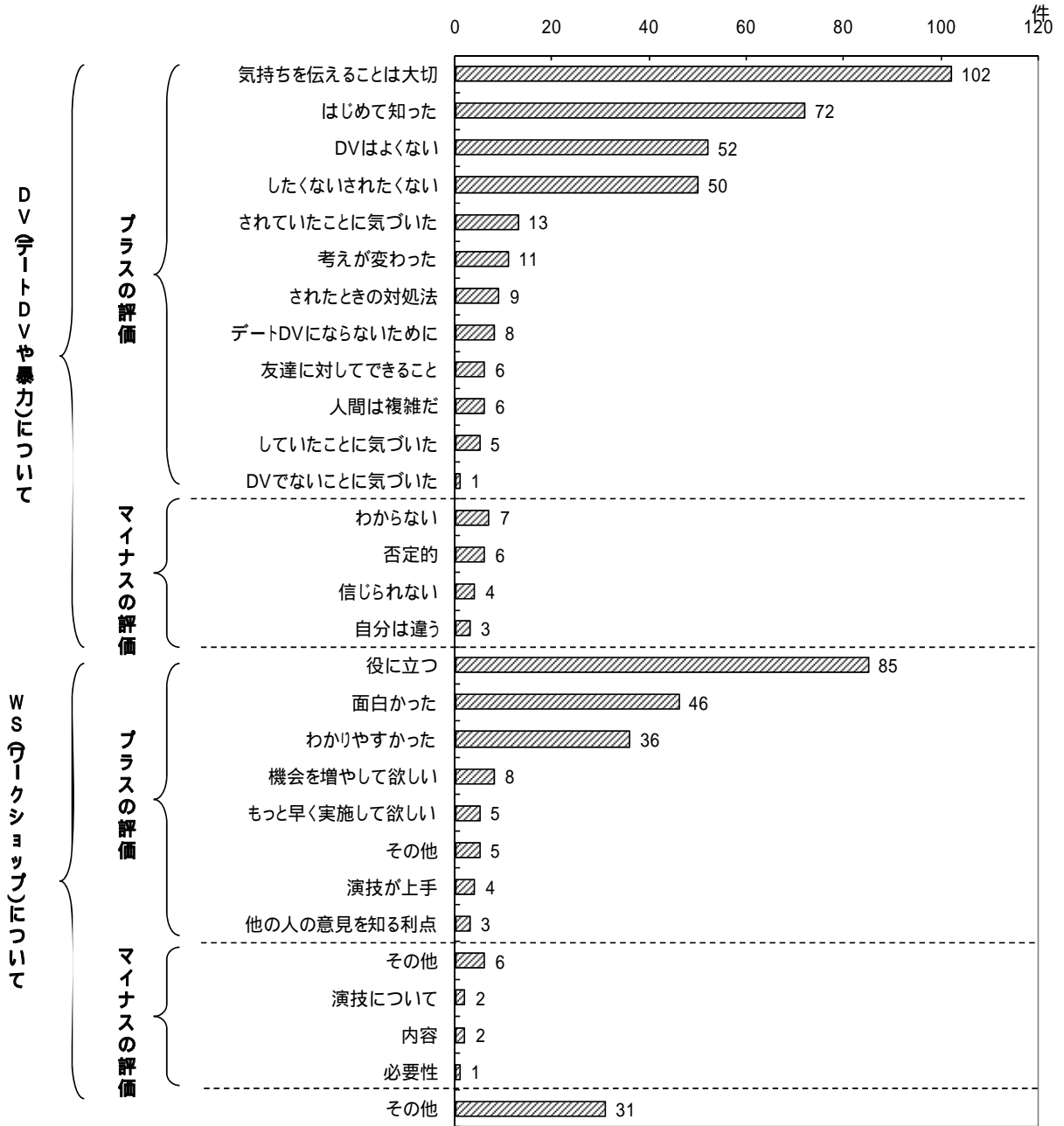
「DV(デートDVや暴力)について」では、「気持ちを伝えることは大切」102件、「はじめて知った」72件、「DVはよくない」52件、「したくない・されたくない」50件など、内容へのプラスの評価に関する意見が大半を占め、「自分は違う」「否定的」などのマイナスの評価は20件しか見られなかった。

「WS(ワークショップ)について」では、「役に立つ」85件、「面白かった」46件、「わかりやすかった」36件などプラスの評価が大勢を占め、マイナスの評価は11件しか見られなかった。

大分類		中分類		細分類				
DV(デートDVや暴力)について	355	プラスの評価	335	気持ちを伝えることは大切	自分の気持ちに気づくことの大切さ、相手の気持ちを考えることの大切さ、そのために話し合うこと、コミュニケーションの大切さに気づいたという意見	102		
				はじめて知った	恋人同士の間でも暴力がおきること、言葉やメールのチェック、経済的なことも暴力になること、など知識を得たことについての意見	72		
				DVはよくない	DV・デートDV・暴力はよくないという意見	52		
				したくない・されたくない	今後の生活で、デートDVをしたくない・されたくない・そのために気をつけていきたいなどの意思表示	50		
				されていたことに気づいた	今までの自分への気づき	13		
				考えが変わった	考えが変わったという表明	11		
				されたときの対処法	今後もしデートDVの被害にあったらどうするか?	9		
				デートDVにならないために	別れるべき・相手を選ぶべきなどの意見	8		
				友達に対してできること	友達に対してできることの気づき	6		
				人間は複雑だ	人間関係・男女関係の複雑さに気づいた	6		
				していたことに気づいた	今までの自分への気づき	5		
				DVでないことに気づいた	いまの恋人がよい人だとわかった	1		
				マイナスの評価	20	わからない	どこからDVなのか?定義は?交際経験がないからわからない	7
						否定的	しつげだ・甘えになる・考えすぎはよくないなど	6
		信じられない	起こることが信じられない	4				
		自分は違う	愛情表現だ・私はイヤでない・絶対しない	3				
WS(ワークショップ)について	203	プラスの評価	192	役に立つ	今後の生活に役に立つ・勉強になった・ためになった	85		
				面白かった	参加したことが楽しかった・面白かった	46		
				わかりやすかった	劇があってわかりやすかった・理解できた	36		
				機会を増やして欲しい	こういう機会は大切・増やして欲しい・続けて欲しい・もっとたくさんの人へ伝えてほしい・また聞きたい	8		
				もっと早く実施して欲しい	もっと早く聞きたかった・もっと早く実施すべき	5		
				その他	おとなにも実施すべき・気づききっかけになる・ありがとう	5		
				演技が上手		4		
				他の人の意見を知る利点	話し合えてよかった・いろんな意見を聞いてよかった	3		
				マイナスの評価	11	その他	少しおおげさ・人それぞれだ・きれいごとでは変わらない・もっと目を向けることがある	6
						演技について	もっと練習して欲しい	2
		内容	年齢にあったもっと深い内容を聞きたい	2				
		必要性	2回も必要ない	1				
その他	31		31			31		

自由記述回答者は、558人(大分類のDVについてとWSについては重複解答あり)

グラフ



自由記述の抜粋

意見の趣旨

DV はよくない	<p>DV がよくあることを知ることができた。DV をしてはいけないと思った！</p> <p>どんなに好きな人でも暴力を許しちゃいけないと思った。イヤと言ってもまだ暴力を続けるなら、別れたほうがいい。</p>
お互いを尊重したい	<p>劇を見て、デート DV がどのようなものかわかったし、身近にあるということを知りました。付き合うということは、お互いを理解し尊重するのが一番大切であると改めて思いました。</p>
考えが変わった	<p>今までデート DV のことは、そんなに気にしなかったが、2 時間授業を受けて変わった気がする。これからは気をつけていきたいと思う。</p> <p>なんか、すごく身近な事なんだなって思った。暴力って力での事だけだと思っていただけ、言葉や愛情からの束縛などもデート DV につながる事もあると知って、自分も気をつけなきゃいけないんだと感じた。</p>
気づいた	<p>本人にその気がなくても、何気ない行動によって相手が傷ついてしまうことに改めて気づかされました。パートナーを大事にしようと思いました。性別は関係なく、互いを尊重することが必要であると感じました。</p> <p>今回の話を聞いて、自分が暴力ではないと思っていたことが、本当は暴力かもしれないということに気づいた。人それぞれ感じ方は異なると思うが、もしも友達に相談されたときに、今回のお話を思い出して、上手に相談にのって助けられたらなあと思った。</p>
気持ちを伝えることは大切	<p>DV をしている・されているという感覚は、やはり一人一人違うもので、自分が気付いていなくてもしていたり、されていたりすると思う。だからこそ、このワークショップで言っていたように、双方のコミュニケーションが重要だと感じた。</p> <p>お互いの意見を尊重し合うっていう当たり前のことがなかなかできてなかったので気をつけたいです。</p> <p>話を聞いて、些細なことでも DV になるんだと改めて思いました。これからは、お互い気持ちよくいい交際ができるように、自分の意見などハッキリ伝えるようにがんばります。</p> <p>やっぱり好きな人にイヤというのは大変かもしれないけど、きちんと言うのが大切だと思いました。</p> <p>楽しく、分かりやすく、参加できて良かったと思いました。みんなそれぞれ違う意見を持っていることがよくわかったし、気持ちはそれぞれだと思った。けどデート DV が起こらないように気持ちをハッキリ言えるようになりたいです。</p> <p>気持ちの伝え方、話し方によって、その人の印象がすごく変わってくると思う。だから、上から目線とかではなく、その人と対等に話していけるといいと思う。「ありがとう」「ごめん」という言葉をちゃんと使える人になりたいです。</p> <p>好きになると周りが見えなくなってしまうたり、別れたくない思いで我慢をすることが多いですが、これからはきちんと自分の気持ちを伝えられるようになりたいと感じました。</p> <p>私は今の彼氏に物を投げつけてしまったことがあるのですが、自分の中の不満だったりという思いをうまく伝えられなかったら、物に当たってしまったと思うので、これからはきちんと伝え合うことが大事だと思いました。</p>
されていたことに気づいた	<p>私は今までこのようなことをよくされてきました。しかし、この話を聞いて、なんだか気持ちがスッキリした感じで、心の重みが少し取れたような気がしました。学校の勉強も大切だけど、このような話を聞く機会がもっとあっても良いと思いました。</p> <p>つい最近まで好きだった人（元彼）と連絡を取り続け、付き合っていないのにお互い好きだという関係だけで束縛されていました。はっきり何をするなど言わずとも、機嫌が悪くなったりして顔を伺う日々でした。もう連絡を取っていないのです、この授業で教えて頂いたことを活かし、これから過ごしていこうと思います。本当にありがとうございました。</p> <p>友達でそういった暴力を受けている人がいて、相談を受けたことがあったので参考になった。また、感情のコントロールができない中高生時代にデート DV されたことも、したこともあると感じたので、今は自分は絶対にしないけれど、相手はそのまま大人になっていたりするのかと不安になった。</p> <p>携帯のチェックも DV の一つなんて全く思っていなかったのでショックを受けました。「まあしょうがないか」で終わらせたくないな。ちゃんとイヤって言えばよかったなって思います。</p>
していたことに気づいた	<p>まさに自分のことで焦りました。</p> <p>親しい仲だから許されると思っていた行為も、DV の一種だと知り残念です。反省します。</p>

したくないされたくない	デートDVは絶対にあってはならないことだと思うので、自分ではやらないようにしたいです。
	私はまだ交際したことがないからよく分からないけど、相手が嫌がることはしてはいけないと思うし、自分にされたらイヤだから絶対にダメだと思う。そういう暴力が早くなくなればいいと思います。今日はありがとうございました。
	私は相手に意見をハッキリ言うことを心掛けていますが、逆にそれが相手を傷つけたりしているのかと考えました。また、お互いの考えを求めすぎないで、尊重することは分かっているけど、自分の気持ちを押しつけたりしてしまうことがあるので、気をつけねばと思います。ありがとうございました。
自分がされたら	怖いなあと思った。自分がそうなったり、友達がされたら、誰かに相談しようと思いました！！
友達に対してできること	私はデートDVなどされたことはないけど、友達から聞いたことはある。以前は友達がデートDVで困っていた時、助けられなかったから、今度は助けてあげたい。
	好きって言う感情は普通の状態ではないから、暴力をしたり、されたりしても、そのまま交際を続けている事が多いと思う。やはりそういう時は第三者がしっかり見て、おかしいと言うべきです。
はじめて知った	デートDVという言葉があまり知られていないことや、身体的な暴力以外にも暴力の種類がたくさんあることはあまり認知されていないことから、デートDVは実際受けていても被害者だと気付いていないことが多いように思う。もっと早く知りたかった。
	はじめて聞きました。今まで縁のないことだったので知ってためになりました。もしも今後、こういうことがあったり、されたりした場合、この授業で習ったことを活用できるといいなあと思います。
	DV=身体的な暴力というイメージしかなかったから、今回のワークショップでやっていた劇のようなことも、相手が怖いと感じたり、支配されていると感じたりした時点で暴力に値するのだと思った。夫婦間のDVよりも起こる可能性は高いし、逆に夫婦間よりも見つけにくいし、被害者や加害者や周りの人も気づきにくいのではと感じた。
DVについて、いろいろと話し合うことでよかった	DVについて劇を交えて、色々話し合うことができて良かった。言いたくても言えないことがあったり、相談できないこともあったりするけれど、一人で抱え込まずに、誰かに相談することが大切であると思う。
演技が上手	みなさん演技が上手で、臨場感があったので、デートDVについて真剣に考えられた。
面白かった	劇がわかりやすく面白かった。
	暴力だと思っていなかった事がデートDVだと知れて良かった。楽しく学べたと思います。
もっと早く受けたかった	もっと早くにワークショップを受けたかった。相手に伝えるのは、本当に勇気がいることだと思います。
	デートDVという言葉があまり知られていないことや、身体的な暴力以外にも暴力の種類がたくさんあることはあまり認知されていないことから、デートDVは実際受けていても被害者だと気付いていないことが多いように思う。もっと早く知りたかった。
役に立つ	今後の人生のためになりそうです。
	はじめはデートDVの事がよくわからなかったが、カードや発表をしていくにつれて、暴力がどういうものなのかよくわかったし、これからの生活に役立つと思う。
	私も前にこのようなことを受けたことがあり、とても勉強になりました。今は自分でけじめをつけ、別れて自分らしい毎日を送っているから、今回の話を聞いて、そういう経験をしている人は自分らしさを取り戻してほしいと思いました。
	デートDVという言葉は知っていました。私自身、ケンカで相手をぶったり、相手に八つ当たりされたりしたことがあり、これらもDVに入ると知ってとても勉強になりました。お互いの信頼関係が大切だとわかり、とても良い経験になりました。
	テレビとかで何度か聞いたことがあったから知っていたけど、実際にこういうのがあって良かった。
	メールのチェックなどもデートDVの一種だと聞いて少し驚きました。楽しく実演を見ながら、自分も参加して勉強することができたのでとても良かったです。これからは、嫌なことはハッキリ言える勇気と、相手にも言ってもらえる状況を作ることが大切だと思いました。ありがとうございました。
わかりやすかった	実際に劇をやってもらったのが、リアルでわかりやすかった。こんな事も暴力に入ることなんだと、改めて認識することがたくさんあった。
	身近な人からのDVはとても苦痛であることがよくわかりました。ワークショップはとてもわかりやすかったです。ありがとうございました。

調査結果の概要

< 教職員 >

調査結果の概要 < 教職員 >

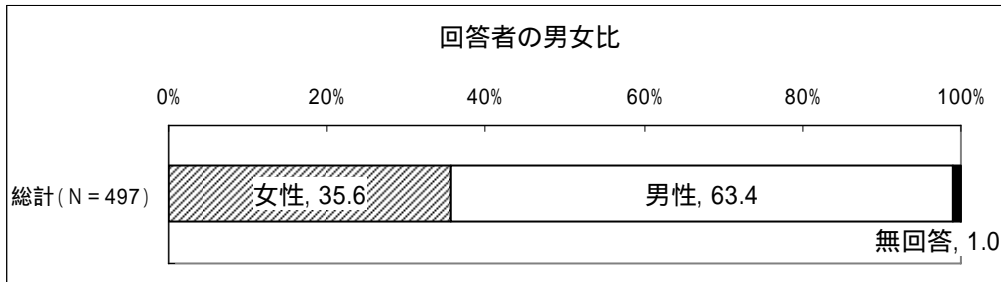
1. 回答者の属性

本調査における教職員の回答総数は 497 人、うち女性 177 人(35.6%)、男性 315 人(63.4%)であった。
年代別にみると、30 代以下 109 人(21.9%)、40 代 206 人(41.4%)、50 代以上 177 人(35.6%)である。

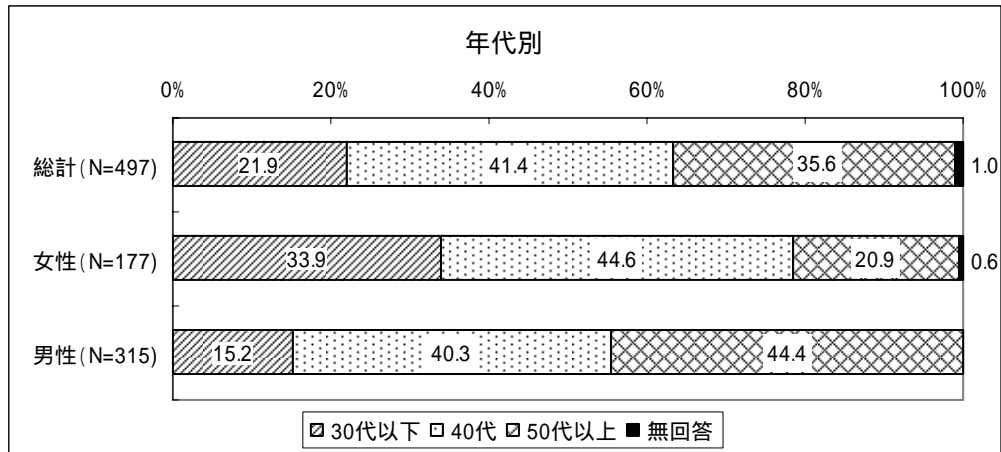
職種別にみると、一般教員が 420 人(84.5%)で大半を占め、養護教諭・カウンセラー 7.4%、管理職 3.0%、その他 4.0%である。

学校種別にみると、市立 367 人(73.8%)、県立 98 人(19.7%)、私学 32 人(6.4%)である。

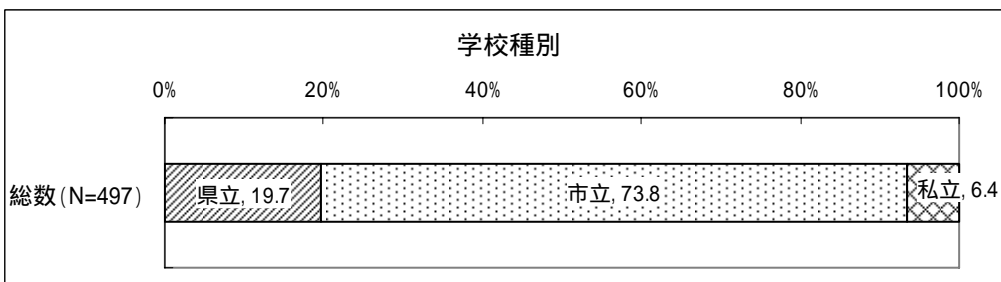
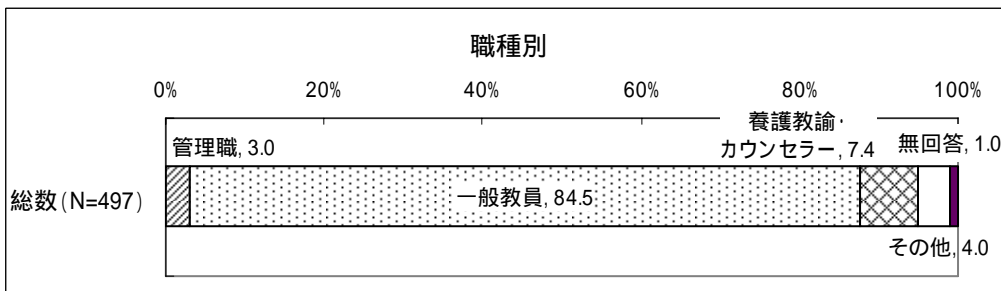
1) 男女別



2) 年代別



3) 職種・学校種別

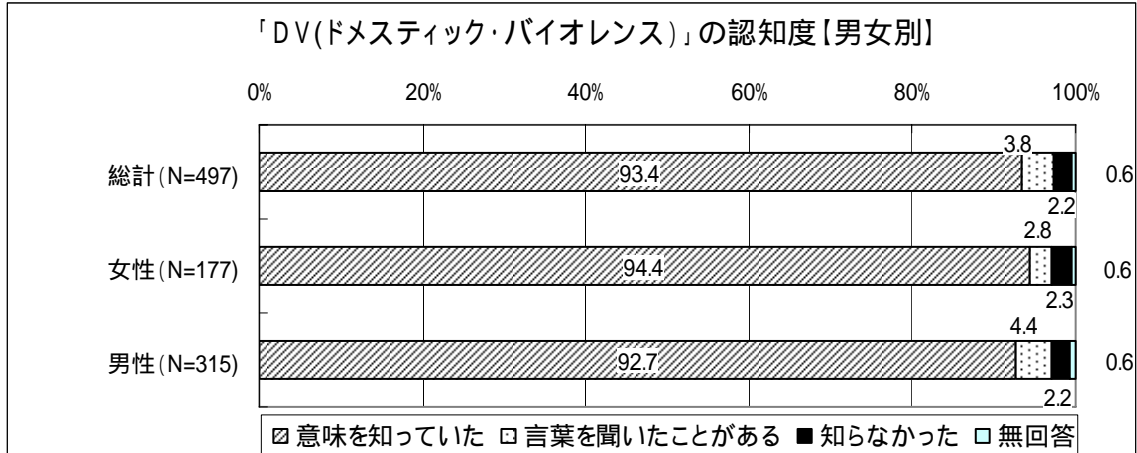


2. DV及びデートDVの認知度

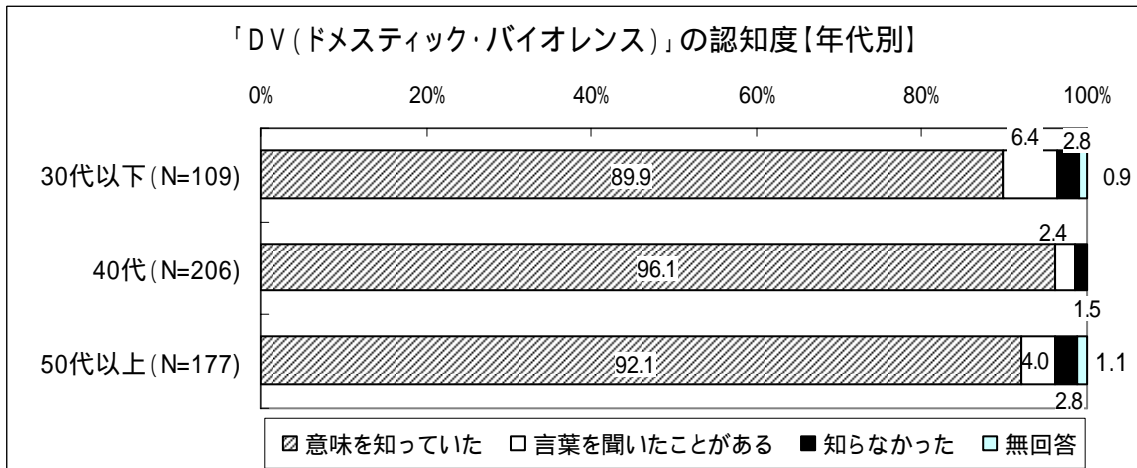
1) DVの認知度

「DV(ドメスティック・バイオレンス)について、知っていたか」という問いについて、「意味を知っていた」と答えた人は9割(93.4%)を占め、以下「言葉を聞いたことがある」3.8%、「知らなかった」2.2%である。

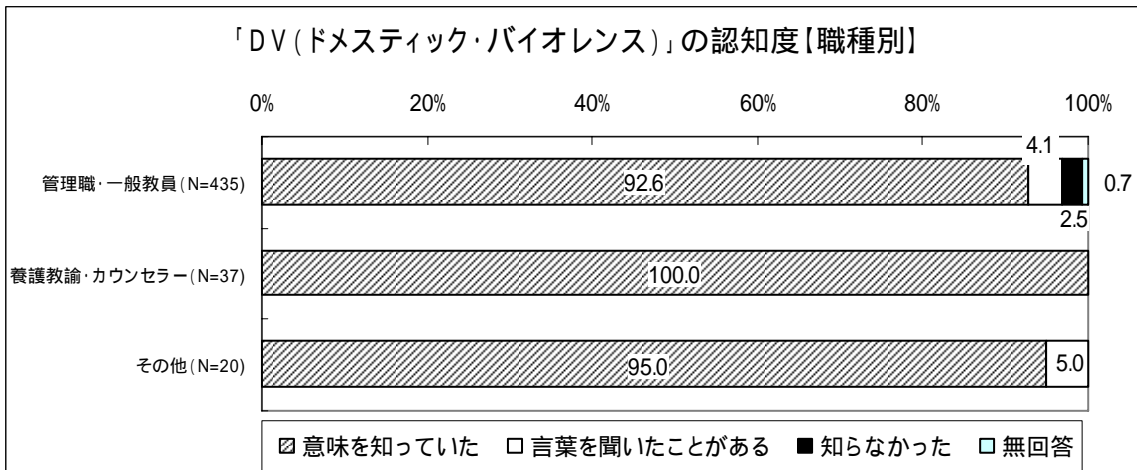
全体と男女別



年代別



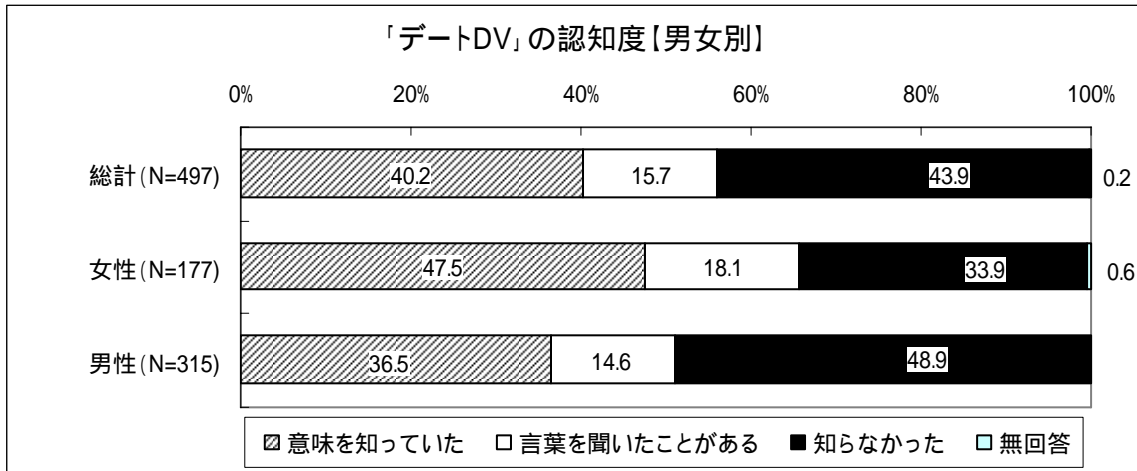
職種別



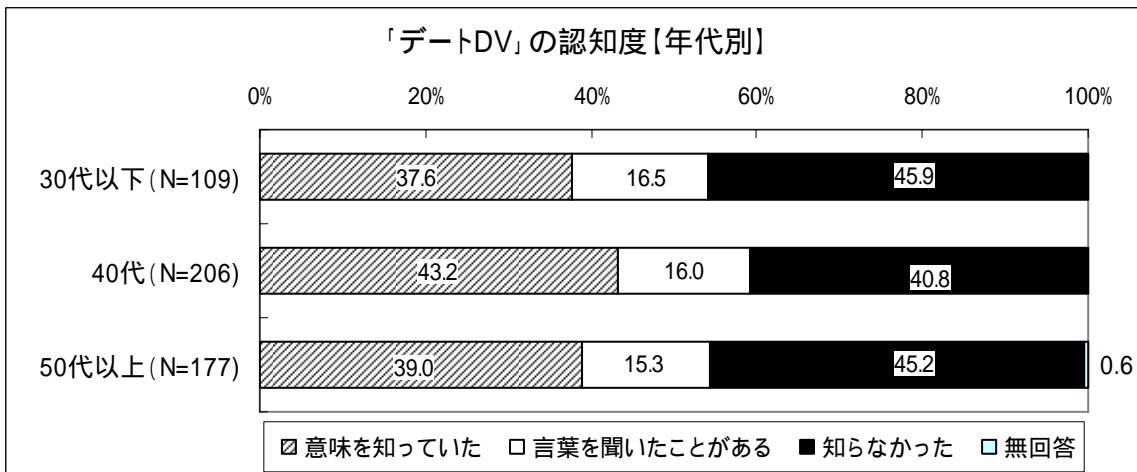
2) デートDVの認知度

「デートDVについて知っていたか」を聞いたところ、「意味を知っていた」40.2%、「言葉を聞いたことがある」15.7%、「知らなかった」43.9%である。

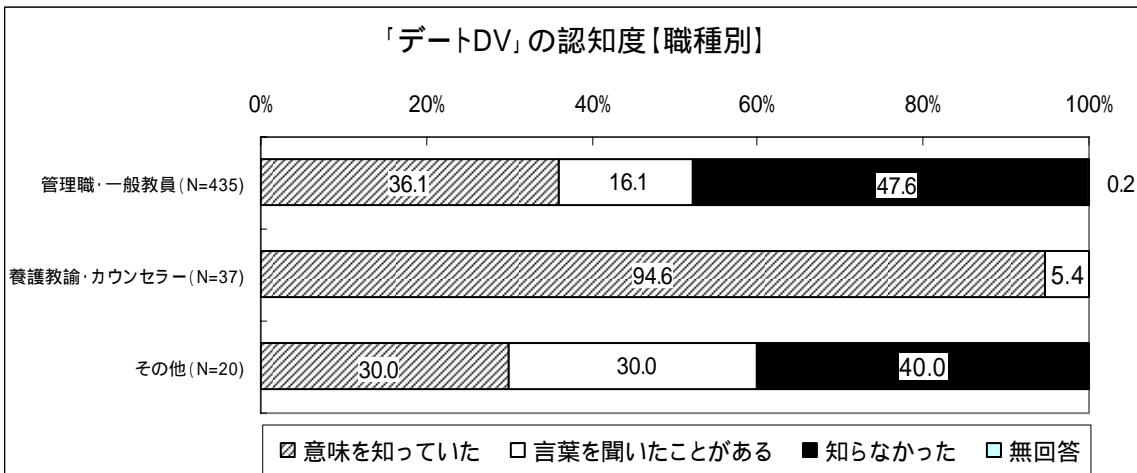
全体と男女別



年代別



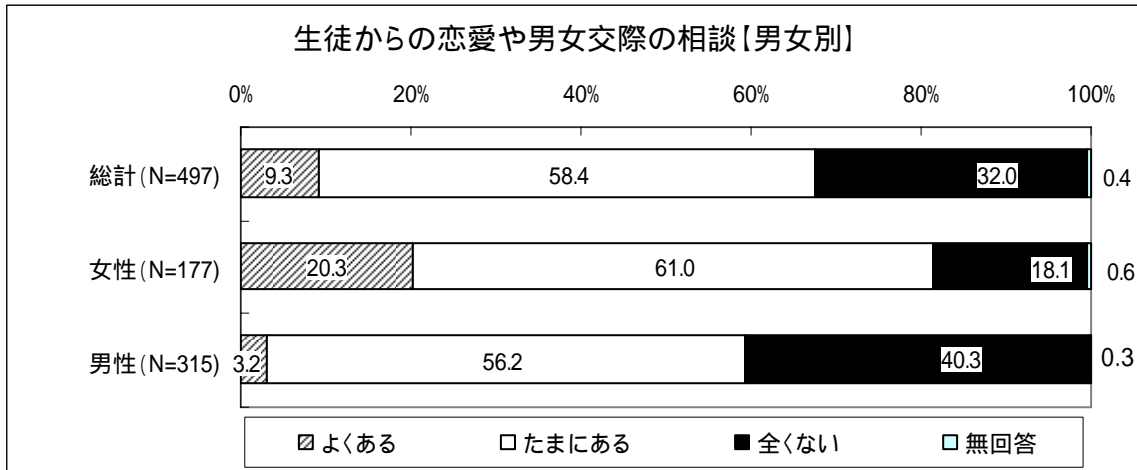
職種別



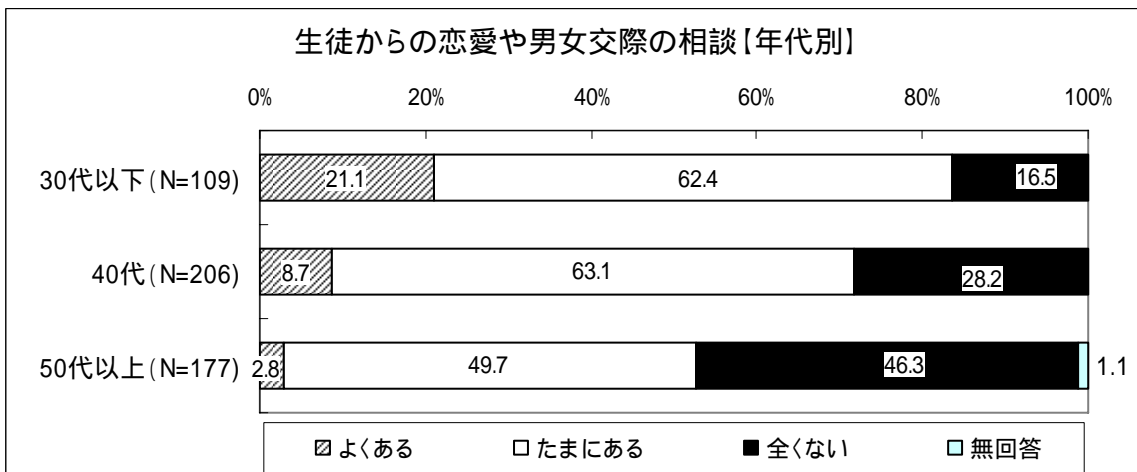
3. 生徒からの恋愛や男女交際についての相談

「生徒から、恋愛や男女交際について相談されたことがあるか」という問いについて、「よくある」と答えた人は9.3%、「たまにある」は58.4%、「全くない」は32.0%である。

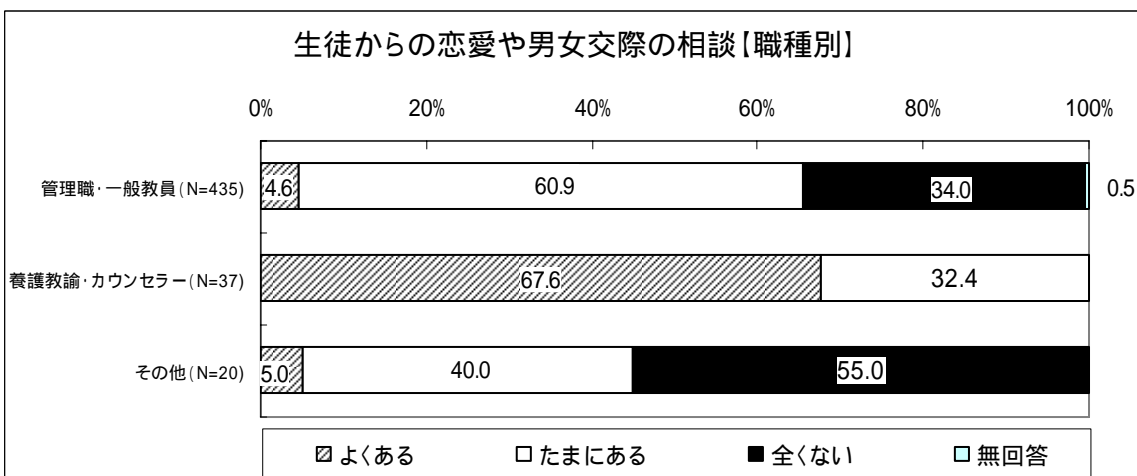
全体と男女別



年代別



職種別

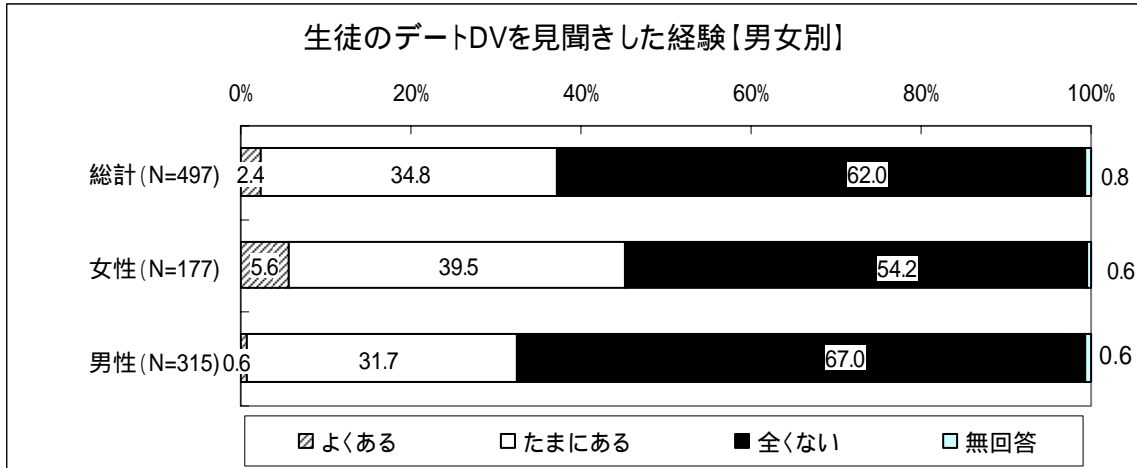


4. 生徒のデートDVを見聞きした割合

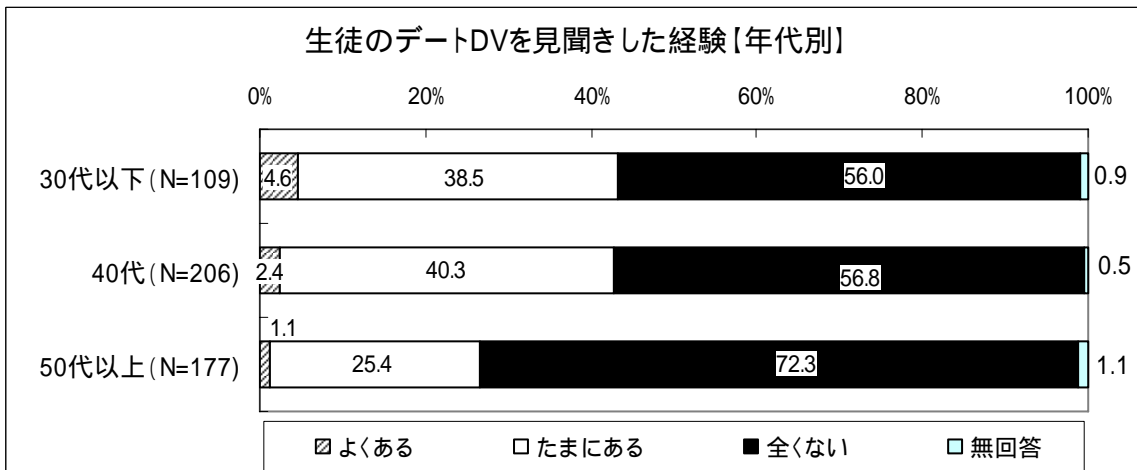
1) 生徒のデートDVを見聞きした割合

「職場で、生徒のデートDVを見聞きしたことがあるか」という問いについて、「よくある」2.4%、「たまにある」34.8%、「全くない」62.0%である。

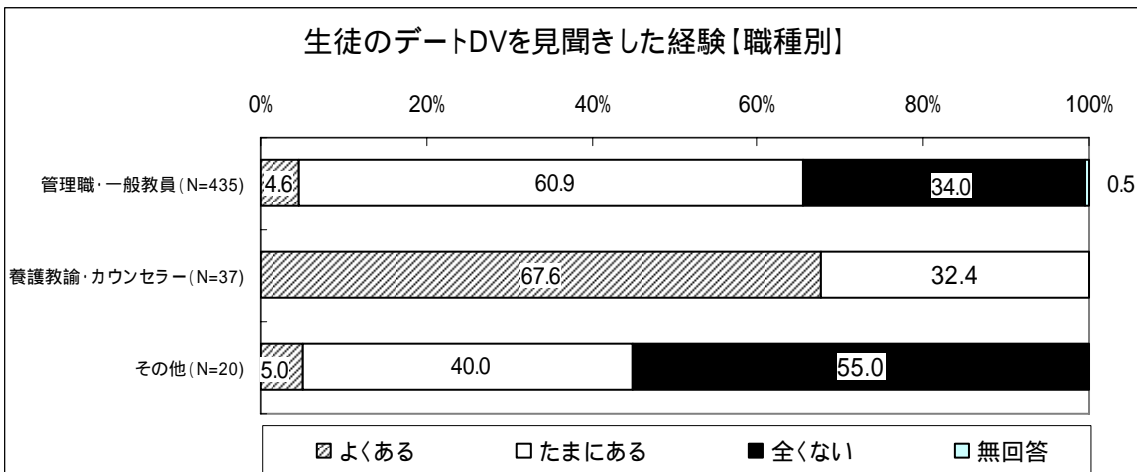
全体と男女別



年代別



職種別

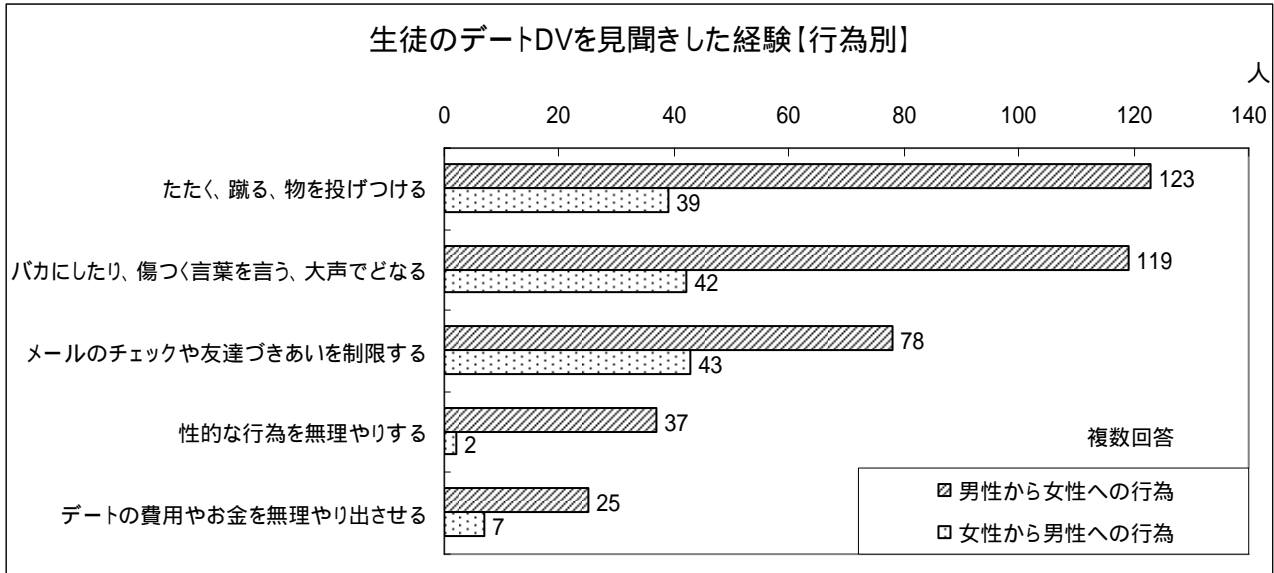


2) 見聞きした生徒のデートDVの行為

生徒のデートDVを見聞きしたことがある人のうち、デートDVの行為別に聞いたところ、いずれの行為も、男性から女性への行為を見聞きした人が多い。男性から女性に対する行為は、延べ382人が見聞きしており、女性から男性に対する行為を見聞きした人(延べ133人)の約3倍である。

男性から女性に対する行為では、「たたく、蹴る、物を投げつける」123人、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」119人の順に多く、教職員の約4人に1人の割合で見聞きしている。

女性から男性に対する行為では、「メールのチェックや友達づきあいを制限する」43人、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」42人が多い。

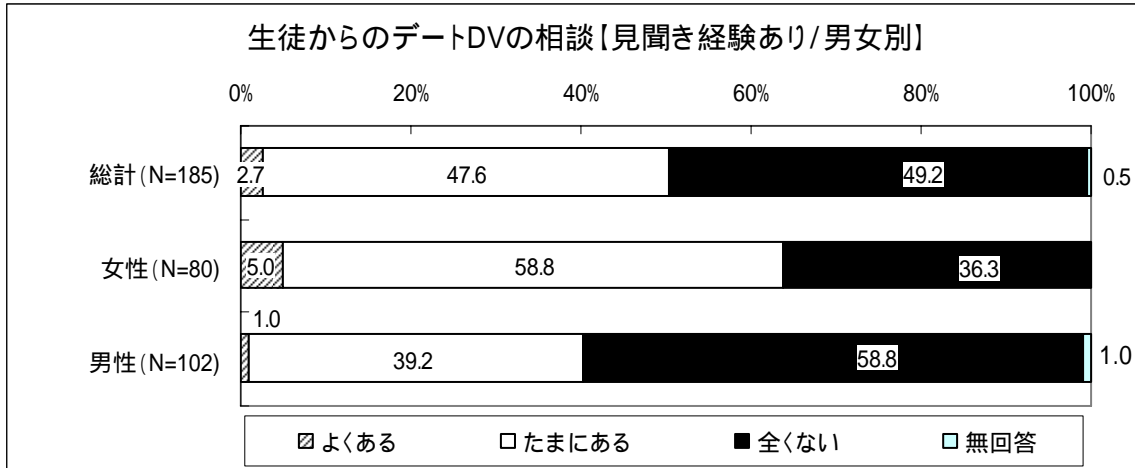


5. 生徒からのデートDVの相談

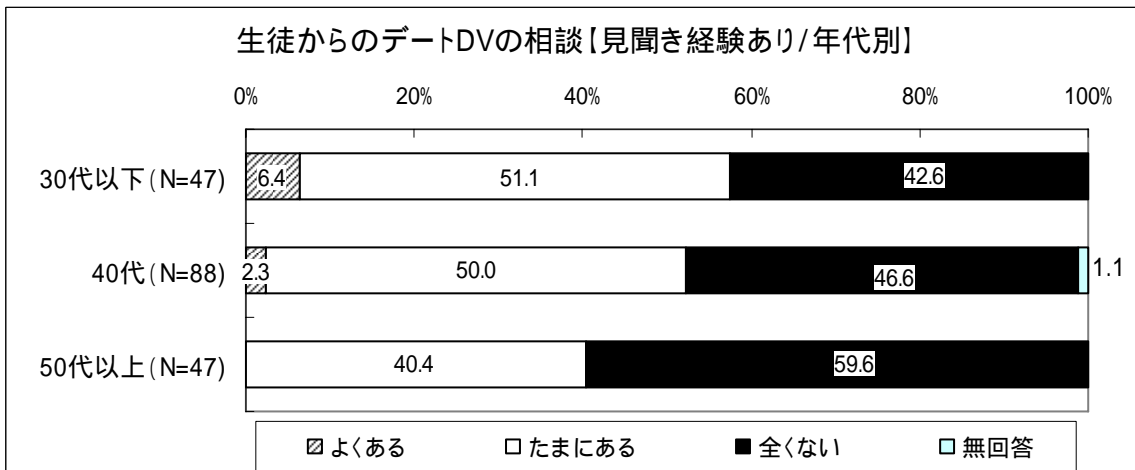
1) 生徒からのデートDVの相談

生徒のデートDVを見聞きした経験がある人に、「生徒から、デートDVについて相談されたことがあるか」と聞いたところ、「よくある」が2.7%、「たまにある」が47.6%であり、約半数がデートDVの相談を受けている。

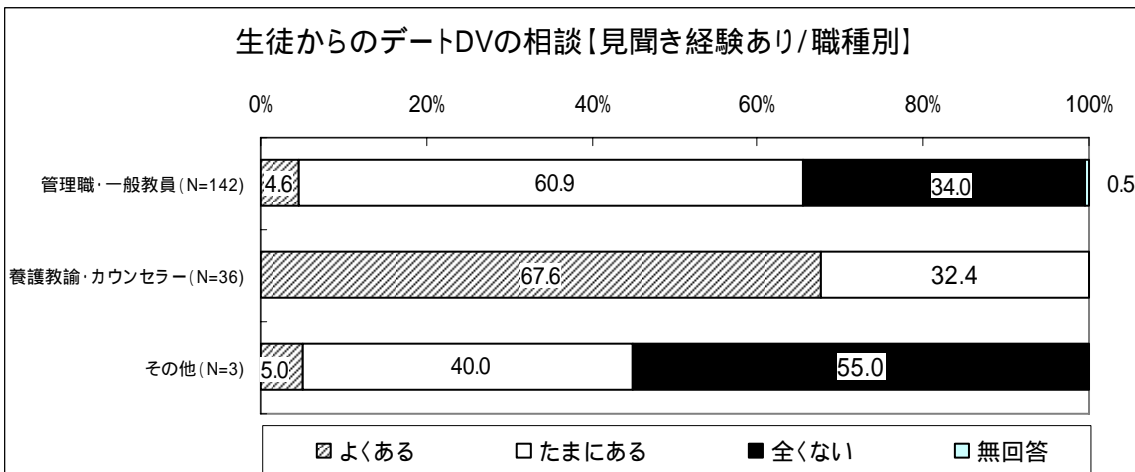
全体と男女別



年代別

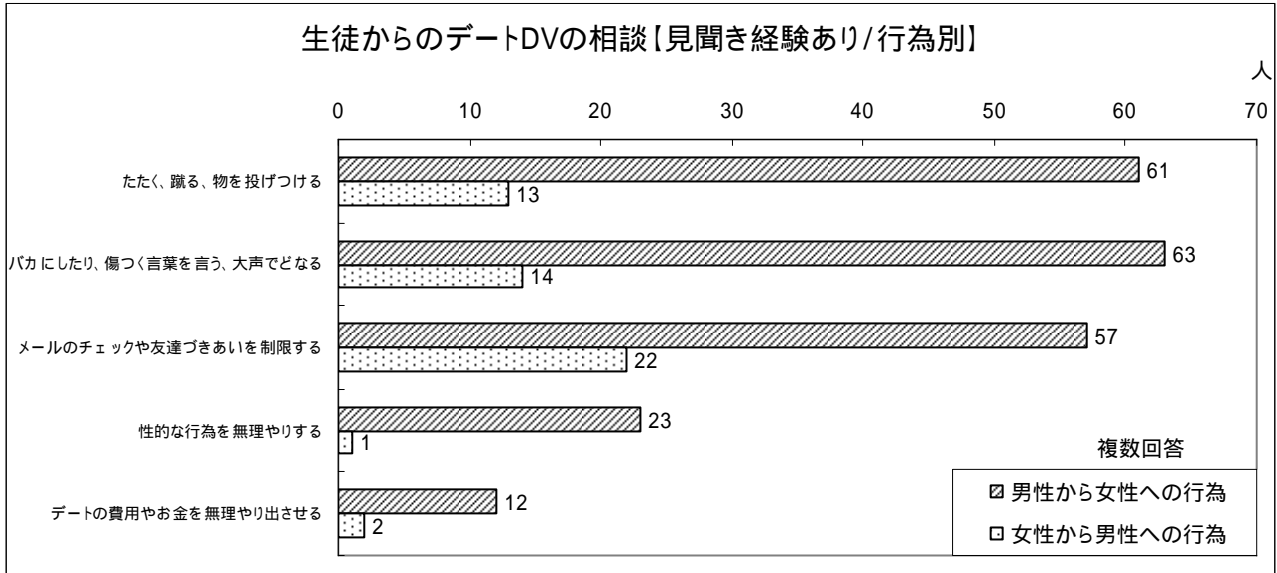


職種別



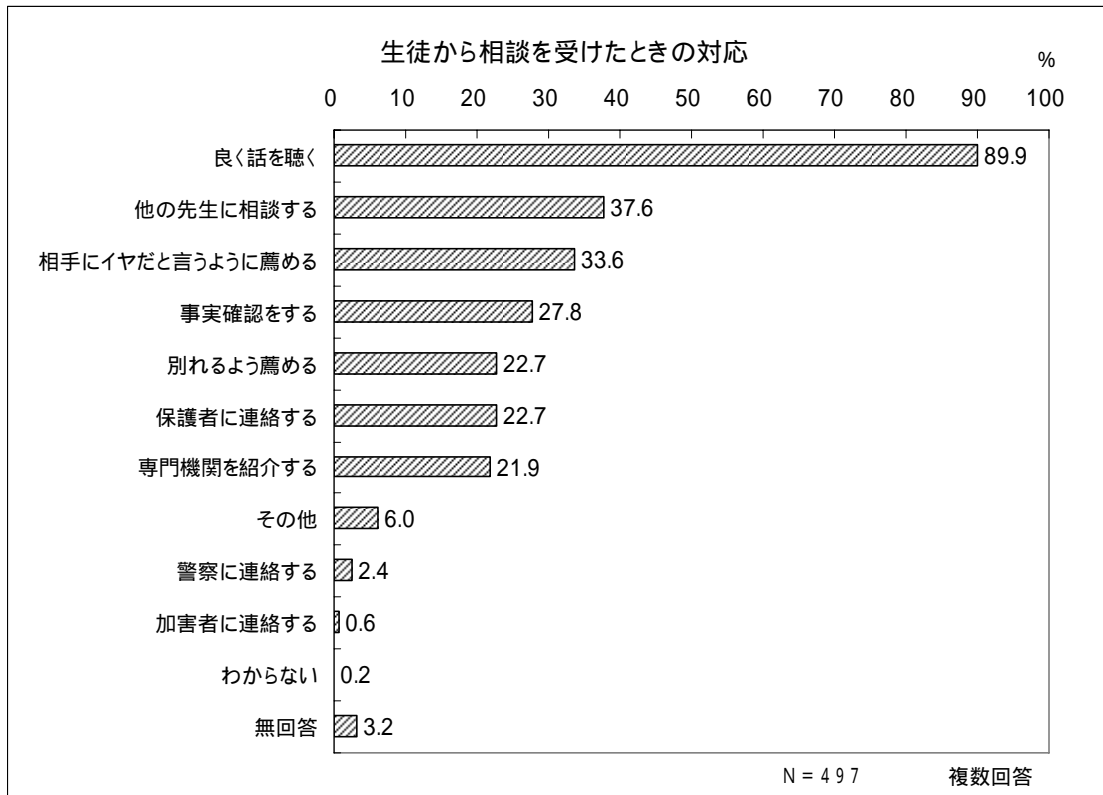
2) 生徒から相談を受けたデートDVの行為

生徒からデートDVについて相談されたことがある人に、デートDVの行為別に聞いたところ、いずれの行為も、男性から女性に対するものの相談が多い。男性から女性への行為では、延べ216人が相談を受けており、女性から男性への行為の相談(延べ52人)の約4倍である。男性から女性に対する行為では、「バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる」63人、「たたく、蹴る、物を投げつける」61人、「メールのチェックや友達づきあいを制限する」57人の相談が多くなっている。



6. 生徒から相談を受けたときの対応

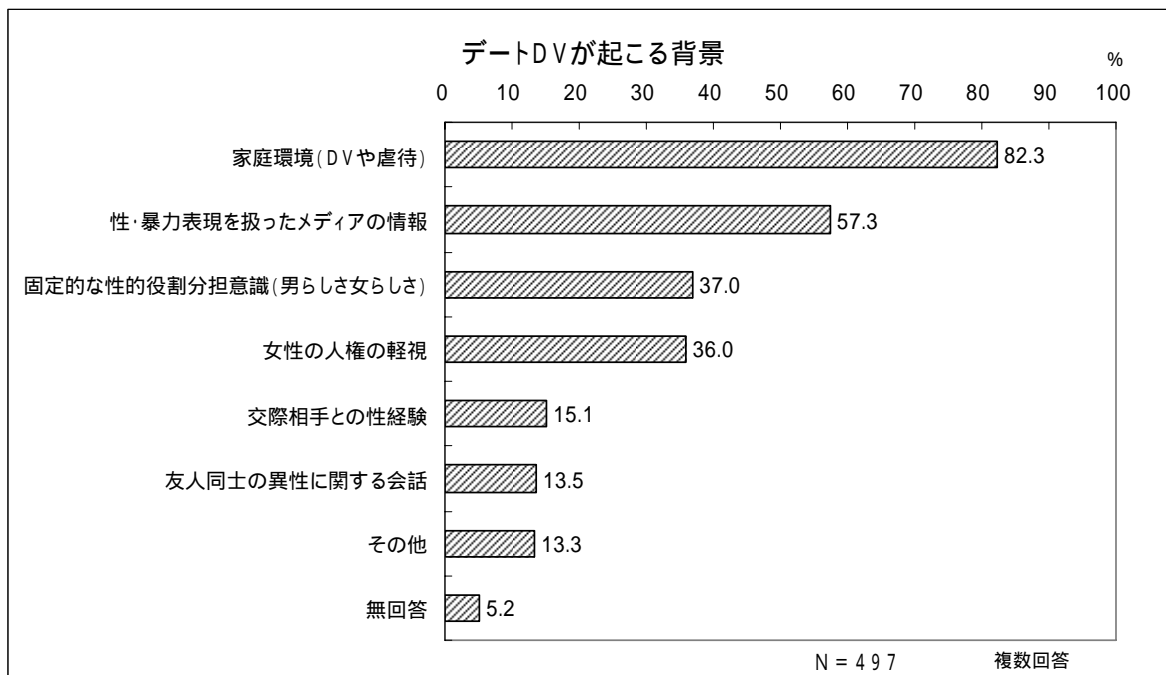
「もし、生徒からデートDVについての相談を受けたとき、どう対応するか」を聞いたところ、「良く話を聴く」89.9%が最も多く、次いで「他の先生に相談する」37.6%、「相手にイヤだと言うように薦める」33.6%の順となっている。



7. デートDVが起こる背景について

「デートDVが起こる理由として、どんなことが考えられるか」を聞いたところ、「家庭環境(DVや虐待)」82.3%が最も多く、以下、「性・暴力表現を扱ったメディアの情報」57.3%、「固定的な性的役割分担意識(男らしさ女らしさ)」37.0%、「女性の人権の軽視」36.0%の順となっている。

また、デートDVが起こる理由を、「その他」(自由記述)で回答があったのは、61件である。内容は様々であるが、キーワードから分類すると、「未成熟」「家庭環境・社会環境」「自己中心的な性格」などが挙げられている。



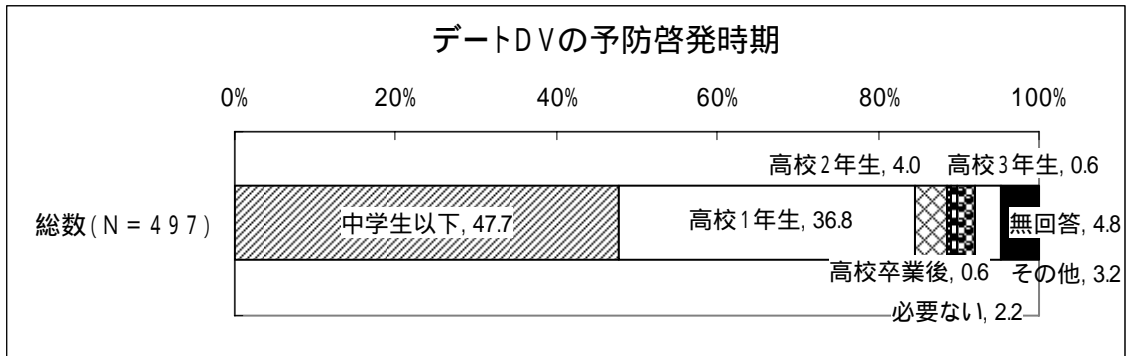
その他の記述(キーワード)	件数
未成熟	15
家族環境・社会環境	8
自己中心的な性格	8
本人の性格	6
歪んだ価値観	6
コミュニケーション能力不足	3
依存的傾向	3
人権意識の低さ	3
遺伝的生物的行動	2
人間関係の希薄さ	2
ストレス	1
病的な資質	1
その他	3
総計	61

8 . デートDVについての予防啓発時期

1) デートDVについての予防啓発に適した時期

「デートDVの予防啓発を受けるのは、いつ頃がよいか」と聞いたところ、「中学生以下」47.7%が約半数を占めて最も多く、次いで「高校1年生」36.8%である。

「高校生」(高校1年生から高校3年生まで)の合計は約4割(41.4%)であり、高校卒業後は0.6%と極めて少ない。



2) 選んだ理由

デートDV予防啓発時期の選択理由について、338人から記述の回答を得た。主な内容は次の通りである。

中学生以下	デートDVをする、受ける生徒は、中学時代からの傾向がある。そのため高校生からでは遅く、実際に悩んでいる生徒はDVから抜け出せないで、多くの生徒が交際を始める前からすべき。
中学生以下	人権に対する意識は、早い時期から持たせるべき。
中学生以下	性情報に関して、低年齢時から多くの情報を入手している現状があるなかで、公教育もしくは専門教育を早くから行ったほうが良い。
中学生以下	中学で一度、高2か高3でもう一度やってもいいのでは。
中学生以下	高校生ですすでに傷つき、傷つけられるような関係の中において、手遅れであったり、プログラムをまともに受けとめられずトラウマが深くなってしまふ恐れもあります。また、残念ながら性犯罪の被害者となった経験のある生徒や、性非行から立ち直った子の自尊心を傷つけるだけに終わってしまったたり、望ましくない結果となってしまふことも考えられます。
中学生以下	相手(人権)を認めることは、できるだけ若いうち(低年齢)に知ったほうが良い。
中学生以下	人権に対する理解力は十分にあると思います。また、中学生以降なら、いつ加害者・被害者になるかわかりません。身体と精神の成長のバランスがあやうい時期にこそ、予防啓発は必要だと思います。
中学生以下	男女交際も増え、束縛=愛情と勘違いしている人が多い。早い段階でデートDVの存在を知れば、これはおかしいことと気付くきっかけになるから。
中学生以下	異性に対する興味、関心等が、低年齢化しているように思われるので、予防対策が必要と思われまふ。
中学生以下	中学生の時期から、性的なものに興味を持つ時期である。特に女性が被害者になるケースが考えられる。相談をしやすい環境を作ることも大事だと思う。
高校1年生	すでに交際している生徒が数多くいるため、男女の関係を变えるのに良いと思ったから。関係のないと思われまふ生徒でも、知識を身につけるには良い時期だと思う。興味もあると思うから。
高校1年生	中学生ではまだ理解できない年齢だと思います。高校生になると急激に交際範囲や程度が広がると思うので。
高校1年生	「現代社会」を1年生の必修にしている学校が多いので、全員に周知することができるから。また、授業に取り入れることで、本当に知っておいてほしい生徒にも届くから。 高1(特に女子)あたりから交際を始めることが急に増えるので。
高校1年生	高校入学と同時に環境が変わりまふ。新しい環境になると同時に交友関係も変わります。そこで正しい知識を持たせたほうがよいのではと思います。卒業生の中でも、高校の時から付き合い合って結婚という話を聞きます。タイミングとしては高校に入った時が良いと思います。
高校1年生	異性との交際が本格化する頃が一番効果が期待できると思うから。
高校1年生	携帯電話を自由に使い始める年齢、デートが始まる年齢、バイトを始める年齢など、DVの可能性が増大するため。
高校1年生	興味本位ではなく、しっかり考え、受けとめるには、それ相応の年になってからのほうが良いと思う。
高校2年生	性教育などの講演が多くある時期であり、そこにプラスしてできないかと考えまふ。“付き合い合ふこと”だったり、“人間関係”という根本から考え直す、振り返るのに調度いい年代なのでは。
高校2年生	それぞれ違う中学校から入学してきて、学校生活にも慣れ、人間関係もできてきた時期だと思うから。
高校2年生	高1では精神的成長から考えると、まだ不十分だと考える。また、家庭科や保健の授業内容と合わせて考えた。
高校2年生	高1でも良いが、入学早々では、まだ他人事として受けとめる可能性があるため、高1ならば最後の方がよいと思われまふ。高2を選んだのは、異性を意識し始め、交際などもぐっと増える年代で、性にも関心が高まるこの年次が適当ではないかと思われまふ。高3になると、一部の生徒の中に、すでにDVの経験者が出たとも限らなくなる可能性があるため。
必要ない	デートDVがあるという事は知っておく必要はあると思うが、ならないようにするということを教えていくことは難しいと感じる。
その他	人と人との関わり方の延長であると思うので、子どものときからで良いと思う。困ったときに相談できる場所があるということ、早いうちから繰り返し伝えていきたい。

9. 自由記述 (デートDVについて)

特徴別件数

高校生のデートDVについて、自由記述の回答は147件あった。意見の内容は「原因・背景」「対策」「知識や意見」に大別され、それぞれ47件、72件、21件であった。

「原因・背景」としては、「社会環境」として、「社会問題」、「メディア」、「携帯やPC」などが指摘されている。

「対策」としては「啓発教育」の必要性、「相談体制」の整備などが指摘されている。

「知識や意見」では、「実態把握の必要性」などが指摘されている。

ワークショップの実施やデートDVの啓発に否定的な意見は数件見られたが、ワークショップやデートDVの啓発に対して肯定的な記述が多かった。

大分類	件数	中分類	件数	細分類	件数				
原因・背景	47	社会環境	27	社会問題	11				
				メディア	6				
				携帯やPC	4				
				家庭環境	3				
				性行動に問題	1				
				生活環境	1				
				相談しにくい	1				
		未熟さ	11			意識の未熟さ	5		
						愛情表現の未熟さ	2		
						自己表現の未熟さ	2		
						我慢が足りない	1		
						独占欲	1		
		交際のあり方	4	4	高校生の交際	4			
男女の発達の差	3	3	男らしさ・女らしさ	2					
教育	2			男女の発達の差	1				
				教育の方向	1				
対策	72	啓発教育	43	啓発教育が必要	33				
				啓発教育の方法	3				
				身近な問題	2				
				対策教育が必要	2				
				具体的な方法	1				
				女性の人権	1				
				対等な関係	1				
				相談体制	11			相談指導体制	3
								カウンセリング	2
								医師	1
		孤立させない	1						
		指導	1						
		自己尊重	1						
		大人の意識変革	9			兆候を見落とさない	1		
						連携	1		
						教職員の意識改革	3		
						教師間の情報交換	1		
						研修や情報	1		
						人材育成	1		
						生活環境改善	1		
						大人の意識変革	1		
保護者の理解	1								
WSは有効	3	3	プログラムは有効	2					
早い時期から	3			参考になった	1				
				小さいうちから	1				
				小中学生から	1				
教育	1			中学がよい	1				
				高校間格差をなくすべき	1				
社会の体制改善	2	2	社会の体制改善	2					
知識や意見	21	実態把握が必要	8	実態把握が必要	3				
				潜在的にある	2				
				具体事例が必要	1				
				知らないことが問題	1				
				知識として必要	1				
		WSに否定的	7			デートDVの限定的予防対策に疑問	2		
						指導の困難性	2		
						もっと年齢がいったら	1		
						学業第一	1		
		わかりにくい	4			男女交際の教育	1		
						わからない	2		
その他	2			定義がわかりにくい	2				
				DVの方が問題	1				
その他	7	その他	7	あってはならない	1				
				期待	4				
				被害者の意識	1				
				その他	2				
総計					147				

自由記述の抜粋

高校生のデートDVについての意見・感想（抜粋）
男女の良い関係とは何かを具体的に考える授業があってもよいし、今日の寸劇のように子ども達自身に演じさせることは、体験にもなってよい。
結婚後の深刻なDVを防ぐためにも、高校においてもデートDV教育は必須だと思う。この教育が今までなかったこと自体不思議である。交際(結婚)相手を対等なパートナーとして自覚させることは、とても大切です。
予防啓発を人権教育と絡めて学校全体で組織的に勧める必要があると思います。
自分達の恋愛がデートDVだと気が付いていないケースが多くあるように思います。早くそのことに気付き、気付かせることがこれからの将来に必要なようになってくるでしょう。 私に何ができるのか真剣に考えていきたいです。そして、少しでも児童・生徒の役に立てたらと思います。
肉体的暴力のみがDVではないなど、知識を得ることや対策を知っていることは大切なことだと思う。
DV というものを理解していく必要性。こんなことも暴力だし、こんな時はイヤだと言って言いんだ...そんなことを知っていく必要があると感じている。
何がDVに相当するのか、という知識が大切。自分を大切にすることの必要性を伝える。自分自身を持ち、歩いていくことの大切さを伝えたい。
普段から相手の立場になってモノを考えたり、自分の行動の影響・結果を思い描くことをしないまま生きてきたことの延長にあるものだと思う。 “デートDV”に固定(限定)して予防啓発をするのは最終段階だと思う。すでにそこまで深刻な状態なのだろうか？
デートDVをする方にも、される方にも大きな問題がある。どちらか一方に止める意志があれば、専門機関への紹介も可能だが、相手をかばったり、別れたくないと訴える場合が高校生には多いように感じる。断ち切ることは非常に難しい。止めなければいけないことなんだと認識させることが第一歩かもしれない。
本人がデートDVを受けている感覚が薄く、指導しにくい。どこからがデートDVなのか、人により感じ方が違うので。また、家庭環境が複雑な人も多く、別れる事が解決策と言えないところもある気がする。
もう何年も前になりますが、以前から交際していた男性に束縛されている女性がいまして。他の男性の気を引かないようにと髪を切ってしまったり、学校の近くまで迎えに来たり、女生徒は自分しか彼を理解してあげられないと耐えていました。DVの被害者は、相手の幼稚な甘えや暴力に振り回されているうちに、依存してしまうように思います。
以前勤務していた職場で、ベッタリのカップルが妊娠、結婚、出産と進みました。付き合っている時から殴る、大声を出す等、ケンカが絶えませんでした。子どもが生まれてからは女性は母親として大きく成長しても、男性は子どもに自分の座を取られたと感じ、暴力が止まらなると聞きました。 予想される未来を話しても、本人達は聞く耳を持たないことが多かったり、男性がより暴力的になったりして、学校で解決できる問題ではないと思います。
自分が確立できず、パートナーを得ることによって、生きる意味を得たと勘違いしている高校生が多く、束縛されたり、強要されたりすることが、愛情表現であると思いつけ出せない者が多いと思われ。交際相手に全てを預けてしまう幼さを、もっと教育しないとデートDVは増える一方です。家庭の保護者も子どもに愛情を注がないケースが多いです。
異性間のトラブルは少なからず存在しています。中には暴力を愛情表現の一つと曲解している生徒が男女問わずに存在します。早く気付かせてあげることが大人の責任だと考えます。
間違った男らしさ、女らしさに支配されての行動だと思う。自尊心を持つことの大切さを教えるべきだと思う。
付き合うことに対してのハードルが低い。だから相手のことを知らない。そのために必要以上に二人での約束事をつくり、縛りある関係。窮屈に感じてケンカになる。お互いを尊重するような良好な交際をしているのをあまりみない気がする。すぐに告白して、付き合って、SEXする。自分以外の異性とは話さないなどの約束をするケースは非常に多い。 学校生活の中で、多様な友人関係を育み、交流することで人間的な成長がより図れると思うが、規制し合って、とても狭い枠の中で、濃密な人間関係しか築こうとせず、トラブルも非常に多い。同性同士の友人関係もうまく結べないことが多いので、自分に自信が持てず、相手に信頼することができない。
20年前高校生であった頃、仲間内の噂にも上らなかった事柄が、問題として取り上げられる時代となってしまった。根本にある問題は、人間関係における他者理解力の欠如が上げられるのでは。希薄な人間関係が作り出した社会問題の一つであろう。
性・暴力表現を扱ったテレビ、雑誌等が市販されているが、規制すべきである。表現、言論の自由等で出版されているが、自由というのは責任が伴っていくものと思う。
我々が暴力であると考える行為は、彼らにとってはコミュニケーションになっている。メディアもそれを助長するような報道をしていると思う。
相手に嫌われるのが嫌で何でもYesと言ってしまったり、嫌なことをされてもNoと言えない。彼・彼女がいるという充実感だけのために付き合っているようにも見える。また、それぞれがやたらと相手を束縛しているのも気になる。彼女の携帯のアドレス(男友達)を全て削除とか、メールロックを勝手に掛けるとか、行き過ぎとしか考えられない。
プライベートのことなので、教師には深刻な状況になってから伝わってくる人が多いと思う。日頃から生徒を観察しているだけでは把握できないので、専門のメンタルカウンセラーに相談できる環境を作ってあげたい。
産婦人科の医師が校医に一人いればいいなあと考えたことがあります。身体や性に関する正しい情報を医師から聞くことによって、安心するのではないかと思います。男子生徒も女性生徒も親しみを持って相談できる医師がいいと思います。
プライバシーに触れることであり、発見も遅くなってしまうかもしれないが、専門機関等との連携をしっかりと、予防していくことが必要だと思う。何でも「デートDV」などのように名前をつけると、面白がってしまう子どももいると思うので、指導は難しいと思う。
お互いが相手の行動にばかり目を向けている間は、問題の解決に向かわないことが多い。時間をかけて自分の問題に向き合えるよう手伝いたいが、内容によっては専門機関につなげたり、警察の介入を説得したりする必要性を感じます。
実際に体験したり、相談を受けたりしたことがないので、本当にあるの？というのが本音です。

結果と考察

~ 今後に向けて ~

結果と考察 ~ 今後に向けて ~

1. 若年層におけるデートDVの実態

デートDVの被害経験と加害経験について、男女の差が有意であるかを調べるために、カイ二乗検定を行なった。

男女差についての検定結果

全体	女性	男性	男女間の有意差
何らかの被害経験がある	26.7%	14.9%	$p < .001$
何らかの加害経験がある	19.3%	16.0%	なし

男女差についての検定結果(交際経験のある人のみ)

交際経験あり	交際経験のある女性	交際経験のある男性	男女間の有意差
何らかの被害経験がある	38.8%	27.5%	$p < .01$
何らかの加害経験がある	28.0%	29.4%	なし

デートDVについて、何らかの被害経験がある者は、有意に女性の方が多いという結果が出た。また、何らかの加害経験がある者は、男女間に有意な差が見られなかった。

交際経験のある者のうち、何らかの被害経験がある者は、有意に女性の方が多いという結果が出た。また、何らかの加害経験がある者は、男女間に有意な差が見られなかった。

これらの結果より、高校生・大学生では、女性の4人に1人の割合でデートDVの被害を受けていることや、交際しているカップルの3組に1組の割合でデートDVが起こっていることが見えてきた。

デートDVの行為別の男女差についての検定結果

デートDVの行為	被害・加害	女性	男性	男女間の有意差
身体的暴力（たたく、ける、物を投げつける）注	被害経験	10.2%	8.2%	なし
	加害経験	9.8%	5.1%	$p < .05$
精神的暴力（バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる）	被害経験	17.0%	8.8%	$p < .01$
	加害経験	14.1%	12.8%	なし
行動の制限（メールのチェックや友達づきあいを制限する）	被害経験	15.2%	9.8%	なし
	加害経験	8.0%	3.5%	$p < .05$
性的暴力（性的な行為を無理やりする）	被害経験	8.0%	2.4%	$p = .001$
	加害経験	0.4%	2.9%	$p < .01$
経済的暴力（デートの費用やお金を無理やり出させる）	被害経験	3.0%	2.4%	なし
	加害経験	2.4%	2.7%	なし

注；「たたく、ける、物を投げつける」という行為に関して、「たたく」ことを例にとっても、女性が男性を「たたく」と男性が女性「たたく」とは、力の差が大きく違うことを留意して数値を見る必要がある。

身体的暴力・・・被害経験において男女間に有意な差はみられず、加害経験において女性の方が有意に多いという結果が出た。

精神的暴力・・・被害経験において女性の方が有意に多く、加害経験において男女間に有意な差は見られなかった。

行動の制限・・・被害経験において男女間に有意な差はみられず、加害経験において女性の方が有意に多いという結果が出た。

性的暴力 …被害経験において女性の方が有意に多く、加害経験において男性の方が有意に多いという結果がでた。

経済的暴力…被害・加害とも男女間に有意な差は見られなかった。

これらの結果から、「性的暴力」でのみ、女性が被害を受け、男性が加害していることで一致したが、「身体的暴力」「精神的暴力」「行動の制限」では、被害・加害ともに女性のほうが男性よりも数値が大きく出ており、これらの要因として、男性の加害意識が女性に比べて低いことや、女性の暴力に対する感度が(被害経験・加害経験のいずれにおいても)男性に比べて高いことなどが考えられる。

2. 予防啓発プログラムの効果と課題

(1) ワークショップ形式による予防啓発プログラム

今回使用したプログラムでは、「自分の気持ちを大切にすること」や、互いに対等な関係であるためのコミュニケーションを、参加者一人ひとりが考えることができるよう、クラス単位でのワークショップ形式を採用した。また、深刻なイメージのある DV(ドメスティック・バイオレンス)を自分自身にも起こりうる身近なこととして感じられるよう、デートDVの現場の寸劇を見た後、グループワークで考えるという手法を用いた。

(2) ワークショップ実施による効果

ワークショップ受講前では、DVについては7割の人が言葉を知っていたのに対して、デートDVは2割に留まっていた。暴力の認識についても、「たたく、ける、物を投げつける」、「性的な行為を無理やりする」では、8割の人が暴力と認識していたが、「メールのチェックや友達づきあいを制限する」は3割、「デートの費用やお金を無理やり出させる」は5割弱と、他に比べて暴力の認識が低かった。ワークショップ受講後では、デートDVの行為を「暴力」と認識する割合が高くなっており、暴力との認識が低かった「メールのチェックや友達づきあいを制限する」「デートの費用やお金を無理やり出させる」では、7割前後へと上昇した。

調査結果からは、ワークショップの受講によって、これまで交際相手から受けていた行為、交際相手にしていた行為、あるいは周囲で見聞きしていた行為が、「デートDV」であり、「暴力」であったことに気づくことができた点について効果があったと考えられる。デートDV加害経験者の約半数が、ワークショップ受講後に「これからはやめようと思う」と回答しているほか、自由記述欄には「自分ではやらないようにしたい」「されていたことに気づいた」「友達がデートDVで困っていたら助けてあげたい」など、たくさんの気づきがあったことが伺われており、ワークショップ形式による予防啓発プログラムは一定の効果があったといえる。

(3) 教職員向けの研修

生徒のデートDVを見聞きした経験がある教職員は37.2%であるが、養護教諭・カウンセラーでみると、全員が見聞き(「よくある」67.6%、「たまにある」32.4%の計)しており、デートDVの防止や起こった際の対応には重要な役割を担うと考えられる。

しかし、デートDVの防止に向けては、学校全体として取組を推進していく必要がある。そのためには、正しい理解と、発生した際の具体的な対応方法などについて、教職員向けに研修していくことが非常に重要であると考えられる。

(4) ワークショップ形式による予防啓発プログラムの課題

これらのことから、参加型ワークショップ形式による予防啓発プログラムは、女性への暴力を根絶していくためにも有効である結果を得ることができた。しかし、実施していくうえでは、ワークショップを実施する人材の育成、学校への働きかけや調整、予算の確保、受け入れる学校における授業時間の確保といった課題がある。そのため、本調査で得られた結果を関係者で共通認識し、ワークショップの実施と課題解決に向けて連携をより強化しながら対応していくことが求められる。

調査票

< 生徒用 >

< 教職員用 >

デートDVについての意識・実態調査

調査ご協力をお願い

本日は、デートDV 予防ワークショップに参加いただきありがとうございました。

暴力の予防啓発に向けた取組を進めるための資料とするため、アンケート調査にご協力をお願いします。

- 1) お名前を書く必要はありません。統計的に処理しますので、ひとりひとりの回答内容が、学校や保護者等に知られることはなく、プライバシーは守られます。
- 2) ご協力いただけるかどうかは、自由意志によります。ご協力いただけても不利益を受けることは全くありません。
- 3) ご記入いただいた回答は、この調査の目的以外に使用することはありません。
- 4) この調査は、他校でも実施し、そのデータを合算し統計的処理を行った全体の結果を、横浜市がホームページ等で公表します。

ご記入にあたってのお願い

調査票の問1から順番に記入してください。回答内容により、次に進む質問が指示されています。

他の回答者と相談せずに自分で考え、あてはまる数字に 印をつけてください。

答えられないことや答えたくない質問は、記入しなくて結構です。

質問のある方は、手をあげてスタッフまたは担当の先生に聞いてください。

この調査票は、所定の時間内に提出してください。最後まで記入できなくてもかまいません。

横浜市市民活力推進局男女共同参画推進課
特定非営利活動法人エンパワメントかながわ

問1. あなたの性別は・・・ 男性 女性

問2. あなたの学年は・・・ 年 生 (数字を記入)

問3. 「DV(ドメスティック・バイオレンス)」という言葉、このワークショップを受ける前から知っていましたか? はい いいえ

問4. 「デートDV」という言葉を、このワークショップを受ける前から知っていましたか? はい いいえ

問5. あなたは、今回のワークショップを受ける前に、交際相手から以下の行為があった場合、「暴力」だと思っていましたか? (それぞれ、あてはまる数字に をつけてください。)

交際相手から	暴力だと思っ ていた	暴力だと思わな かった	わからない
A: たたく、ける、物を投げる	1	2	3
B: バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる	1	2	3
C: メールのチェックや友達づきあいを制限する	1	2	3
D: 性的な行為を無理やりする	1	2	3
E: デートの費用やお金を無理やり出させる	1	2	3

問6. あなたは、ワークショップを受けてみて、現在、交際相手から以下の行為があった場合、「暴力」だと思いますか? (それぞれ、あてはまる数字に をつけてください。)

交際相手から	暴力だと思 う	暴力だと思わな い	わからない
A: たたく、ける、物を投げる	1	2	3
B: バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる	1	2	3
C: メールのチェックや友達づきあいを制限する	1	2	3
D: 性的な行為を無理やりする	1	2	3
E: デートの費用やお金を無理やり出させる	1	2	3

問7. あなたは、今までに交際したことがありますか? はい いいえ

問8. あなたは、以下のような行為(デートDV)をされたり、したり、あるいは自分のまわりで見聞きしたことがありますか? (それぞれ、あてはまるすべての数字に をつけてください。) **ひとつもない方は、P.4の問15に進んでください。**

交際中に	されたかもしれ ない	したかもしれない	見たり聞いたり したことがある
A: たたく、ける、物を投げる	1	2	3
B: バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声でどなる	1	2	3
C: メールのチェックや友達づきあいを制限する	1	2	3
D: 性的な行為を無理やりする	1	2	3
E: デートの費用やお金を無理やり出させる	1	2	3
F: その他(具体的に)	1	2	3

問8でA～Fの「されたかもしれない」の1にひとつでも をつけた方 問9と問10を回答

「したかもしれない」の2にひとつでも をつけた方 問11と問12を回答

「見たり聞いたりしたことがある」の3にひとつでも をつけた方 問13と問14を回答

1 デートDVをされたかもしれない方(問8で1にひとつでも つけた方)が回答してください。

問9 . 今回のワークショップを受ける前に、そのことに対して、何かしてみましたか？

(してみたことすべてに)

- | | | |
|--------------|---------------|-------|
| 1 相手にイヤだと言った | 2 <u>相談した</u> | 3 別れた |
| 4 特に何もしていない | 5 その他() | |

2に をした方へ「相談した」のは、誰ですか？(相談したすべての人に)

- | | | | | |
|------|-----|------|--------|----------|
| 1 友達 | 2 親 | 3 先生 | 4 相談機関 | 5 その他() |
|------|-----|------|--------|----------|

問10 . ワークショップを受けてみて、今後は、そのことに対して、何かしたいと思いますか？

(したいと思うことすべてに)

- | | | |
|---------------|----------------|--------|
| 1 相手にイヤだと言いたい | 2 <u>相談したい</u> | 3 別れたい |
| 4 特に何もしない | 5 その他() | |

2に をした方へ「相談したい」と思うのは、誰ですか？(相談したい人すべてに)

- | | | | | |
|------|-----|------|--------|----------|
| 1 友達 | 2 親 | 3 先生 | 4 相談機関 | 5 その他() |
|------|-----|------|--------|----------|

2 デートDVをしたかもしれない方(問8で2にひとつでも つけた方)が回答してください。

問11 . 今回のワークショップを受ける前に、そのことに対して、何かしてみましたか？

(してみたことすべてに)

- | | | |
|-----------------|---------------|-------|
| 1 自分からデートDVをやめた | 2 <u>相談した</u> | 3 別れた |
| 4 特に何もしていない | 5 その他() | |

2に をした方へ「相談した」のは、誰ですか？(相談したすべての人に)

- | | | | | |
|------|-----|------|--------|----------|
| 1 友達 | 2 親 | 3 先生 | 4 相談機関 | 5 その他() |
|------|-----|------|--------|----------|

問12 . ワークショップを受けてみて、今後は、そのことに対して、何かしたいと思いますか？

(したいと思うことすべてに)

- | | | |
|----------------|----------------|--------|
| 1 これからはやめようと思う | 2 <u>相談したい</u> | 3 別れたい |
| 4 特に何もしない | 5 その他() | |

2に をした方へ「相談したい」と思うのは、誰ですか？(相談したい人すべてに)

- | | | | | |
|------|-----|------|--------|----------|
| 1 友達 | 2 親 | 3 先生 | 4 相談機関 | 5 その他() |
|------|-----|------|--------|----------|

3 デートDVを見たり、聞いたりしたことがある方(問8で3にひとつでも つけた方)が回答してください。

問13 . 今回のワークショップを受ける前に、そのことに対して、何かしてみましたか？

(してみたことすべてに)

- | | | |
|-------------|--------------------|--|
| 1 本人と話し合った | 2 <u>別の誰かに相談した</u> | |
| 3 特に何もしていない | 4 その他() | |

2に をした方へ「相談した」のは、誰ですか？(相談したすべての人に)

- | | | | | |
|------|-----|------|--------|----------|
| 1 友達 | 2 親 | 3 先生 | 4 相談機関 | 5 その他() |
|------|-----|------|--------|----------|

問14 . ワークショップを受けてみて、今後は、その人に対して、何かしたいと思いますか？

(したいと思うことすべてに)

- | | | |
|-------------|---------------------|--|
| 1 本人と話し合いたい | 2 <u>別の誰かに相談したい</u> | |
| 3 特に何もしない | 4 その他() | |

2に をした方へ「相談したい」と思うのは、誰ですか？(相談したい人すべてに)

- | | | | | |
|------|-----|------|--------|----------|
| 1 友達 | 2 親 | 3 先生 | 4 相談機関 | 5 その他() |
|------|-----|------|--------|----------|

全員が回答してください。

問15. このワークショップを受けるのは、いつごろがよいと思いますか？

1 中学生以下	2 高校1年生	3 高校2年生	4 高校3年生
5 高校卒業後	6 必要ない	7 その他()	

問16. このワークショップを受ける前と受けた後で、次の項目に対して考えが変わりましたか？

(それぞれ、あてはまる数字に をつけてください。)

	ワークショップを受ける前			ワークショップを受けた後		
	そう思っていた	そう思っていなかった	わからない	そう思う	そう思わない	わからない
A: 暴力は決して許されない行為である	1	2	3	1	2	3
B: 暴力を受けている人に、責任は いっさいない	1	2	3	1	2	3
C: 誰もが暴力を受けずに生きていく権利を持っている	1	2	3	1	2	3
D: 交際相手・恋人の間でも暴力が起こる	1	2	3	1	2	3
E: お互いの気持ちを認め合うことが大切である	1	2	3	1	2	3
F: 自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを聴くことが大切である	1	2	3	1	2	3

問17. あなたは、このワークショップを受けた内容を、活用できると思いますか？

1 はい	2 いいえ	3 わからない
------	-------	---------

1 「はい」に をした方へ どんなことができそうですか？(できそうなことすべてに)

1 暴力はしないようにする	2 暴力はイヤだとはっきり言う
3 自分の気持ちを伝え話し合う	4 被害にあったら別れる
5 相談する	6 その他()

問18. デートDVについて、自由に意見や感想をお書きください。

=== ご協力ありがとうございました ===

デートDVについての意識・実態調査（教職員用）

調査ご協力をお願い

暴力の予防啓発に向けた取組を進める基礎資料とするため、アンケート調査にご協力をお願いします。

- 1) 回答は、あてはまる数字に 印をつけてください。
- 2) お名前を書く必要はありません。この調査は、他校でも実施し統計的に処理しますので、ひとりひとりの回答内容が、知られることはありません。
- 3) 調査結果は、横浜市ホームページ、横浜市市民情報センター等で公表します。
- 4) ご記入いただいた回答は、この調査の目的以外に使用することはありません。

横浜市市民活力推進局男女共同参画推進課
特定非営利活動法人エンパワメントかながわ

「ドメスティック・バイオレンス」とは、英語の「domestic violence」をカタカナで表記したもので、略してDVと呼ばれています。

一般的には、夫や恋人など親密な関係にある、又はあった男性から女性に対して振られる暴力という意味で使用されています。

特に、**恋人同士の間で起こるDVのことを「デートDV」といいます。**

デートDVで見られる暴力を、本調査では次の5つの種類に分けます。

暴力の種類 交際中の恋人同士の間で

- A: **身体的暴力** たたく。蹴る。なぐる。物を投げつける。
- B: **精神的暴力** バカにする。傷つく言葉を言う。大声で怒鳴る。物を壊す。
- C: **社会的隔離** メールのチェックをする。友人関係を制限して孤立させる。
- D: **性的暴力** 性的な行為を強要する。避妊に協力しない。無理やりポルノを見せる。
- E: **経済的暴力** デートの費用やお金を無理やり出させる。お金を借りたまま返さない。

問1. DV(ドメスティック・バイオレンス)について、知っていましたか？

1 意味を知っていた。 2 言葉を聞いたことがある。 3 知らなかった。

問2. デートDVについて、知っていましたか？

1 意味を知っていた。 2 言葉を聞いたことがある。 3 知らなかった。

問3. 生徒から、恋愛や男女交際について相談されたことがありますか？

1 よくある。 2 たまにある。 3 全くない。

問4. あなたの職場で、生徒のデートDVを見聞きしたことがありますか？

1 よくある。 2 たまにある。 3 全くない。

問5. 生徒のデートDVを見聞きしたことがある方にお訪ねします。

下記の暴力の種類ごとに、あなたが見聞きしたこと全てに をつけてください。

暴力の種類	男性から女性へ	女性から男性へ
A: たたく、蹴る、物を投げつける	1	2
B: バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声で怒鳴る	1	2
C: メールのチェックや友達つきあいを制限する	1	2
D: 性的な行為を無理やりする	1	2
E: デートの費用やお金を無理やり出させる	1	2

問6. 生徒から、デートDVについて相談されたことがありますか？

1 よくある。 2 たまにある。 3 全くない。

問7. 生徒から、デートDVについて相談されたことがある方にお訪ねします。

下記の暴力の種類ごとに、あなたが相談されたこと全てに をつけてください。

暴力の種類	男性から女性へ	女性から男性へ
A: たたく、蹴る、物を投げつける	1	2
B: バカにしたり、傷つく言葉を言う、大声で怒鳴る	1	2
C: メールのチェックや友達つきあいを制限する	1	2
D: 性的な行為を無理やりする	1	2
E: デートの費用やお金を無理やり出させる	1	2

問8. もし、生徒からデートDVの相談を受けたとき、あなたは、どう対応しますか。

あてはまるもの3つに をつけてください。

1 良く話を聴く。	2 相手にイヤだと言うように薦める。	3 別れるよう薦める。
4 専門機関を紹介する。	5 他の先生に相談する。	6 保護者に連絡する。
7 加害者に連絡する。	8 事実確認をする。	9 警察に連絡する。
10 わからない。	11 その他()	

問9 . デートDV が起こる理由として、どんなことが考えられますか？

あてはまるもの3つに をつけてください。

1 家庭環境 (DV や虐待)	2 固定的な性的役割分担意識 (男らしさ女らしさ)
3 性・暴力表現を扱ったメディアの情報	4 友人同士の異性に関する会話
5 女性の人権の軽視	6 交際相手との性経験
7 その他 ()	

問10 . デートDV の予防啓発を受けるのは、いつ頃がよいと思いますか？ (1つに を)

1 中学生以下	2 高校1年生	3 高校2年生	4 高校3年生
5 高校卒業後	6 必要ない	7 その他 ()	

問11 . 問10 の回答を選んだ理由を、具体的にお書きください。

問12 . 高校生のデートDV について、自由に意見や感想をお書きください。

問13 . あなたの性別は . . .

1 男性	2 女性
------	------

問14 . あなたの年齢は . . .

1 20代	2 30代	3 40代	4 50代以上
-------	-------	-------	---------

問15 . あなたの職種は . . .

1 管理職	2 一般教員	3 養護教諭
4 カウンセラー	5 その他 ()	

問16 . あなたの勤務先は . . .

1 県立	2 市立	3 私立
------	------	------

1 共学	2 男子校	3 女子校
------	-------	-------

1 全日制	2 定時制	3 その他 ()
-------	-------	-----------

*** ご協力ありがとうございました ***

デートDVについての意識・実態調査報告書

平成 20 年 3 月発行

発行 横浜市市民活力推進局男女共同参画推進課
〒231-0017 横浜市中区港町 1 - 1
電話 045 (671) 2017 (直通)
FAX 045 (663) 3431

調査担当 特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ
電話 045 (323) 1818

横浜市広報印刷物登録 第 190722 号
類別・分類 A - D B 0 5 0
